

令和5年度

# セカンドスクール・プレセカンドスクール

## 実施報告書

令和6年3月

武蔵野市教育委員会



GOOD DESIGN AWARD  
2015年度受賞

【表紙写真】 大野田小学校セカンドスクール（長野県飯山市）

# も く じ

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯	2
武蔵野市長期宿泊体験活動実施要綱	7
セカンドスクール実施地・泊数の変遷	9
プレセカンドスクール実施地・泊数の変遷	14
令和5年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表	17
各小中学校の日程及び主な活動内容	
＜小学校セカンドスクール＞	
第一小学校	20
第二小学校	25
第三小学校	30
第四小学校	35
第五小学校	40
大野田小学校	45
境南小学校	50
本宿小学校	55
千川小学校	60
井之頭小学校	65
関前南小学校	70
桜野小学校	75
＜中学校セカンドスクール＞	
第一中学校	82
第二中学校	86
第三中学校	90
第四中学校	94
第五中学校	98
第六中学校	102
＜プレセカンドスクール＞	
第一小学校	108
第二小学校	112
第三小学校	116
第四小学校	120
第五小学校	124
大野田小学校	128
境南小学校	132
本宿小学校	136
千川小学校	140
井之頭小学校	144
関前南小学校	148
桜野小学校	152



- 平成15年度
  - ・小学校4年生を対象としたプレセカンドスクール\*を4校にて試行。  
\*プレセカンドスクール…セカンドスクールでの学習効果を更に高めることを目的とした、小学校4年生を対象として行う短期宿泊体験学習。
  - ・武蔵野市のセカンドスクールが、「第1回オーライ！ニッポン大賞」に選定される。
- 平成16年度
  - ・プレセカンドスクールを10校にて試行。
  - ・「セカンドスクール10周年記念フォーラム」を武蔵野公会堂にて開催。
- 平成17年度
  - ・プレセカンドスクールを小学校全12校にて実施。
  - ・「体験活動検討委員会」を設置。
- 平成19年度
  - ・教育を取り巻く国の動きや社会の変化に適応するための課題を整理・検討し、「武蔵野市体験活動検討委員会報告書」にまとめる。
- 平成20年度
  - ・文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第三小学校、第四小学校、本宿小学校、千川小学校、桜野小学校、第一中学校が対象となる。
  - ・学習指導要領改訂を踏まえ、教育課程検討委員会において、セカンドスクール等の教育課程への位置付けに関する見直しを行う。
- 平成21年度
  - ・新型インフルエンザ流行により、小学校2校でセカンドスクール（桜野小学校）、プレセカンドスクール（境南小学校）の日程を変更し、実施日数、活動内容を変更して行う。
  - ・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、第二小学校、第五小学校、大野田小学校、境南小学校、本宿小学校、井之頭小学校が対象となる。
- 平成22年度
  - ・麻しんの影響で第三中学校が日程を変更。
  - ・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、境南小学校、千川小学校が対象となる。
  - ・東京都の「小学校における自然体験活動プログラム開発支援事業」が実施され、委託校として、関前南小学校が対象となる。
  - ・セカンドスクールの効果検証のため、「セカンドスクールにおける体験活動の教育的な効果の調査」を実施。
  - ・小学校の新学習指導要領への対応や、各校の体験活動の共有のため、「セカンドスクール実践報告会」を実施した。また、活動の実践事例集を作成（～平成24年度）。
- 平成23年度
  - ・東日本大震災の影響により、セカンドスクールでは第五小学校、千川小学校、関前南小学校、桜野小学校、プレセカンドスクールでは第一小学校、第二小学校、大野田小学校、桜野小学校が実施地を変更した。第五小学校、関前南小学校、桜野小学校のセカンドスクールは、泊数も変更。
  - ・強い余震の発生に備え、衛星携帯電話の貸与、飲料水ペットボトル・防災食品の配布等の対応。また、プレセカンドスクールでは、全期間バスの借上げを行う。
- 平成25年度
  - ・第8回むさしの教育フォーラムにて「セカンドスクールで学び合う子どもたち」をテーマに第五小学校、第一中学校が特色ある体験活動や実践事例を紹介。生きる力の育成について、取り組みを共有。



- 平成26年度
  - ・「セカンドスクール実践報告会」を実施。
  - ・文部科学省、農林水産省、総務省、環境省および国会議員による視察が行われる（長野県飯山市）。
- 平成27年度
  - ・実施20年目を迎えたセカンドスクールの取り組みが、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「2015年度グッドデザイン賞」を受賞。審査では「内容もこれまでの経験が集約されていて、子どもたちにとっては貴重な体験になっていると想像しています。」との評価をいただく。
  - ・市立全小中学校で小・中学校合同セカンドスクール報告会を実施。
  - ・「セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果の調査」を実施。
  - ・セカンドスクールの取組を紹介するDVD、パンフレットを作成した。
  - ・「季刊むさしの」（2015冬号）、「市報1面」（平成27年12月15日号）、「きょういく武蔵野」1面（平成27年12月15日号）にセカンドスクール特集として掲載。
  - ・全国教育長会（厚木市）で、教育長によるセカンドスクールの発表を行う。
- 平成28年度
  - ・「セカンドスクール実践報告会」を実施。
  - ・「教育委員会月報」（平成28年7月号、文部科学省発行）に、特色ある取組としてセカンドスクールについて掲載される。
  - ・一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構による「長期宿泊体験に関する調査研究」（文部科学省委託事業）に協力する。
- 平成29年度
  - ・小中学校のセカンドスクールの連携と事例の共有を図るため「セカンドスクール担当者連絡会」を実施。
  - ・「初等教育資料」（2017年8月号、文部科学省発行）に、特色ある教育事業としてセカンドスクールについて掲載される。
  - ・文部科学省の「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」を中学校6校について申請し、「健全育成のための体験活動推進事業」として認められる。
- 平成30年度
  - ・「セカンドスクール担当者連絡会」を実施。
  - ・井之頭小学校がプレセカンドスクールの実施地を群馬県片品村から東京都奥多摩町へ変更。
  - ・文部科学省の「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」を小学校6校、中学校6校について申請し、「健全育成のための体験活動推進事業」として認められる。
- 令和元年度
  - ・第三小学校が、セカンドスクールとプレセカンドスクールの実施地を入れ替え、セカンドスクールを新潟県南魚沼市、プレセカンドスクールを群馬県片品村で行う。
  - ・第四中学校が長野県飯山市から群馬県みなかみ町へ実施地を変更。
  - ・新学習指導要領との調和、事業の持続可能性の検討等を行うため、「長期宿泊体験活動検討委員会」を設置。
  - ・内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局の「子供の農山漁村体験活動の充実・推進に向けた手引き」において、大野田小学校と第四中学校のセカンドスクールの事例が掲載される。
  - ・新潟県グリーン・ツーリズム推進協議会の「子ども農山漁村体験の果たす教育的意義」をテーマとした講演会において、セカンドスクールの意義について講演を行う。
- 令和2年度
  - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全校中止。
  - ・令和元年度に設置した「長期宿泊体験活動検討委員会」が、令和2

年度末に終了。

検討委員会での協議を踏まえ、新たな活動内容や育成を目指す資質・能力について、パブリックコメントを募集し、報告書にまとめる。(P. 6 参照)

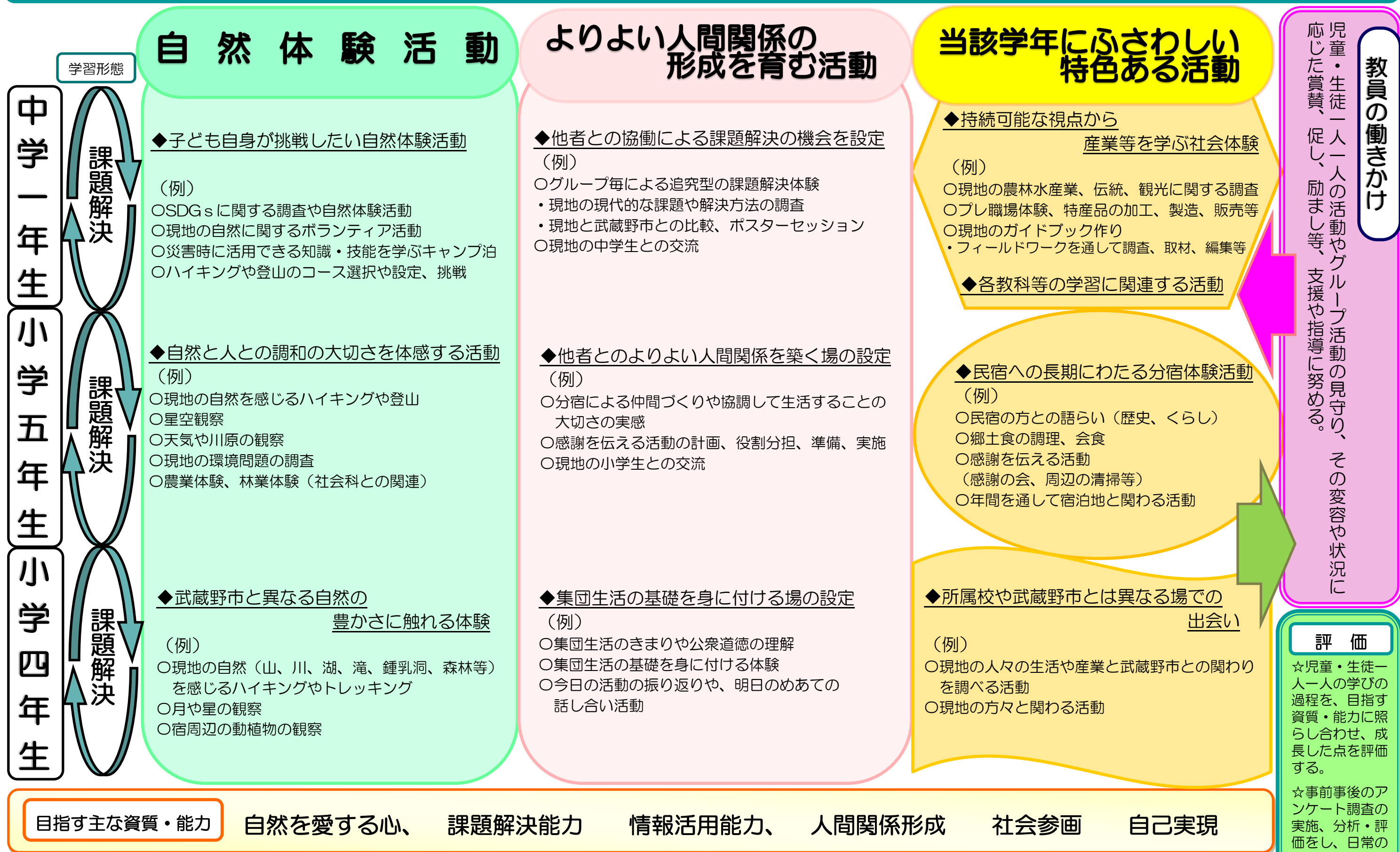
- 令和 3 年度
  - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、日程変更・宿泊数の短縮・活動内容の変更等をして実施。なお、セカンドスクールでは、関前南小学校、プレセカンドスクールでは、第二小学校、第四小学校が中止。
  - ・令和 2 年度に設定した、活動内容や育成を目指す資質・能力を明確にするため、実施要綱の改訂を行う。(令和 4 年 4 月 1 日施行)
- 令和 4 年度
  - ・新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、3 年ぶりにセカンドスクール・プレセカンドスクール共に全校で実施。
  - ・子どもたちの「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査を実施。
  - ・セカンドスクール・プレセカンドスクールにおいて育成を目指す資質・能力について、「①知識・技能の習得に関すること②思考力・判断力・表現力等の育成に関すること③学びに向かう力・人間性等の涵養に関すること」から「①自然を愛する心②課題解決能力、情報活用能力③人間関係形成、社会参画、自己実現」に変更。
  - ・プレセカンドスクールでは、第二小学校が山梨県山中湖村、第三小学校が新潟県南魚沼市、境南小学校が山梨県山中湖村に実施地を変更。
- 令和 5 年度
  - ・セカンドスクールでは境南小学校が新潟県南魚沼市、プレセカンドスクールでは第一小学校が山梨県山中湖村、第四小学校が東京都奥多摩町に実施地を変更。
  - ・インフルエンザ流行により、境南小学校がセカンドスクールの実施日数、活動内容を変更して実施。
  - ・「長期宿泊体験活動検証委員会」を設置。

## セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯

- 平成元年度
  - ・武蔵野市学校経営検討委員会「生き生きとした子どもの育成を目指し、地域と一体となって進める特色ある学校づくり」(報告書)でセカンドスクールを提言。
  - ・武蔵野市セカンドスクール構想委員会発足。
- 平成2年度
  - ・セカンドスクール構想委員会「武蔵野市セカンドスクール構想報告書」で基本的な構想と予想される問題等についてまとめる。
- 平成3年度
  - ・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会発足。
- 平成4年度
  - ・「夏季山村生活体験学習」(セカンドスクール試行期間中の名称)として、長野県八坂村にて夏季休業中に6泊7日で試行。小学校6年生と中学校1年生を対象に募集し、30名が参加して行われる。
  - ・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会「武蔵野市・セカンドスクールの実施に向けて」(報告書)で具体的な活動内容・方法等についてまとめる。
- 平成5年度
  - ・対象学年・活動内容・宿泊日数等を検討するため、セカンドスクール構想による「山村生活体験教室」(セカンドスクール試行期間中の名称)として、岩手県遠野市にて夏季休業中に12泊13日で試行。小学校4年生から中学校2年生を対象に募集し、100名が参加して行われる。
  - ・対象学年を小学校5年生、中学校1年生が適当であるとの結論を出す。
- 平成6年度
  - ・市内小中学校教員から構成される「セカンドスクール推進委員会」を設置し、教育課程に位置付ける要件等の検討を行うとともに、教材テキスト等を作成。
  - ・小学校5年生と中学校1年生の教育課程に位置付けるために必要な要件を検討するため、岩手県遠野市にて、前年度と同様に試行。
- 平成7年度
  - ・小学校全13校が学期中に岩手県遠野市、長野県高遠町、富山県利賀村、新潟県小国町、山梨県中富町・高根町の6か所で、3泊4日～7泊8日で実施。
  - ・中学校は全6校の1年生から希望者(70名)を募り、合同で夏季休業中に長野県豊科町において、6泊7日で実施。
- 平成8年度
  - ・小中学校全18校が学期中に実施。
  - ・「セカンドスクール教材開発委員会」を設置し、提言されている総合学習に趣旨が生かされるように教材開発を行い、「セカンドスクール教材・事例集」を作成。
- 平成9年度
  - ・「セカンドスクール教材・事例集」を参考に、各学校が年間指導計画の作成、学習内容の変更などの工夫を図り、実施場所の特性を生かした活動内容を模索。
- 平成10年度
  - ・各学校が、平成14年度から創設される「総合的な学習の時間」を見据えた活動内容を模索し、創意工夫した実践を試みる。
- 平成14年度
  - ・「武蔵野市セカンドスクール充実検討委員会」を設置。さらなる充実・発展に向けて検討し、「報告書」にまとめる。



# 今後の武蔵野市長期宿泊体験活動の内容の体系



## 自然体験活動

- ◆子ども自身が挑戦したい自然体験活動  
(例)  
○SDGsに関する調査や自然体験活動  
○現地の自然に関するボランティア活動  
○災害時に活用できる知識・技能を学ぶキャンプ泊  
○ハイキングや登山のコース選択や設定、挑戦
- ◆自然と人との調和の大切さを体感する活動  
(例)  
○現地の自然を感じるハイキングや登山  
○星空観察  
○天気や川原の観察  
○現地の環境問題の調査  
○農業体験、林業体験（社会科との関連）
- ◆武蔵野市と異なる自然の豊かさに触れる体験  
(例)  
○現地の自然（山、川、湖、滝、鍾乳洞、森林等）を感じるハイキングやトレッキング  
○月や星の観察  
○宿周辺の動植物の観察

## よりよい人間関係の形成を育む活動

- ◆他者との協働による課題解決の機会を設定  
(例)  
○グループ毎による追究型の課題解決体験  
・現地の現代的な課題や解決方法の調査  
・現地と武蔵野市との比較、ポスターセッション  
○現地の中学生との交流
- ◆他者とのよりよい人間関係を築く場の設定  
(例)  
○分宿による仲間づくりや協調して生活することの大切さの実感  
○感謝を伝える活動の計画、役割分担、準備、実施  
○現地の小学生との交流
- ◆集団生活の基礎を身に付ける場の設定  
(例)  
○集団生活のきまりや公衆道徳の理解  
○集団生活の基礎を身に付ける体験  
○今日の活動の振り返りや、明日のめあての話し合い活動

## 当該学年にふさわしい特色ある活動

- ◆持続可能な視点から産業等を学ぶ社会体験  
(例)  
○現地の農林水産業、伝統、観光に関する調査  
○プレ職場体験、特産品の加工、製造、販売等  
○現地のガイドブック作り  
・フィールドワークを通して調査、取材、編集等
- ◆各教科等の学習に関連する活動
- ◆民宿への長期にわたる分宿体験活動  
(例)  
○民宿の方との語らい（歴史、くらし）  
○郷土食の調理、会食  
○感謝を伝える活動（感謝の会、周辺の清掃等）  
○年間を通して宿泊地と関わる活動
- ◆所属校や武蔵野市とは異なる場での出会い  
(例)  
○現地の人々の生活や産業と武蔵野市との関わりを調べる活動  
○現地の方々と関わる活動

### 教員の働きかけ

児童・生徒一人一人の活動やグループ活動の見守り、その変容や状況に応じた賞賛、促し、励まし等、支援や指導に努める。

### 評価

☆児童・生徒一人一人の学びの過程を、目指す資質・能力に照らし合わせ、成長した点を評価する。  
☆事前事後のアンケート調査の実施、分析・評価をし、日常の教育活動や次年度のプログラムに生かす。

目指す主な資質・能力 自然を愛する心、 課題解決能力 情報活用能力、 人間関係形成 社会参画 自己実現

【表の見方について】 この表は、長期宿泊体験活動検討委員会で協議されたこと、学習指導要領に示されていることなどを基に作成した各学年における長期宿泊体験活動中における体験活動の例示です。各学校で、体験活動の実施プログラムなどを組む場合の一つの参考例として示しました。なお、現地のガイドブック作り、郷土食の調理、宿の方との語らい等々、そのねらいや、内容・方法等がその学年段階に応じたものであれば、小学校でも中学校でも計画化できます。学校の実態や現地の特色を踏まえて、学年の枠は弾力的に考えてください。

## 武蔵野市長期宿泊体験活動実施要綱

### (目的)

第1条 この要綱は、武蔵野市立の小学校及び中学校に在籍する児童及び生徒が自然に恵まれた農山漁村に長期間滞在し、授業の一部として、普段の学校生活（以下「ファーストスクール」という。）では体験し難い総合的な体験学習活動（以下「長期宿泊体験活動」という。）を実施し、自然を愛する心、課題解決能力、情報活用能力並びに人間関係形成、社会参画、自己実現に係る資質及び能力を育むことを目的とする。

### (長期宿泊体験活動の区分)

第2条 長期宿泊体験活動の区分及び実施学年は、次のとおりとする。

- (1) プレセカンドスクール 小学校第4学年で実施するもの
- (2) 小学校セカンドスクール 小学校第5学年で実施するもの
- (3) 中学校セカンドスクール 中学校第1学年で実施するもの

### (活動内容)

第3条 長期宿泊体験活動の活動内容は、小学校セカンドスクールを基準として、プレセカンドスクール及び中学校セカンドスクールの内容及び方法を、次に掲げる具体的な活動内容を参考に、系統性をもって、発展及び充実をさせるよう各学校が創意工夫して学習活動を計画し、実施するものとする。

- (1) 自然体験活動 主にプレセカンドスクールにあつては武蔵野市とは異なる自然の豊かさに触れる活動、小学校セカンドスクールにあつては自然と人との調和の大切さを体感する活動、中学校セカンドスクールにあつては生徒が挑戦したい自然体験活動を設定する。
- (2) よりよい人間関係の形成を育む活動 主にプレセカンドスクールにあつては集団生活の基礎を身に付ける活動、小学校セカンドスクールにあつては他者とのよりよい人間関係を築く活動、中学校セカンドスクールにあつては他者との協働による課題解決をする活動を設定する。
- (3) 当該学年にふさわしい特色ある活動 主にプレセカンドスクールにあつてはファーストスクール及び武蔵野市とは異なる場所での人々との出会いがある活動、小学校セカンドスクールにあつては長期にわたる民宿での分宿体験活動、中学校セカンドスクールにあつては持続可能な視点から産業等を学ぶ社会体験及び各教科等の学習に関連する活動を設定する。

2 授業時間の配当については、実施学年の各教科、特別活動、総合的な学習の時間及び特別の教科である道徳とする。

3 校長は、長期宿泊体験活動の教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）に武蔵野市立学校の管理運営に関する規則（昭和50年6月武蔵野市教育委員会規則第2号）第17条の規定により届け出なければならない。

（実施場所）

第4条 校長は、長期宿泊体験活動の実施場所について、児童及び生徒にとって多様で魅力的な活動が可能であり、かつ、地域社会から協力が得られる場所を選定するものとし、委員会がこれを承認するものとする。

（指導者等）

第5条 長期宿泊体験活動の引率及び指導には、実施学年の学級担任があたるものとし、その他の教員も普段の学校の教育活動に支障のない範囲で引率及び指導を行うものとする。この場合において、引率及び指導にあたる教員は、実施期間中に交代することができるものとする。

2 教員の指導補助として学習指導員又は生活指導員を配置するものとする。

3 学習指導員は、教員の指示を受け、教材の作成、指導補助、指導記録の整理等にあたるものとする。

4 生活指導員は、宿舎内外における児童及び生徒の健康、安全等の生活にかかわる援助及び必要に応じた指導にあたるものとする。

5 長期宿泊体験活動には、各学校につき看護師等1人を同行させるものとし、児童及び生徒の健康管理にあたるものとする。

（費用）

第6条 児童及び生徒の保護者は、児童及び生徒に係る食費の額を考慮して武蔵野市教育委員会教育長が別に定める費用を負担するものとする。

（その他）

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、武蔵野市教育委員会教育長が別に定める。

付 則

（施行期日）

1 この要綱は、令和4年4月1日から施行する。

（武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱等の廃止）

2 次に掲げる要綱は、廃止する。

(1) 武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱（平成14年11月1日施行）

(2) 武蔵野市立小学校プレセカンドスクール実施要綱（平成17年4月1日適用）



## セカンドスクール実施地・泊数の変遷①(～平成14年度)

	平成7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
第一小学校	山梨県高根町 (6泊7日)					長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)
第二小学校	長野県高遠町 (6泊7日)			富山県利賀村				(7泊8日)
第三小学校	岩手県遠野市 (6泊7日)		長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)			(8泊9日)
第四小学校	長野県高遠町 (3泊4日)	(5泊6日)	(6泊7日)	長野県飯山市 戸狩				(7泊8日)
第五小学校	岩手県遠野市 (7泊8日)		山形県酒田市 ・羽黒町					
大野田小学校	新潟県小国町 (3泊4日)	(5泊6日)	(6泊7日)			長野県飯山市 戸狩		
境南小学校	長野県高遠町 (6泊7日)		長野県飯山市 戸狩					
本宿小学校	山梨県中富町 (3泊4日)	(5泊6日)	長野県飯山市 信濃平 (6泊7日)					(7泊8日)
千川小学校	山梨県中富町 (5泊6日)		(6泊7日)					千葉県銚子市 (7泊8日)
井之頭小学校	山梨県中富町 (3泊4日)	静岡県富士宮市 (5泊6日)	(6泊7日)			長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)
関前南小学校	山梨県中富町 (6泊7日)		山形県遊佐町	(7泊8日)	(8泊9日)			(9泊10日)
桜野小学校 (※1)	富山県利賀村 (5泊6日)		(6泊7日)					
第一中学校		東京都大島町 (3泊4日)	群馬県嬬恋村 (4泊5日)		山梨県 足和田村			
第二中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	長野県飯山市 斑尾高原	長野県飯山市 北竜湖 (4泊5日)	新潟県 松之山町			
第三中学校		長野県高遠町 (3泊4日)	静岡県富士宮市	(4泊5日)	長野県高遠町	長野県大町市		
第四中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	静岡県富士市	静岡県 御殿場市 (4泊5日)			長野県飯田市	
第五中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	福島県猪苗代町	群馬県高山村 (4泊5日)				長野県豊科町
第六中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	長野県豊科町		(4泊5日)			

※1 平成8年4月に境北小と桜堤小が統合し、桜野小となる。平成7年度は両校合同実施。

## セカンドスクール実施地・泊数の変遷②(平成15年度～平成30年度)

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
第一小学校						新潟県魚沼市		(6泊7日)
第二小学校		〔平成16年11月1日 南砺市～新設合併〕						
第三小学校			群馬県片品村				(7泊8日)	
第四小学校								(6泊7日)
第五小学校	群馬県川場村							
大野田小学校								
境南小学校	(7泊8日)							(6泊7日)
本宿小学校								
千川小学校					山形県鶴岡市			(6泊7日)
井之頭小学校						長野県飯山市 戸狩		
関前南小学校							(8泊9日)	(7泊8日)
桜野小学校	山形県遊佐町 (7泊8日)						(5泊6日)	(7泊8日)
第一中学校	長野県北安曇郡 白馬村							
第二中学校			〔平成17年4月1日 十日町市～ 新設合併〕					
第三中学校								
第四中学校								
第五中学校			〔平成17年10月1日 安曇野市～ 新設合併〕					
第六中学校			〔平成17年10月1日 安曇野市～ 新設合併〕					





## セカンドスクール実施地・泊数の変遷③(令和元年度～)

	令和元年度	2年度	3年度 ※2	4年度	5年度
第一小学校		中止	(2泊3日)	(5泊6日)	
第二小学校		中止	(3泊4日)	(6泊7日)	
第三小学校	新潟県南魚沼市	中止	(2泊3日)	(5泊6日)	
第四小学校		中止	神奈川県 藤沢市・鎌倉市 (日帰り)	長野県飯山市 戸狩 (5泊6日)	
第五小学校		中止	千葉県野田市 (日帰り)	新潟県南魚沼市 (5泊6日)	
大野田小学校		中止	(3泊4日)	(5泊6日)	
境南小学校		中止	山梨県山中湖村 (2泊3日)	長野県飯山市 戸狩 (5泊6日)	新潟県南魚沼市 (4泊5日)※3
本宿小学校		中止	(2泊3日)	(5泊6日)	
千川小学校		中止	(2泊3日)	(5泊6日)	
井之頭小学校		中止	(3泊4日)	(5泊6日)	
関前南小学校		中止	中止	(5泊6日)	
桜野小学校		中止	(2泊3日)	(5泊6日)	
第一中学校		中止	東京都青梅市 (日帰り)	長野県北安曇野 白馬村 (4泊5日)	
第二中学校	新潟県十日町市 松之山	中止	東京都八王子市 (日帰り)	新潟県十日町市 (4泊5日)	
第三中学校		中止	学校に招いて交流	長野県北安曇野 白馬村 (4泊5日)	
第四中学校	群馬県利根郡 みなかみ町	中止	(日帰り)	(4泊5日)	
第五中学校		中止	オンライン交流	長野県北安曇野 白馬村 (4泊5日)	
第六中学校		中止	(3泊4日)	(4泊5日)	

※2 令和3年度…新型コロナウイルス感染拡大により、中止または実施地・宿泊数を変更し実施。

※3 令和5年度…インフルエンザの流行により、境南小学校セカンドスクールが実施日数を短縮して実施。

# プレセカンドスクール実施地・泊数の変遷①(～平成29年度)

	平成15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
第一小学校		山梨県 大和村 (2泊3日)	(平成17年11月1日) 甲州市へ新設合併				
第二小学校		山梨県 大和村 (2泊3日)	千葉県 館山市				
第三小学校	静岡県 富士宮市 (2泊3日)		群馬県 片品村	山梨県富士 河口湖町			
第四小学校	群馬県 片品村 (2泊3日)						
第五小学校		群馬県 川場村 (2泊3日)					
大野田小学校		千葉県 館山市 (2泊3日)					
境南小学校		静岡県 富士宮市 (2泊3日)					山梨県 富士河口湖町 (1泊2日)
本宿小学校	長野県飯山市 信濃平 (2泊3日)						新潟県 南魚沼市
千川小学校			千葉県 小見川町 (2泊3日)	(平成18年3月27日) 香取市へ新設合併	東京都檜原村		
井之頭小学校		静岡県 富士宮市 (2泊3日)	群馬県 片品村				
関前南小学校	東京都 檜原村 (2泊3日)						
桜野小学校			千葉県 館山市 (2泊3日)				

22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
千葉県 館山市	東京都 檜原村	→	山梨県 富士河口湖町				
	山梨県 富士河口湖町						
新潟県 南魚沼市							
	山梨県 山中湖村						
	山梨県 北杜市				山梨県 山中湖村		
(2泊3日)							
					山梨県 山中湖村		
					山梨県 富士河口湖町		
	山梨県 富士河口湖町	山梨県 山中湖村					



## プレセカンドスクール実施地・泊数の変遷②(平成30年度～)

	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 ※1	令和4年度	令和5年度
第一小学校			中止	(1泊2日)	(2泊3日)	山梨県 山中湖村
第二小学校			中止	中止	山梨県 山中湖村 (2泊3日)	
第三小学校		群馬県利根郡 片品村	中止	(1泊2日)	新潟県 南魚沼市 (2泊3日)	
第四小学校			中止	中止		東京都 奥多摩町
第五小学校			中止	(1泊2日)	(2泊3日)	
大野田小学校			中止	(2泊3日)		
境南小学校			中止	(1泊2日)	山梨県 山中湖村 (2泊3日)	
本宿小学校		山梨県 富士河口湖町	中止	(1泊2日)	(2泊3日)	
千川小学校			中止	(日帰り)	(2泊3日)	
井之頭小学校	東京都 奥多摩町		中止	(日帰り)	(2泊3日)	
関前南小学校			中止	静岡県 島田市 (2泊3日)		
桜野小学校			中止	(日帰り)	(2泊3日)	

※1 令和3年度・・・新型コロナウイルス感染拡大により、中止または実施地・宿泊数を変更し実施。

令和5年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表

種別	学校名	実施日		実施場所	現地宿舎	
小学校セカンドスクール	第一小学校	9月17日(日) ~ 9月22日(金)	5泊6日	新潟県魚沼市	民宿	
	第二小学校	9月17日(日) ~ 9月23日(土)	6泊7日	富山県南砺市利賀村	民宿	
	第三小学校	9月28日(木) ~ 10月3日(火)	5泊6日	新潟県南魚沼市	民宿	
	第四小学校	5月26日(金) ~ 5月31日(水)	5泊6日	長野県飯山市	民宿	
	第五小学校	9月15日(金) ~ 9月20日(水)	5泊6日	新潟県南魚沼市	民宿	
	大野田小学校	9月20日(水) ~ 9月25日(月)	5泊6日	長野県飯山市	民宿	
	境南小学校	変更前	9月29日(金) ~ 10月4日(水)	5泊6日	新潟県南魚沼市	民宿
		変更後	9月30日(土) ~ 10月4日(水)	4泊5日		
	本宿小学校	9月21日(木) ~ 9月26日(火)	5泊6日	新潟県南魚沼市	民宿	
	千川小学校	9月4日(月) ~ 9月9日(土)	5泊6日	新潟県南魚沼市	民宿	
	井之頭小学校	9月22日(金) ~ 9月27日(水)	5泊6日	長野県飯山市	民宿	
	関前南小学校	9月27日(水) ~ 10月2日(月)	5泊6日	長野県飯山市	民宿	
桜野小学校	9月15日(金) ~ 9月20日(水)	5泊6日	長野県飯山市	民宿		
中学校セカンドスクール	第一中学校	9月19日(火) ~ 9月23日(土)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿3泊、ホテル1泊	
	第二中学校	5月23日(火) ~ 5月27日(土)	4泊5日	新潟県十日町市松之山	ホテル	
	第三中学校	9月25日(月) ~ 9月29日(金)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿2泊、ホテル2泊	
	第四中学校	9月26日(火) ~ 9月30日(土)	4泊5日	群馬県みなかみ町	セミナーハウス1泊、 民宿2泊、ホテル1泊	
	第五中学校	9月11日(月) ~ 9月15日(金)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿3泊、ホテル1泊	
	第六中学校	9月7日(木) ~ 9月11日(月)	4泊5日	長野県安曇野市	ホテル2泊 公営宿泊施設2泊	
小学校プレセカンドスクール	第一小学校	10月18日(水) ~ 10月20日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル	
	第二小学校	9月27日(水) ~ 9月29日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル	
	第三小学校	5月31日(水) ~ 6月2日(金)	2泊3日	新潟県南魚沼市	民宿	
	第四小学校	7月5日(水) ~ 7月7日(金)	2泊3日	東京都西多摩郡奥多摩町	民宿	
	第五小学校	9月27日(水) ~ 9月29日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル	
	大野田小学校	6月14日(水) ~ 6月16日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル	
	境南小学校	9月13日(水) ~ 9月15日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル	
	本宿小学校	10月4日(水) ~ 10月6日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル	
	千川小学校	10月4日(水) ~ 10月6日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル	
	井之頭小学校	10月4日(水) ~ 10月6日(金)	2泊3日	東京都西多摩郡奥多摩町	民宿	
	関前南小学校	9月13日(水) ~ 9月15日(金)	2泊3日	静岡県島田市	公営宿泊施設	
	桜野小学校	9月6日(水) ~ 9月8日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル	

# 小学校セカンドスクール



## 第一小学校

## 新潟県魚沼市

9月17日～9月22日(5泊6日)

参加人数 男子51名 女子38名  
計89名

## ○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然の中での体験を通し、自然に対して畏敬の念を抱き、自然を大切にしようとする態度を育てる。また自然と人間との共生や環境保全の必要性について考え、持続可能な社会に向けて具体策を考えようとする態度を育てる。
- ・自然や地域の特性について、児童の興味・関心から課題を見つけ、課題を追究する学習を通し、探求的な学習のよさを理解することができる力を養う。
- ・語らいの時間やくらしに関わる体験活動を通し、気候や土地の特色を生かした人々のくらしに興味をもち、自身の生活で取り組めることを考える力を育む。

## ○日程表

9月17日(日)		9月18日(月)		9月19日(火)		9月20日(水)	
7:30	学校集合	6:30	起床、検温	6:30	起床、検温	6:30	起床、検温
8:00	出発(文化会館)	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
12:00	守門着、昼食	9:00	農業体験	9:30	林業体験	9:00	課題別学習
13:30	開校式	12:00	昼食	12:30	昼食	12:00	昼食
15:00	守門地区オリエンテーション	13:30	農業施設見学	14:00	目黒邸見学		課題別学習
16:45	班長会議	16:45	班長会議	16:45	班長会議	15:00	班長会議
17:00	健康観察・入浴	17:00	健康観察・入浴	17:00	健康観察・入浴	17:00	健康観察・入浴
17:30	夕食(準備)	17:30	夕食(準備)	17:30	夕食(準備)	17:30	夕食(準備)
19:00	宿の方との交流会	19:00	絵はがきかき	19:00	星空観察(各宿)	19:00	感謝の会準備
20:00	1日の振り返り	20:00	1日の振り返り	20:00	1日の振り返り	20:00	1日の振り返り
21:00	就寝、消灯	21:00	就寝、消灯	21:00	就寝、消灯	21:00	就寝、消灯
9月21日(木)		9月22日(金)					
6:30	起床、検温	6:30	起床、検温				
7:30	朝食	7:30	朝食				
9:00	宿別農業体験	9:30	まとめの会				
12:00	昼食	10:30	閉校式				
	宿別農業体験	10:50	須原発				
15:30	感謝の会準備	11:30	昼食				
17:00	健康観察・入浴	12:15	魚沼発				
17:30	夕食(準備)	15:30	学校到着・帰校式				
19:00	感謝の会	16:00	解散				
20:00	1日の振り返り						
21:00	就寝、消灯						

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・1学期の社会科の学習で、日本の農業の米作りについて学習した。
- ・苗をバケツに植え、米作りの過程や米作りの難しさなどを体験的に学んだ。また総合的な学習の時間では、「学ぼう、日本の米」というテーマを設定し、米に関して興味・関心のある内容を調べ、スライドにまとめ発表した。
- ・資料やインターネットを活用して情報収集し、魚沼市と武蔵野市の違いについて学習した。また、課題別グループで資料を基に調べ、現地で質問したり、見て確かめたりしたことについての意見交換を行った。

### 2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールの6日間の体験内容、セカンドスクールを通しての学びや成長について、総合的な学習の時間に4年生に向けて発表する機会を設定した。また、課題別学習については、魚沼市と武蔵野市を比較し、今後武蔵野市に貢献できそうなことについて意見を出し合ったり、魚沼市に提案できることを考えたりして、それらを発表する機会を設定した。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 須原地区の見学・散策

これからの学習や生活の場所となる須原地区を知るため、1日目に須原地区散策を設定した。須原地区と武蔵野市の風景を比較しながら散策をし、この地域で生活する人々の様子や暮らしの工夫に目を向けることができた。また課題別学習のグループ活動では、現地ガイドの説明を受けながら、スキー場から魚沼市全体を見た。米作りに適した地形や気候などについて説明をしていただき、実際に標高の高い場所から地形を確認することができた。



【須原スキー場にて魚沼の地形について説明を受けている様子】

#### 2 星空観察

須原スキー場の駐車場に午後7時に集合し、引率教員による秋の星空についての説明を聞きながら実際に観察する体験学習を設定した。天候に左右されやすい活動なので、2日目に設定し、以降4日目まで順延可能な内容を考えた。

当日は短時間で夜空の様子が変化したため、説明を聞きながらの星空観察は難しかったが、各宿に戻ってから星空観察を行うことができた。

## ＜社会体験活動＞

### 1 農業体験

農業に関する活動では、稲刈りや脱穀の体験、倉庫の見学、藁細工体験を行った。

魚沼農耕舎の方の指導により、稲を刈る作業とはざかけを体験した。鎌の使い方、束ね方などの説明を受けた後、田んぼに移動し、実際に鎌を用いて稲刈りを行った。田んぼでの作業は足場が不安定であり、刈ることに集中しづらい状況であったが、教わった内容を思い出しながら、友達と協力し、丁寧に稲を刈ることができた。

脱穀は、足踏み式の脱穀機を用いて行った。脱穀機を回すスピードを足でコントロールすることが難しかったが、各宿の方に補助してもらいながら、上手に作業することができた。昔の人の知恵について学びを深め、機械を活用する効率のよさも実感できた。

倉庫の見学では、運ばれてきた粳が玄米になる工程を見学し、低温の中で保存されている米の袋に関して説明を聞いた。見学を通して、米づくりに従事する人々の苦労や工夫を知ることができた。

藁細工体験では、農家は藁を活用して生活に役立つ物を作ることを知り、宿の方に藁の編み方を教わりながら鍋敷きを製作し、自然と人間との共生について考えを深めることができた。



【農業体験 稲刈りの様子】

### 2 林業体験

福山森林体験の森で、炭焼き窯から炭をかき出す作業、丸太を斧や機械を使用して割り、薪にする作業を体験した。炭焼き窯での作業では、高温の中で仕事をする大変さを実感できた。また薪割り体験では、道具の正しい扱い方や炭焼きを行う工程を学んだ。



【炭焼き窯から炭をかき出す体験の様子】

### 3 課題別学習



【只見線の歴史解説時の資料】

魚沼市を知る学習として、「魚沼の観光」「魚沼の産業」「雪国の暮らし1」「雪国の暮らし2」「雪国の暮らし3」の5グループに分かれて学習した。

「魚沼の観光」では、JR只見線乗車と西福寺開山堂の見学を行った。只見線の歴史に関する講話を聞き、昔から人々の暮らしにとって鉄道は欠かせないものであったことや近年の乗



車数減少により廃線の危機にあることなどを知り、須原地区にとって大切な財産であると感じていた様子だった。「雪国の暮らし」では、魚沼市の博物館などの施設見学を中心に行った。雪国で暮らす人々の苦勞から、より快適に生活するための工夫が展示されており、地域や気候の特性に合わせた道具や施設がつくられているということを学習することができた。また、川や水の整備・水田の開拓などにより、米づくりがさかんに行われるようになったことを学んだ。



【雪国の暮らし 昔の道具体験の様子】

## <生活・文化体験活動>

### 1 宿舎での集団生活

家庭を離れ、普段はあまりやらない洗濯や布団の上げ下げなどを行った。生活指導員や民宿の方の指導の下、事前に分担した係ごとに責任をもって活動し、互いに協力し合いながら生活する様子が見られた。また、仲間と協力して過ごすことで、普段気付かなかった友達のよいところや、協力して生活していく事の大切さに気付き、友情を深めることができた。

また、「語らいの時間」には、1日を振り返って学んだことを話し合った。毎日行われた「班長会議」でも振り返りとともに改善点を話し合い、各宿に伝えてどう改善するかを考えた。それを基に、各班でめあてを決め、各自がめあてを意識して生活することができた。



【語らいの時間】

### 2 宿別農業体験



【さつまいもの収穫の様子】

各宿の畑でさつまいもや野菜類の収穫体験をし、近くを散策して植物について話を聞いた。食材を自分の手で収穫し、食べることを体験することで、食材を作り育てる人たちの工夫や苦勞、また食べ物のありがたさを改めて実感する機会となった。

## ○児童の感想

- ・私が心に残っているのは林業体験です。林業で働く人の苦勞を知りました。特に炭焼きはとても熱い中で仕事をしているのに一日かけての仕事であることを知り、職人さんの大変さを感じました。
- ・セカンドスクールで学んだことは、稲刈りの大変さです。簡単そうだと思っていたけれど、全然できなくて大変で稲を結ぶときも結ぶことが難しかったです、落としてしまった稲も落ち穂拾いをしてできるだけ無駄なく稲刈りをすることを知りました。
- ・課題別学習では雪と共に生きる新潟県の人々の暮らしについて学びました。冬に 350cm も雪が積もっている写真を見て、除雪車で雪をどけるのも大変だろうなと思いました。東京で見る雪は少なくそしてきれいではあるけれど、雪は大変なものでもあると改めて感じました。
- ・私がセカンドスクールで最も学んだことは、何でもみんなで協力するとよい、ということです。誰かが分からない、できないと困っているときはみんなで協力してできるまでがんばりました。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・課題別学習に関しては、セカンドスクール後、現地で学んだ自然や地域の特性から興味・関心をもった事柄について追究した。4年生や保護者に伝える活動を通して、魚沼市と武蔵野市の違いに気付いたり、武蔵野市の生活に繋げて考えたりすることができた。
- ・国語科では、セカンドスクールでの学びや体験について、活動報告書を書いた。目的や意図に応じて詳しく書いたり、表現の効果などについて工夫しながら書いたりすることができた。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・子どもたちの「生きる力」を測るアンケートでは、事前から事後にかけて「とてもよくあてはまる」の回答が 26 項目中 25 項目において上昇、平均 9.2 ポイント向上した。これは今回のセカンドスクールが子どもたちにとって生きる力を育てる機会となったことを表しているといえる。
- ・今回のアンケートで唯一ポイントが下がった項目は「10. ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える」であった。これは稲刈りで使用した鎌の使い方が思ったよりも難しかったことに起因しているのではないかと考えられる。鎌を初めて手にした子どもも多く、上手に使う難しさに気付くことができたともいえる。
- ・課題別学習では、児童が課題意識をもつ内容と見学先が一致するよう、毎年場所の選定について検討を続けている。昨年度から見学場所を新たに増やしたため、児童にとって学習がしやすい体制をとることができた。体験学習を中心とした活動内容を多く取り入れたいという考えから、魚沼市の地域の方や小学校との連絡を取っていく必要がある。
- ・児童数が年々増加傾向にある一方で、魚沼市の各民宿受け入れ児童人数に差がある。今後も魚沼市を実施地としてセカンドスクールを続けていけるよう、現在の宿泊先が受け入れ可能な人数を把握したり、魚沼市内で新たな宿泊先を検討したりしていくなど、対応していく必要がある。

## 第二小学校

## 富山県南砺市利賀村

9月17日～9月23日(6泊7日)

参加人数 男子37名 女子39名  
計76名

## ○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自分ですすんで行動する。
- ・利賀村の自然や人々の生活などについて自ら課題をもち、主体的に追究する。
- ・利賀村の人々と交流をし、自然の中で豊かな体験活動をする。
- ・日本の国土や森林の様子を知り、森林のはたらきを基に環境と人のかかわりについて考える。
- ・学習したことを工夫してまとめ、伝える。

## ○日程表

9月17日(日)		9月18日(月)		9月19日(火)		9月20日(水)	
7:30	武蔵境駅集合	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:30	出発式	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
7:52	武蔵境駅出発	8:30	地域探索	9:00	集合、朝会	9:20	集合、朝会
8:30	東京駅着	10:00	そば打ち体験	9:20	ハイキング出発	9:25	森林学習
9:32	東京駅発(北陸新幹線)	12:30	昼食(そば)	11:35	一本杉到着	12:00	昼食
11:00	昼食(車内)			11:50	昼食		
12:13	新高岡駅着						
12:35	バス出発						
13:35	道の駅たいら着	13:30	わら細工体験			13:00	稲刈り体験
14:00	そばの郷着						
14:20	開校式						
15:00	開室式(各民宿)			15:00	そばの郷到着		
15:50	はし作り体験					15:30	民宿別①(岩魚調理)
17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
		20:00	利賀村の話聞く	19:00	手紙を書こう	19:00	手紙を書こう
21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝

9月21日(木)		9月22日(金)		9月23日(土)	
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
9:00	利賀小学校交流	8:30	民宿出発	8:30	閉室式
12:00	昼食	10:00	相倉集落着	9:30	そばの郷到着
		12:00	昼食	9:40	閉校式
				12:13	新高岡駅発
13:00	課題別学習	13:00	相倉集落見学		
15:00	お礼の会	14:00	民宿別活動②	14:52	東京駅着
16:00	民宿着	16:00	ありがとうの会準備	15:17	東京駅発(中央線)
17:00	入浴	17:00	入浴	15:51	武蔵境駅着
18:00	夕食	18:00	夕食	16:00	解散式
		19:00	ありがとうの会	16:15	解散
20:00	利賀村の話を聞く	20:30	荷物整理		
21:00	就寝	21:00	就寝		

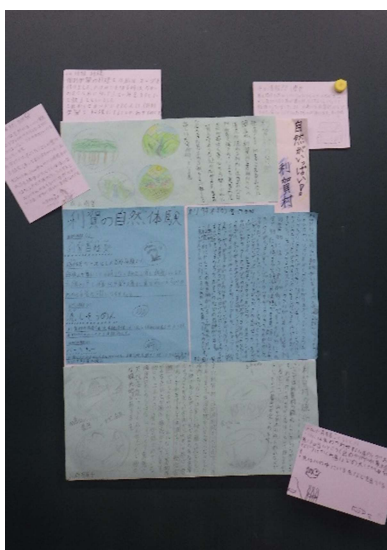
## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

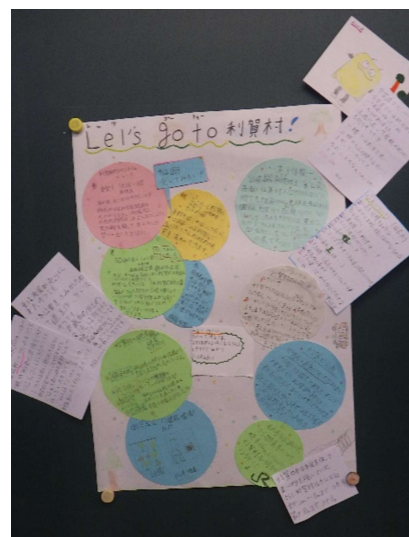
- ・利賀村の基本情報を学級で共有し、追究したいテーマを各自考えた。
- ・考えたテーマに沿って、各自調べ学習を行った。
- ・得た情報を班で共有し、一つの新聞としてまとめ、他の班に伝えた。

### 2 事後の学習内容

- ・利賀村に行って分かったことや考えたことを生かしながら、事前学習でまとめた新聞記事の付け足しや修正を行い、さらに分かりやすい新聞を作成した。
- ・完成した新聞を4年生に渡し、紙面を通して学習の成果を発表した。
- ・4年生から感想を聞き自己肯定感を高めるとともに、学んだことや感じたことを伝える力を身に付けた。



【自然がいっぱい！利賀村】



【Let's go to 利賀村！】



## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 はし作り体験

セカンドスクール期間に使用するはしを自作したことで、日常のありふれた物のありがたさを感じるとともに、利賀村の自然の身近さを感じた。



【はし作り体験】

#### 2 ハイキング

原生林を歩きながら、利賀村の森林や自然を肌で感じ、環境保護の精神を育んだ。



【森林学習】

#### 3 森林学習

利賀村で管理している森林の話の聞いたり、間伐を体験したりしながら、自然との共生について考えた。

### <社会体験活動>

#### 1 民宿での生活

住み慣れた家や町を離れることで異なる生活様式を体験的に学ぶことを通して、民宿の方への礼儀やマナー、班で協働して生活する姿勢を学んだ。



【民宿での生活】

#### 2 手紙を書こう

セカンドスクールでの学びや出来事などをはがきにまとめて送る活動を通して、自らの学習を振り返ったり、感じたことを表現したりした。

#### 3 ありがとうの会

お世話になった民宿の方々に感謝を伝える会を企画、運営する活動を通して、何事にも感謝をする気持ちをもって生活をする心情を育んだ。



【ありがとうの会】

### <生活・文化体験活動>

#### 1 わら細工体験

利賀村の伝統工芸を体験的に学び、地域の伝統を守る大切さを感じた。

## 2 民宿別活動①(岩魚の調理)

岩魚の調理を行うことで自然の恵みを感じるとともに、利賀村の食文化について学んだ。

## 3 利賀小学校との交流

利賀小学校の児童と一緒に様々な活動に取り組むことを通して両校の親睦を深めるとともに、両校の伝統文化や生活などについて学んだ。

## 4 課題別学習

課題ごとに講師を招きお話いただくことで、利賀村の自然や歴史、文化などについての知識を深めた。

## 5 相倉集落見学

世界遺産である合掌造りの建造物や当時の生活文化について学び、日本の歴史を守ることの大切さについて考えた。

## ○児童の感想

- ・「1週間」ということを聞いて、はじめはとても不安だった。自分たちだけで生活することも初めてで、友達とも仲良く過ごすことができるかととても心配だった。でも、民宿の方々や利賀村の方々が優しく教えてくれたおかげで、不安もすぐになくなった。最終日には、「もっと利賀村にいたい。」と思うほど、利賀村が好きになった。民宿の方々と離れることも寂しい。また、利賀村に行きたいと思う。
- ・友達と協力して生活や活動をすることがとても楽しかった。これまであまり仲がよくなかった友達とも交流ができ、友達の輪を広げることができた。
- ・原生林の中をハイキングしたことが一番印象に残った。東京では、なかなか見られない自然の中を歩くことはとても興味深く、自然の貴重さを感じることができた。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・稲刈りや脱穀の体験ができ、稲作の大変さや大切さを学ぶことができた。今後は、収穫した米を用いて、保護者とも連携しながらおにぎり作りの会を行い、食育につなげる予定である。
- ・友達と協力し課題解決に向かう姿勢を身に付けることができた。また、時間を見ながら行動するなど、規律を大切にして生活する児童が増えた。学校生活においても、様々な学習の中で自分の課題を見つけ解決に取り組む児童や、自立した行動を心がける児童が増えた。
- ・総合的な学習の時間では、事前学習で行った調べ学習に、事後に得た情報を付け加えて新聞を作成した。必要な情報や正確な情報を整理して、来年度セカンドスクールを行う4年生に掲示物として紹介した。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

### 【成果】

- ・子どもたちの「生きる力」を測るアンケートでは、「暑さや寒さに負けない」項目が8%向上した。原生林でのハイキングや空調設備の少ない民宿での生活を経て、忍耐力が身についた。
- ・「ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える」項目に「よくあてはまる」と回答した児童が、15%増えた。普段できない経験をすることによって、自分の成長を感じる児童が増えた。
- ・「自分で問題点や課題を見付けることができる」項目に否定的な回答をした児童が7.9%減った。班活動をする中で自分の役割を自覚し、責任をもって取り組もうとし、主体的に活動しようとする態度を養うことができた。
- ・利賀村の方とお別れの会では涙を流す児童も見られ、人とのつながりの温かさを感じることができた児童が多かった。

### 【課題】

- ・医療機関から離れており、急病者が出た場合の対応が難しく、医療機関への搬送にも時間がかかる。
- ・宿泊先の急な変更があり、宿泊先の詳細な情報を事前に児童や保護者に伝えることができなかった。



## 第三小学校

## 新潟県南魚沼市

9月28日～10月3日(5泊6日)

参加人数 男子38名 女子34名  
計72名

## ○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・長期の宿泊による生活時間を利用し、自然を大切にしようとする態度を育む。
- ・自然の中で豊かな体験活動を通して、南魚沼市の自然や暮らしの工夫に関する理解を深めようとする態度を育む。
- ・南魚沼市の自然や地域の特性について自ら課題をもち、主体的に課題を追究する力を育てる。
- ・南魚沼市の歴史や文化に触れ、引き継がれてきた地域の良さや人々の努力に気づき、進んで表現しようとする力を育てる。
- ・地域の人々との交流を通して、人間関係を深めるとともに、それらの人々や保護者に対する感謝の気持ちを育てる。
- ・自主的な集団生活を通して、児童同士の理解や協力し合う態度を育てる。

## ○日程表

9月28日(木)		9月29日(金)		9月30日(土)		10月1日(日)	
8:00	学校集合・出発式	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
8:15	学校出発	7:30	朝食	7:30	朝食	7:00	朝食
11:30	八海山到着	8:30	朝会	8:30	朝会	8:30	食材準備
12:00	昼食	9:00	わら細工体験	10:40	長岡花火館見学	9:30	朝会
13:00	八海山ロープウェイ	12:00	昼食	12:00	昼食	10:00	火起こし体験
15:15	開校式	13:30	地域の散策	13:00	新潟県立博物館見学		豚汁作り
16:45	夕方の会	16:45	夕方の会	14:00	勾玉作り体験	12:00	昼食
17:00	入浴	17:00	入浴	16:45	夕方の会	14:00	ストリングアート
17:30	夕食の準備	17:30	夕食準備	17:00	入浴	16:30	洗濯
18:00	夕食	18:00	夕食	17:30	夕食準備	16:45	夕方の会
19:00	学習の記録	19:00	星空観察・俳句作り	18:00	夕食	17:00	入浴
20:30	健康観察	20:00	学習の記録	19:00	学習の記録	17:30	夕食準備
21:30	消灯	20:30	健康観察	20:30	健康観察	18:00	夕食
		21:30	消灯	21:30	消灯	19:00	学習の記録
						20:30	健康観察
						21:30	消灯

10月2日（月）		10月3日（火）	
6:30	起床	6:30	起床
7:30	朝食	7:30	朝食
8:30	朝会	8:30	朝会
9:30	雪国まいたけ工場見学	9:00	笹団子作り
12:00	昼食	10:00	勤労奉仕活動
14:00	稲刈り体験	11:00	昼食
16:45	夕方の会	12:00	閉校式
17:00	入浴	15:45	学校到着
17:30	夕食準備	16:00	帰校式
18:00	夕食	16:15	解散
19:00	感謝の会		
20:30	学習の記録		
20:45	健康観察		
21:30	消灯		

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・オリエンテーションでは、セカンドスクールに参加する目的や活動内容について写真を見ながら確認した。事前学習として興味があることを調べたり、事後学習として体験したことを他学年へ伝えたりすることを知り、見通しと意欲をもって学習に取り組んだ。
- ・実際に行く場所や、体験活動について、学習者用コンピュータを活用して調べた。
- ・班長、副班長、生活係、学習係、感謝の会の係、レク係などの役割を分担したことで、責任感をもち積極的に活動できた。
- ・社会科では、「国土の地形の特色」「米づくりのさかんな地域」の学習で、寒い地域の建物・道路の工夫や米の作り方について、セカンドスクールと関連付けながら学習を行った。

### 2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールを終えて、自分自身や学年として成長したことをしおりに書いた。それらを共有し、学んだことへの価値付けを丁寧に行った。
- ・学習と生活の振り返りを行い、学習では、実際に行ってみて分かったことや感想をスライドにまとめ、学年で見せ合う時間を設けた。生活では、今後の学校生活に生かしていただけることを具体的に確認し合った。
- ・4年生へ向けて「セカンドスクールを伝える会」を開いた。テーマごとにグループに分かれて、実演やスライドを使いながら、発表した。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 星空観察

東京では見ることのできないきれいな月や満天の星を見ながら、感じたことを俳句に表す学習をした。暗い夜の空に輝く月の様子を感じ、豊かな自然に触れることができた。俳句を教室内に掲示し、その時感じた感覚を学校に戻ってきてからも共有し、思い出せるようにした。

### <社会体験活動>

#### 1 稲刈り体験

現地の方からの指導で、稲刈りの手順や鎌の扱い方を聞いてから稲刈りを行った。4人組の稲刈り班を作り、「刈る、束ねる、結ぶ、運ぶ」という作業を分担して行った。ひもで結ぶ作業が難しく、近くの友達と協力し合って作業を行った。きつく結ぶことで、はざかけをしたときに稲が落ちないことを知り、農家の方の苦労や工夫を知ることができた。農家の方への感謝の気持ちをもち、美味しいお米を食べられる有難さを実感することができた。



【稲刈り体験の様子】

#### 2 火起こし体験、豚汁作り

マッチや新聞紙、薪を使って火起こしをした。薪の組み方を教わり、試行錯誤しながら取り組んだ。どの班も火を起こすことができ、豚汁作りに取りかかった。作っている間も、火から目を離さず、炎の大きさを調整することができた。出来上がった豚汁と新米のおにぎりを食べた。「もっと食べたい。」「おいしい。」と何度もおかわりし、各宿の豚汁の鍋は空になった。火起こし体験を通して小さな火が大きくなり、ものを燃やしたり、温めたりすることができることを実感していた。



【火起こし体験、豚汁作りの様子】

#### 3 雪国まいたけ工場見学

工場で働く方の話を聞いたり、実際に工場内を見学したりすることで、スーパーなどで購入することができる身近な商品がどのように栽培され、出荷されているのかを知ることができた。私たちの手元に届くまでに、多くの人々の思いや工夫があることを知り、南魚沼の産業について理解を深めることができた。

## <生活・文化体験活動>

### 1 長岡花火館見学

長岡花火館見学では、1階の展示場にて、花火ゲームなどを楽しみながら、長岡花火の魅力を知ったり、原寸大の花火玉や花火筒の展示を見たりした。2階にある花火シアターでは、打ち上げられる花火を座席の振動から体感したり、日本三大花火大会である長岡花火の歴史などを学習したりした。花火館の見学を通して、伝統的な文化を引き継いでいる地域の人々の努力を知ることができた。



【長岡花火館見学の様子】

### 2 新潟県立歴史博物館見学

縄文時代の暮らしや文化について、本物の土器や、再現した展示物を見ながら、学芸員から説明を受けた。縄文時代の歴史や文化の特徴を知り、先人たちの知恵や努力を理解した。その後、高田の雁木通りを再現した展示を見て、雪国の暮らしの工夫について学習した。見学を通して、歴史や文化の特徴を知り、先人たちの知恵や努力を理解した。また、勾玉づくり体験をし、実際に石を削る体験を通して、昔の人の苦勞を感じることもできた。

### 3 笹団子作り体験

地域の方に笹団子の作り方を教わった。あんこの量や包み方などをよく見て、集中して取り組んだ。「なぜ笹で包むとよいのか」について教わり、昔の人の知恵を知ることができた。できたての笹団子を食べ、「柔らかい」「おいしい」などの声があがった。自分で作った笹団子をおいしく食べることができ、教えてくださった地域の方に、感謝の気持ちをもつことができた。

## ○児童の感想

- ・5分前行動を意識することで、遅れずに行動することができた。セカンドスクールで身に付けたことを学校生活にも生かしていきたい。
- ・友達と協力して生活することで、友達の気持ちを考えることができた。みんなが自分の役割を果たし、自分たちで考えて行動することができたことが自信になった。
- ・稲刈り体験は思ったよりも大変だった。実際にやってみないと分からないことが多かった。お米を作ってくれる人たちの大変さを知り、これからはお米を大切にしようと思った。
- ・長岡花火館や新潟県立歴史博物館では、学校で調べたことを実際に見ることができて勉強になった。花火のことや縄文時代の暮らし、雪国の暮らしについて知った。
- ・5泊6日という長い期間、親と離れて過ごすことで、一人でできることが増えた。親の大変さを感じ、これからは積極的に手伝いをしたいと思った。
- ・南魚沼と武蔵野の自然や街並みを比べることができた。どちらにも良さがあると気付いた。
- ・南魚沼の人達の優しさを感じ、自分もそういう人になりたいと思った。感謝の会では、宿のお父さん、お母さんに、感謝の気持ちを伝えることができた。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

「時間を守る」「ルールを守る」「自分のことは自分でする」など基本的な生活態度について児童同士で、声を掛け合って、自主的に動こうとする力が高まった。

また、お互いに気持ちよく過ごすために、どうすればよいのかについて考え、自分と他者の関係性について考える機会となった。上手くいかないときは、気持ちを伝え合うことが大切であることを知り、思いやりのある言動が増えている。

学習においては、自分で調べたいことを事前に決め、実際に見学したり、体験したりする活動を通して、インターネットの情報だけでは感じることはできないこともあった。そのことによって、実際に取り組み、現地に行き、自分の目で見ることへの意欲や態度が高まった。今後の学習でも、可能な限り体験させたり、生の声に耳を傾けたりしながら、自分で課題解決をできるようにしていく。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・宿が近く、教員が見回りをしやすかった。緊急の場合もすぐに駆けつけることができたのがよかった。
- ・天候不良により活動内容の変更等あったが、稲刈り体験、火起こし体験、豚汁作り体験など、様々な体験活動に宿の方が工夫して協力してくださったおかげで、円滑に実施することができた。
- ・関わってくれた南魚沼の方々への心の温かさに触れ、ゆったりとした時間の中で友達と関わることで、人と関わることの良さを感じることができた。
- ・プレセカンドスクールに続き、セカンドスクールも同じ場所での活動だったが、児童の意欲は非常に高く、事前学習や事後学習も積極的に取り組み、南魚沼について深く学ぶことができた。
- ・今年度は新しい活動が多かったため、児童の実態を踏まえて、計画的に活動内容を見直す必要がある。
- ・子どもたちの「生きる力」を測るアンケートでは、事前から事後にかけて4ポイント向上した。多くの体験活動をしたり、友達と過ごしたりする中で、前向きによりよい人間関係を築こうとすることで、児童の生きる力が向上したと考える。

## 第四小学校

## 長野県飯山市

5月26日～5月31日(5泊6日)

参加人数 男子46名 女子22名  
計68名

## ○セカンドスクールで育成をめざす資質・能力

- ・飯山市での生活や体験を通して知的好奇心や探求心を喚起し、山地に暮らす人々の生活の工夫について学ぶ。
- ・社会科等の学習に生かし、その地域のよさや課題を考える力を身に付ける。
- ・自己やグループの課題を解決するために、現地の方々の話やフィールドワークを通して、情報を分かりやすく整理する力を養う。
- ・豊かな情操や感性を育む。
- ・豊かな人間関係を育てるとともに、自主性や協調性を育てる。

## ○日程表

5月26日(金)		5月27日(土)		5月28日(日)		5月29日(月)	
8:15	学校集合 出発式	6:00	起床 検温	6:00	起床 検温	6:00	起床 検温
8:30	出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	昼食 松代PA	9:00	雪国の暮らし学習	8:30	宿出発 バス	8:30	宿出発 バス
13:00	戸狩到着		各宿	9:00	市内巡り(散策)	9:00	ありがとうの会
	開校式	11:30	昼食		寺町、飯山シャンテ		ブナ林散策
	観音堂	13:00	米作りの学習		正受庵、飯山城址	11:30	昼食
	各宿に移動		田植え	12:30	昼食	13:30	課題別学習
14:30	箸作り 各宿	16:00	入浴	14:00	飯山すてきスケッチ	16:00	感謝の会計画・準備
16:00	里山散策 各宿	18:00	夕食	16:00	手紙書き	18:00	夕食
18:00	夕食	19:00	暗闇体験 各宿	18:00	夕食	19:00	入浴
19:00	入浴	20:00	振り返りの時間	19:00	入浴	20:00	振り返りの時間
20:00	振り返りの時間	21:30	消灯 就寝	20:00	振り返りの時間	21:30	消灯 就寝
21:30	消灯 就寝			21:30	消灯 就寝		

5月30日(火)		5月31日(水)	
6:00	起床 検温	6:00	起床 検温
7:00	朝食	7:00	朝食
9:00	郷土食準備		大掃除
10:00	郷土食作り 笹寿司、天井焼き	9:30	閉校式 観音堂
11:30	昼食	10:00	戸狩発
13:30	感謝の勤労体験 各宿でお手伝い	12:00	昼食 横川SA
15:00	入浴	15:00	学校着 帰校式
17:30	夕食	15:15	解散
18:30	感謝の会		
20:00	振り返りの時間		
21:30	消灯 就寝		

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・飯山について、本や学習者用コンピュータを活用して情報を収集してスライドにまとめた。まとめたスライドを学級で共有し、各自で追究したい課題を設定した。現地での課題別学習で確かめたり質問したりして、さらに調べることができるように準備した。
- ・学年全体でオリエンテーションを行い、スケジュールや持ち物について確認をした。学年のめあて、バスや宿での約束事や目標を話し合い、決定した。
- ・班長や各係を決めて、打ち合わせを行った。児童全員が見通しをもって主体的に取り組むことができるように、各係で仕事内容や目標を話し合って決め、全体で発表した。

### 2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで学んだことを全体で振り返り、まとめの学習を行った。
- ・飯山で学んだことや感じたことについて学習者用コンピュータを使ってまとめる活動を行った。その際に、誰に向けて発信する想定でまとめるのか、どんな内容を取り上げるのかを児童に委ね、より主体的な学習ができるようにした。内容によっては、グループを作って分担したり、違う内容について互いに助言し合ったりしながら進める様子が見られた。
- ・1学期に飯山のよさを学ぶことで、武蔵野市と比較し地域に着目することができた。2学期は、飯山市と武蔵野市の違いやそれぞれのよさを知り、比較することを通して、地域への愛着、地域に進んで関わろうとする市民性を高めた。自由に武蔵野市のよさを見付け、発表し合い、学級で深めたいテーマを絞った。武蔵野市民科と関連させ、地域の方や施設と関わりながら、自分たちが地域のためにできることを模索し、実践した。



## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 里山散策

宿のお父さん、指導員と共に里山を散策した。近くの動物の息遣いや野草を使った遊び、美味しい山菜、里山に住む動物の話など、様々な話を聞きながら東京とは異なる豊かな自然を感じることができた。



【里山散策】

#### 2 暗闇体験

里山の夜は暗く、静けさの中で聞こえるカエルの大合唱や川の水の音に、東京と飯山の違いを感じていた。無数の星や流れ星の美しさに感動したり、星の話を聞いて興味をもったりすることができた。

#### 3 ブナ林散策

ブナ林を散策する前にブナについて話を伺った。ブナの木は、葉から枝、幹を伝って根元に雨水を集める構造になっていることを知ることができた。またブナがある山は水に恵まれていて、里山の生活を支えていることなどを学習した。今年度は例年に比べ温かく、雪はあまり残っていなかったが、雨天での実施だったため、雨水が幹を伝う様子を実際に見ることができた。自然の素晴らしさを実感することができた。



【ブナ林散策】

### <社会体験活動>

#### 1 田植え

米作りの話を伺った後、田植えを行った。最初は田んぼに入るのを躊躇する児童もいたが、裸足で入ると、田んぼ特有の感触に気持ちよさを感じ、夢中になる姿が見られた。実際に田植えを行い、その過程の大変さを知るとともに、米作りの苦労を実感し、普段主食として当たり前食べている米が食べられることのありがたさを話す児童も見られた。



【田植え】

#### 2 課題別学習

課題別学習は、歴史、伝統工芸、自然、農業、観光の5つのテーマから、自分が興味のある課題を選んで事前に学習し、現地で質問して確かめたり、新たな発見をしたりするなど、意欲的に学習することができた。観光のチームは近くの神社や湖などを回り、スキー場として繁栄した様子を知ることができた。自然のチームはノビルなどの山菜を探し、見分け方を知り、たくさん採って宿に持ち帰る様子が見られた。



### 3 宿ごと勤労体験

宿ごとに勤労体験を行った。畑の藁敷きをしたり、雑草抜きやネットの整頓を手伝ったり、薬草茶の材料集めをしたりした。宿のお父さんやお母さんに感謝の気持ちを表そうと、意欲的に取り組む姿が見られた。東京ではできない貴重な体験で、みんなと協力してできたことがうれしかったと振り返っていた。



【勤労体験】

## <生活・文化体験活動>

### 1 箸作り

箸作りは、各宿で行った。児童は、お父さんの話をよく聞いて小刀の扱いに注意しながら、箸を丁寧に作ることができた。何度もやすりをかけて、食べやすい箸に仕上げようとする姿が見られた。セカンドスクール期間中、自分で作った箸を使って食事をして、愛着をもつことができた。



【箸作り】

### 2 市内巡り

飯山城址、寺町、飯山シャンテ、正受庵などを宿ごとに巡り、飯山の特色を学んだ。寺町の雁木通りでは、積雪下においても通行できるように各店が軒先を歩道として提供し、協力して生活していることなど、実際に歩きながら一つ一つ話を伺った。飯山仏壇については、実際に仏具店の店主からご厚意でお話を伺うこともでき、そのきらびやかさに目を輝かす様子が見られた。飯山の地形や気候に合わせた生活の工夫や歴史を学ぶことができた。



【市内巡り】

### 3 郷土食作り

郷土料理である「笹ずし」と「天井焼き」を宿のお母さんに教わりながら作り、昼食で頂いた。「笹ずし」は川中島の戦いの際に上杉謙信に献上したのが始まりで、抗菌作用がある笹の葉を使って日持ちするようにしたり、食べやすい大きさや形にしたり、もち米で腹持ちをよくしたり、様々な工夫があることを学んだ。みんなで作って食べることに喜び、たくさん食べたことを楽しげに話していた。



【郷土食作り】

## ○児童の感想

- ・セカンドスクールで友達とさらに仲を深めることができたと思います。東京では分からなかったり、体験できなかったりすることを経験してとても良い経験になりました。飯山市で学んだことをこれからの生活に生かしたいです。

- ・班長のサポートをすることを目標にしたが、ものすごく難しかったです。1日目は声掛けだけをしていましたが、それではサポートにならないことが分かり、2日目からは考えながら行動していたがどうしたらサポートができるか分からないまま終わってしまった。とても悔しかったです。次に副リーダーになった時にはしっかり支えられるようになりたいと思いました。
- ・田植えを手作業でやるのはものすごく大変です。私たちは70人でやりましたが農家の方々は数人でやっているのですその大変さが分かった気がします。代表児童の言葉にあったように「お米を残さず食べなきゃ！」と思いました。
- ・お父さんからは農業のことや、暮らし、歴史などを教えてもらい、お母さんからは郷土料理のことや、ご飯の準備や片付け、洗濯のことなどたくさんのことを教えてもらいました。考えてみると、このセカンドはたくさんの方がかかわってくれて出来ているんだなと思ったから感謝しようと思いました。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

今年度、めあてとして、①自分で考えて行動すること、②人と話す、関わる力を付けること、③地域の特色を学ぶことの3点を挙げた。特に①、②は学年の実態を考える上で重要な点であり、児童にも意識をさせながら過ごすことができた。

5泊6日の長い共同生活の中で子どもたちは、文字通り普段できない経験をすることができた。毎日の振り返りを見ると、日々の経験がたくさんの方の支えによって成り立っていることに気付くことができ、関わってくれた人へ感謝の気持ちをもつことの大切さを感じたことがたくさん書かれていた。児童が様々な経験をできる喜びやありがたみを感じることもできたことを、今後校内での活動にも生かしていく。

学習面での成果は、2学期以降の総合的な学習の時間の中で武蔵野市との比較、よりよい生活を目指す姿勢へつなげていく。そして今後のファーストスクールの活動を計画する中で、自分たちの今を見つめる機会を設けながら、児童一人一人が成長を実感できるような教育活動にしていく。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・5泊6日という未体験の経験をし、日に日に疲労が増す中で自分を見つめ、他者を感じ、児童はこれまで以上にたくさんの課題を感じることもできたと感じた。子どもたちの「生きる力」を測るアンケートの結果を見ると、多くの児童が自己理解を深めているような印象をもった。様々な体験や人との関わりの中で、武蔵野とは違う飯山のよさを個々が体感するだけでなく、親元を離れて仲間と協力して生活する経験もできたことが、どの項目においても大きな成長を実感することに繋がったと言える。次年度も引き続き、事前、現地、事後の学習が児童の主体的な学びとなるように、計画的に進める。
- ・次年度も事前の打ち合わせを密に行い、臨機応変に対応できるようにしていく。

## 第五小学校

## 新潟県南魚沼市

9月15日～9月20日(5泊6日)

参加人数 男子46名 女子37名  
計83名

## ○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・南魚沼の自然環境や文化・産業等についての事前学習、現地での様々な体験活動や事後の学習を通して、我が国の豊かな自然を愛し、環境保全に努めようとする態度を養う。
- ・自分の立てた課題について、調べたり体験したりして得た情報を分かりやすく整理し、まとめ、表現する力を育む。
- ・現地での諸課題について、友達と協働してよりよく解決する力を育む。
- ・長期の宿泊体験を通し、生活自立に必要な知識や技能を身に付ける。
- ・友達や現地の方と親密に関わる活動を通して、他者とよりよい人間関係を築くとともに、よりよく自己実現を図ろうとする態度を養う。

## ○日程表

9月15日(金)		9月16日(土)		9月17日(日)		9月18日(月)	
8:10	学校集合・出発式	6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床
8:20	学校出発	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
11:30	レイホー八海着	9:30	農業体験	9:00	六万騎山登山	9:30	水生生物観察
12:00	昼食(弁当)		(稲刈り・はざがけ)	11:30	昼食(弁当)	11:30	ぬか釜体験
13:00	八海山ロープウェイ	12:00	昼食	13:30	各民宿着	12:00	昼食
14:30	開校式	14:00	JAみなみ魚沼見学	14:00	ちまき作り	14:00	思い出の場所を
15:30	マイ箸作り	16:15	各民宿着	16:15	健康観察・入浴		スケッチ
16:45	健康観察・入浴	16:15	健康観察・入浴	18:00	夕食	16:15	健康観察・入浴
18:00	夕食	18:00	夕食	19:00	語らいの時間	18:00	夕食
19:00	語らいの時間	19:00	語らいの時間	21:30	就寝	19:00	語らいの時間
21:30	就寝	21:30	就寝			21:30	就寝
9月19日(火)		9月20日(水)					
6:45	起床	6:45	起床				
7:30	朝食	7:30	朝食				
9:30	ブナ林観察	9:30	思い出の会				
12:00	昼食	12:00	昼食				
13:00	感謝の会の準備	13:00	閉校式				
15:30	六日町の食事づくり	13:15	六日町発				
18:00	感謝の会	18:00	学校着・閉校式				
19:00	健康観察・入浴	18:20	解散				
21:30	就寝						

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・米についての興味や関心から個別の課題を設定し、調べ学習を進め、課題に関する情報や考え、さらに調べてみたいことなどをまとめた。その学習経験から、南魚沼で見たいこと、知りたいこと、聞きたいことなどの高い意欲と明確な目的をもって参加できた。
- ・「米ノート」を作成し、課題や南魚沼で得た情報を即時に記入できるようにした。夜の「語らいの会」や事後の学習にも役立ち、セカンドスクール前後の学びのつながりが生まれた。
- ・お世話になる民宿の方へ自己紹介カードを作成して、事前に送付した。
- ・室長、企画係、食事係、保健係、整理係の各係で、仕事内容の確認をして準備を行った。
- ・生活指導員との交流会ではゲームや質疑応答などを行い、信頼関係を深めた。

### 2 事後の学習内容

- ・南魚沼で見たこと、知ったこと、聞いたこと、考えたことをまとめ、自分の課題の発信・表現方法についても考え、発表会を行った。
- ・六日町交流会ではお世話になった宿の方に感謝の気持ちを伝えた。4年生に向けて、セカンドスクールで学んだことや体験したことを紹介し、4年生のセカンドスクールへの意欲を高めた。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 八海山頂上散策

八海山ロープウェイに乗車し、八海山頂上を散策した。ロープウェイの中や山頂から南魚沼の町並みを見ることができた。児童からは「田や畑が多く、武蔵野市の様子とは違う。」

「山に囲まれた土地に田や畑がある。近くに流れている川から、水を田に取り込んでいるのではないか。」といった感想が聞かれた。頂上でも天候に恵まれ、南魚沼の町を一望することができた。雄大な景色に児童は感動していた様子であった。設置された説明書きや写真を見ながら、南魚沼の町の様子を確認した。



【八海山頂上散策の様子】



## 2 六万騎山登山

現地ガイドの方に引率してもらい、六万騎山の登山に挑戦した。気温が高かったが、木陰の中の登山だったので、頂上まで全員で声を掛け合い登ることができた。頂上での天候にも恵まれ、南魚沼の町の様子を一望することができた。「六万騎山」の名前の由来をガイドの方に教えてもらい、南魚沼市への興味・関心を深めていた。



【六万騎山頂上からの風景】

## 3 水生生物観察

現地ガイドの方から説明を受けながら、水辺や野原に生息する生物の観察を行った。クラスごとにいくつかの場所に分かれ、休耕田や用水路などで生物を探したり観察したりした。現地には東京では見られない生物も生息しており、児童は歓喜の声を上げながら生物探しに没頭していた。活動開始時には、生物に触ることに抵抗感をもつ児童もいたが、時間の経過とともに慣れ、どの児童も活動を楽しむことができた。学習のまとめとして各学級が見付けた生物を紹介したり、ガイドの方の説明を受けたりすることで、さらに南魚沼の自然の豊かさを学ぶことができた。



【水生生物観察の様子】

## 4 ブナ林観察

現地ガイドの方から説明を受けながら、ブナ林の散策を行った。散策道には、何年もの間積み重ねられてきた落ち葉や年を重ねた大きなブナの木があり、児童は自然の雄大さに驚いた様子だった。ガイドの方から、豊かな山々が米づくりに欠かせない美しい水を守っていることや、そこに生息する動植物の話詳しく聞くことができた。



【現地ガイドの方の話を聞く様子】

## <社会体験活動>

### 1 農業体験

現地農家の方の協力を得ながら、鎌を用いて稲刈り体験を行った。稲刈りをするために実際に田んぼに入ってみると、泥で思うように歩けないことに児童は驚いていた様子だった。また、刈った稲をわらでくるくもすることにも苦勞し、干すまでに多くの時間がかかった。予定された時間で稲刈りを終えた区画はわずかであり、手作業で農業を行うことの大変さを感じていた。社会で学習した農業器具の進歩や、機械化の大切さが分かったという感想を多くの児童が述べていた。午後にはカントリーエレベーターと精米施設を見学し、稲刈り後の米がどのように保管されるのか知ることができた。



【稲刈り体験の様子】

## <生活・文化体験活動>

### 1 宿舎での集団生活

家庭を離れ、布団の上げ下げや身支度、洗濯等の身の回りのことを自分たちだけで行うことは、児童にとってとても新鮮な経験になったようである。洗濯機に洗剤を投入することや洗濯物を干すこと、洗濯物を取り込んでたたむことなどをほとんど経験したことがない児童もおり、日常生活の営みを自分たちで行うことの大変さや大切さを感じていた。

事前に係の役割を確認していたが、初めのうちは時間通りに行動できなかったり、自分の役割を果たせなかったりする様子が見られた。しかし、5泊6日という長い時間を共に過ごす中で、話し合ったり協力し合ったりして自分たちで課題を乗り越えることができていた。時間の経過と共に、児童間の結束が高まり、生活が穏やかで充実したものとなっていくのを実感することができた。

「語らいの時間」には、班ごとに一日を振り返り、良かった点や改善点を出し合って翌日の活動につなげようとする姿が見られた。朝の会では、各宿で話し合ったことや生活をよりよくするための取組を伝え合い、共有できた。最後の夜には、「感謝の会」を通してお世話になった民宿の方々へ感謝の気持ちや楽しかった思い出を伝えていた。

## ○児童の感想

- ・僕が楽しかったことは、稲刈りです。コツは根元を刈ること、はざがけをする時にばらばらにならないように刈った稲をわらでしっかりとしばることです。カントリーエレベーターの見学では、刈った米がどのようにして白米になるか知りました。
- ・セカンドスクールでの学習を通して、南魚沼市のお米がおいしい理由は、豊かな自然や農家の人たちの情熱、たくさんの人の協力があることだと分かりました。

- ・6日間の生活がとても心に残りました。今度は、家族で新潟に行き、今回お世話になった宿にまた泊まりたいと思います。
- ・セカンドスクールを通して、時間についてのルールを守れるようになったことや同じ宿の仲間と仲を深められたことなど、成長したなと思うことがたくさんありました。
- ・時間にゆとりをもって行動できたので、学校でも5分前、10分前行動ができるようにしたいと思いました。また、最後の宿の掃除の時、役割を分担することできれいに掃除ができました。
- ・最終日の思い出の会では、思い出BEST3を劇にして発表することに決めました。とても緊張したけれどもうまくいきました。この成功は、みんなで案を出し合っ、リハーサルにたくさんの時間をかけて準備した結果だと思っています。
- ・学年のスローガンにあるように、最終日は、お世話になった方々に感謝の気持ちを伝えることができました。セカンドスクールで学んだ、みんなで協力して物事を解決するというのをこれからの学校生活に生かしていきたいと思います。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

セカンドスクールの中では、全ての時間を友達と共有しながら生活する。その時間こそが有意義であり、トライ&エラーを何度も繰り返し、成長につなげる機会となる。具体的には、共同生活の中で、意見をぶつけ合って話し合い、トラブルの原因と解決方法について語り合い、自分たちの関係をよりよくしていこうとしていた。自らの力で課題を乗り越え、よりよい人間関係を構築することができた経験は、今後の学校生活のあらゆる場面で生かされていくと思われる。引率教員の関わり方についても、トラブルが起きないように見回り、「～しなさい。」という指導の仕方から、「～のことについて、どうしたいと考えているか。」を問うようにしている。児童が自らの力で課題解決する過程をアシストする方向にシフトした。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・事業評価アンケートによる数値は、全体的に実施前よりも実施後にポイントが上昇した。学習、生活経験が達成感と自信につながり、全体的なポイントの上昇につながったと考える。この経験をファーストスクールでの学習、来年度の宿泊へとつなげることで、さらなる成長が期待できる。
- ・水生生物観察は、猛暑と天候の影響により観察場所が変更になり、水生生物を観察することが困難であった。プログラム名を変更するか、天気の影響によらない観察場所を確保することなどが必要だと考えている。
- ・最終日のプログラムを変更し、出発時間を早めに設定したい。今年度は、事故渋滞、高速道路を下りてから都内の渋滞に巻き込まれた結果、解散時刻が大幅に遅れた。
- ・感染症が流行していたこともあり、発熱児童を医療機関で診察してもらうことが多く、対応が大変だった。今後は、引率教員を増やすことなどの引率体制を検討する必要がある。



## 大野田小学校

## 長野県飯山市

9月20日～9月25日(5泊6日)

参加人数 男子63名 女子54名  
計117名

## ○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・長野県や飯山市の自然、文化、産業について興味・関心をもち、課題を見付けすすんで調べようとする態度を養う。
- ・課題を解決するための方法を考えたり、調べたことや体験的な活動を通して自分の考えをもったりすることができるようにする。
- ・体験的な活動、他者とのコミュニケーションを通して、課題に沿って必要な情報を集め、取捨選択することができるようにする。
- ・自分たちの住んでいる地域と飯山市を比較し、その違いや共通点、よさに気づき、地域を大切にしようとする心情や態度を育てる。
- ・調べたことを伝える方法を目的に合わせて工夫し、分かりやすく伝えることができるようにする。
- ・飯山市の人々や友達など、人との関わりを通して、コミュニケーション能力を高めるとともに、自分の考えを広げたり深めたりする探究心を育てる。

## ○日程表

9月20日(水)		9月21日(木)		9月22日(金)		9月23日(土)	
7:30	学校集合出発式	6:00	起床 健康観察	6:00	起床 健康観察	6:00	起床 健康観察
8:00	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
12:00	道の駅 千曲川 昼食	9:00	農業体験(稲刈り)	9:00	トレッキング	9:00	郷土料理体験(宿別)
13:30	戸狩着、開校式	12:30	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
15:00	はし作り	14:00	農業体験(脱穀)	13:15	課題別学習①	13:15	課題別学習②
17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	夕食(バーベキュー)
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:30	入浴
19:00	今日のまとめ	19:00	今日のまとめ	19:00	今日のまとめ	19:00	今日のまとめ
21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯	20:00	星空観察
						21:00	消灯

9月24日（日）		9月25日（月）	
6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
7:00	朝食	7:00	朝食
9:00	わら細工体験(宿別)	8:00	荷物整理、大掃除
12:30	昼食	9:00	清掃活動
13:15	課題学習③	10:20	閉校式
17:00	入浴	10:30	戸狩出発
18:00	夕食	11:15	小布施PA 昼食
19:00	お礼の会	16:00	学校着、帰校式
20:00	今日のまとめ	16:15	解散
21:00	消灯		

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・「戸狩の観光大使になろう」という学習単元を設定し、武蔵野市で調べることや考えることができる「戸狩のよさ」について学習を進めた。また、セカンドスクール後に4年生に向けてセカンドスクールで学んだことを発表する、という見通しをもたせて学習を行った。
- ・社会科の学習と関連付け、地図帳や雨温図など各種資料を活用しながら、戸狩の位置や地形、気候の特色を調べた。豊かな水を生かして生活をしていること、日本有数の豪雪地帯であること、自然が豊かであることなどについて知るとともに、現地ではこうした特色を生かした産業や暮らしの様子に関心をもてるようにした。
- ・飯山や戸狩の自然・伝統や文化、産業について、本やインターネットで調べた。そこから個人のテーマを設定し、各自が課題意識をもってセカンドスクールに取り組むことができるようにした。
- ・国語科の学習と関連付け、話し合い活動を宿舎班のメンバーで事前に行った。自分の課題について、調べたことをもとに、予想したり、現地で何を調べるのか確認したりするために、大切なこと（比較する、関連付ける、分類する等）を意識できるようにした。

### 2 事後の学習内容

- ・飯山や戸狩で学んだこと、飯山や戸狩のよさについて、体験したことをもとに話し合い、事前に設定した課題について理解を深めた。
- ・発表に必要なプレゼンテーションのスライドなどを学習者用コンピュータで作成した。
- ・戸狩観光大使として、4年生に向けて発表を行った。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 とん平トレッキング

民宿の方と一緒に、「とん平」へのトレッキングを実施した。「のろし台」、「お小夜の滝」、「川の上流」、「ゲレンデ」の4つの場所を、宿毎にローテーションしながら見学・体験した。「のろし台」からは、千曲川の両岸に広がる田んぼの様子や、千曲川の向かい岸の山々など、壮大な景色を見ることができた。「お小夜の滝」や「川の上流」では、千曲川に流れ込む川の源流に触れたり、理科の学習と関連させて川岸の様子を観察したりすることができた。



【のろし台から田園風景を望む】

#### 2 課題別学習 産業コース(カヌー体験)

課題別学習の「産業コース」として北竜湖でのカヌー体験を取り入れた。飯山の自然を生かした観光として、冬はスキーが有名であるが、冬だけでなく1年を通して様々なアクティビティが体験できることを知った。児童は、体験を終えて「スキーだけではない、様々な体験ができる戸狩は、人も集まるし、観光が産業になると分かった。」と体験から学んだことをまとめていた。



【カヌー体験の様子】

#### 3 課題別学習 水と森のコース(茶屋池周辺探索)

課題別学習の「水と森のコース」は、茶屋池周辺のブナの森を探索した。冬に降った雪の雪解け水を豊かに湛えた茶屋池、その周辺に広がるブナの森が、戸狩や飯山の豊かな水の源であることを知った。また、ブナの森の土壌でろ過され、豊富な養分を蓄えた水であることも、おいしいお米や農作物には欠かせないということを知り、戸狩の土地と気候と農業が密接に関わっていることを改めて確かめることができた。



【ブナの森の探索の様子】

### <社会体験活動>

#### 1 稲刈り・脱穀体験

1日かけて、稲刈りと脱穀を行った。午前中は、広い水田に実った稲穂を見ながら、鎌の使い方や刈り取った稲の束ね方などの説明をしっかりと聞いていた。2人1組で協力して、集中して作業に取り組んだ。それでも時間内に田んぼの4分の1ほどしか刈ることができず、作業の大変さを感じていた。午後、稲刈りの後の脱穀を行った。千歯こきと足踏み脱穀を使用した。脱穀機で取りきれない米や周りに落ちた米は、一粒も無駄にしないように手で取ったり拾ったりした。



【稲刈りの様子】

社会科で学習した内容を実際に体験することで、より深く理解することができた。

## <生活・文化体験活動>

### 1 はし作り

開校式の後、各宿に移動して最初の体験活動「はし作り」を行った。小刀とやすりを使って、セカンドスクール期間中、自分自身が使うはしを作った。竹を削る作業が予想以上に難しく、作業が思うように進まない児童もいたが、教え合いながら根気強く作業し、完成させることができた。



【はし作りの様子】

### 2 笹寿司作り

飯山の郷土料理である笹寿司を作る体験をした。まず、笹を地域の山に取りに行き、宿に戻って卵焼きを作り、具材を切り、最後に小判型の形に整えて完成させることができた。戦国時代から続くこの料理が、有名な戦国武将も食べていたことを知り、長い時間を超えて昔と今とがつながるような不思議な気持ちになったという感想をもった児童もいた。



【笹寿司作りの様子】

### 3 課題別学習 雪国の暮らしと伝統文化コース

課題別学習の一つとして、雪国の暮らしと伝統文化について学んだ。飯山市ふるさと館では、地域で使われていた道具や雪国ならではの生活道具に触れたり、その道具を使ったりしながら暮らしについて理解を深めた。また、近くの手すき和紙体験工房では、飯山の伝統工芸品である「内山紙」を作った。「内山紙」の数少ない職人の方から和紙の材料や作り方について学んだ後、和紙すきを体験することができた。



【和紙すきの様子】

## ○児童の感想

- ・ 稲刈り体験を通して、米作りの大変さを実感しました。多くの苦労をしながらお米を作ってくれた人への感謝や、これからの米作りの未来についても考えることができました。
- ・ 飯山の暮らしは、雪と密接にかかわっていることに気づきました。雪解け水の用水路、背の高い消火栓など、雪国らしい暮らしの特色を見つけることができました。
- ・ 飯山に行く前の漠然としてイメージが、現地で体験したり見たりすることで、より深く知ることにつながりました。特に、米作りの苦労は大変であることを肌で感じてこれからもお米を大切にしていきたいと考えました。
- ・ ブナ林などの散策を通して、ブナの森が人々の生活と密接に関わっていることや、人々がそうした自然を大切にすることによって自然が豊かであることに気づきました。これからも自然を大切にしていきたいです。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

1学期に教科学習で学んだことや、総合的な学習の時間の中で、戸狩の気候や土地の特色を

調べることに加え、飯山が抱える問題点についても学んだ。セカンドスクールを通して「戸狩観光大使になろう」という学習目標を設定し、事後に他学年へプレゼンテーションするという場を作ることで、児童は主体的に自分の課題を追究していく意欲を高め、戸狩のよさを見つけるという目標をもってセカンドスクールを過ごすことができた。

また、宿舎での共同生活を通して、集団行動において大切なこと、人との関わり方や折り合いのつけ方、協力することなど、多く学んでいた。帰校後は、話を聞く、時間を守る、相手の意見を受け止める、自分の役割に責任をもって取り組むなど、他者との関わり方や自分との向き合い方に変化が見られた。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

### <成果>

- ・9月下旬の実施だったこともあり、全日程、天候に恵まれて、戸狩の特色を存分に味わうことができた。
- ・カヌー体験は、観光業やスポーツなど複数の違った視点から体験をふりかえることができた。
- ・今年度から、地域の伝統料理である笹寿司づくり体験を再び実施した。今までは新型コロナウイルス感染症対応で実施が難しかったが、やっとな食文化について、児童が自らの手で体験できるようになったことは大きな収穫であった。
- ・毎日の宿舎での話し合い活動を通して、その日の問題点や解決に向けた方法などをみんなで考えることができた。また、話し合うことによってお互いをさらによく知り、今まで以上に深いつながりが生まれた。
- ・宿での時間の使い方を柔軟にしたことで、宿の方の話を聞く時間を確保できた。
- ・5泊6日という長い期間を戸狩で過ごし、多くの体験をしたことは、児童が自らの成長を感じることに繋がった。また、武蔵野では味わえない自然とのふれあいや、この体験を支えてくださった宿の方とのふれあいは、児童一人ひとりの心を豊かにし、感謝の気持ちをもつことに繋がった。多くの児童が、この経験は、これからの小学校生活や自分の人生においても、生かしていくことができる経験であることに気づいていた。
- ・子どもたちの「生きる力」を測るアンケートでは、「生きる力」の変容で4ポイント、その他の項目でも2～4ポイントほど増えた。この結果から、セカンドスクールの経験が、生きる力を育て、自己肯定感を高める機会となったことを表していると考えられる。

### <課題>

- ・インフルエンザで発熱し、途中で帰京する必要がある児童が多数いた。保護者に迎えに来ていただく際の留意点や方法、保険について何をどこまで事前に伝えておくべきなのか、整理しておく必要があると感じた。
- ・昨年度までは、最終日の出発前に学習発表会として、自分たちの学びを宿の方へ発表する機会を作っていた。今年度は、その時間を、お世話になった宿の方への感謝をこめて、清掃活動とする時間にした。自分たちが使った場所をきれいにするのは学校の清掃活動でも行っているが、今年度の変更でどのような効果があるか、評価をしっかりと行う必要があると感じている。

## 境南小学校

## 新潟県南魚沼市

9月30日～10月4日(4泊5日)

参加人数 男子39名 女子44名  
計83名

## ○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・南魚沼の自然や雪国・米どころの暮らしの特徴を理解する。
- ・南魚沼の特色から、それぞれの課題に沿って必要な情報を収集する。
- ・得た情報を取捨選択しながら考え、表現する力を育成する。
- ・力を合わせて目標を達成し、よりよくしていこうとする態度を養う。
- ・南魚沼の人々との交流や、集団生活を通して、他者理解や協調性を学ぶ。

## ○日程表(4泊5日短縮日程)※インフルエンザの流行により、出発を1日送らせて実施した。

9月30日(土)		10月1日(日)		10月2日(月)	
13:00	集合	6:30	起床	6:30	起床
14:00	出発	7:15	朝食	7:15	朝食
17:15	開校式	9:30	ハイキング	9:00	課題別フィールドワーク
	宿へ移動・荷物整理	11:30	下山	12:00	昼食
	避難訓練	12:00	昼食	13:00	課題別フィールドワーク続き
18:15	夕食	13:00	宿別体験	15:15	課題別グループワーク
19:00	箸作り体験	16:30	入浴・学習の記録	16:15	宿へ帰る
20:00	入浴	18:00	夕食	16:30	入浴・学習の記録
	学習の記録	19:00	ちまき作り体験	18:00	夕食
21:00	夕会	20:00	夕会	21:00	夕会
21:30	就寝	21:00	就寝	21:30	就寝
10月3日(火)		10月4日(水)			
6:30	起床	6:30	起床		
7:15	朝食	7:15	朝食		
9:00	稲刈り体験	9:00	笹団子体験		
11:30	昼食	10:30	荷物整理・大掃除		
13:00	父から学ぶ、南魚沼の米作り	11:30	昼食		
14:10	学年レク	12:30	閉校式		
17:00	ぬか釜炊爨	12:40	出発		
17:30	BBQ	16:00	学校着		
19:00	お別れ会	16:05	帰校式		
20:00	夕会	16:20	解散		
21:00	就寝				



## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・課題別探究学習の内容（自然、観光、歴史、雪国の暮らしと伝統、農業）について、社会の学習に関連させて事前学習を行った。調べて分かったことや疑問に思ったことを学習者用コンピュータでまとめた。
- ・現地で行う夕会では、宿毎にその日に起こったことの振り返り、課題に対してどのように解決していくかを話し合うことを目的とした。児童主体で運営することができるよう、事前に宿ごとに集まり、「どのようなセカンドスクールにしたいか」というテーマで話し合った。
- ・理科の学習にて、星座早見盤を用いて、当日見えることが予想された星座を確認した。

### 2 事後の学習内容

- ・課題別探究学習後、テーマごとに分かれ、体験したり話を聞いたりして分かったこと、気付いたことを基にまとめる活動を行った。話し合いを通して、新たな疑問をもつ姿が見られた。
- ・作成した資料を基に発表し合う場を設けた。発表する際には、国語科の学習で学んだ、「事実と自分の考えを分けて構成を考えること。」「写真や図表を効果的に活用すること。」「詳しく且つ具体的に伝えること。」を意識していた。

## ○特色ある学習内容

### <社会体験活動>

#### 1 農業体験

稲刈り体験では、宿の方から稲刈りの手順についての説明を受け、作業を始めた。特に鎌の扱い方については、危険のないように丁寧に指導を受けた。宿ごとに分かれ、児童は興味津々に稲刈りを開始した。鎌の扱いに慣れるまでは、ぎこちない動きで苦勞している児童もいたが、時間の経過とともに鎌の扱い方や束ね方に慣れ、徐々に上達していった。手慣れた児童が丁寧に友達にアドバイスをしたり、励ましの言葉を掛け合ったりしながら時間ぎりぎりまで夢中になって取り組む姿が見られた。その後、はざかけ体験を行った。事前に見学した天空米の干し方（リフトに掛ける）との違いに気付く児童もいた。農家の方の話を聞いたり、稲を丁寧に刈る農家の方の作業の様子を見たりして、農家の方は稲を一つ一つ大切に育てていることに気付くことができた。



【稲刈りの様子】



## <生活・文化体験活動>

### 1 箸作り体験

宿に到着後、セカンドスクールの期間中に使用する自分の箸を作った。小刀の扱いについての指導を十分に受け、安全に気を付けて活動した。熱心に体験に取り組む姿が見られ、それぞれが納得のいく箸が完成した。また、自分が使用するというので、オリジナルの箸に愛着をもって扱う姿が見られた。



【箸作り体験の様子】

### 2 笹団子作り体験

最終日の午前中に、笹団子作りを体験した。作り方を教わりながら、楽しそうに餅にあんこを詰める姿が見られた。家で待っている保護者や家族へのお土産となるため、蒸して完成した時には満面の笑みを浮かべていた。児童は2日目にも「ちまき作り」を体験しており、南魚沼市では昔から米を使った料理が豊富にあることに気づき、お米が生活に根付いていると感じていた。

## <課題別探究学習>

### 1 自然

ブナ林とスギ林の違いについて考えた。また、なぜブナ林の地面はふかふかなのか予想をして、その後実際に踏んだり落ち葉をどかしたりして確かめていた。セカンドスクールで印象に残ったことをテーマにクラフト体験を実施した。自然と自分たちの生活とのつながりを実感している様子が見られた。

### 2 観光

体験や講話を通して、南魚沼地区の観光について学んだ。地域の特色を生かした温泉やお寺を巡り、市やまち全体で観光事業の取組を支えていることを知った。また武蔵野市と比較し、現地で互いのよさを見付けられるよう視点をもたせた。

### 3 歴史

まず、関興寺で座禅体験を行った。和尚からは、その目的を伺い体験と知識を結び付けていた。次に、雲洞庵に向かい、上杉謙信や直江兼続が学んでいた場所を見学し、ガイドから5つの御利益の話を聞いた。最後は、日本でも随一の大きさを誇る山城である坂戸城跡に行った。



【座禅体験】

#### 4 雪国の暮らしと伝統

夏は気温が高く、冬は豪雪地帯である南魚沼地区の気候や風土について学んだ。南魚沼地区の伝統工芸をつむぎ記念館で、雪国の暮らしぶりを牧之記念館でそれぞれ学んだ。機織り体験も行った。



【機織り体験】

#### 5 農業

社会科の「日本の農業」についての学習を生かして、新潟県の農業について調べ、米やミニトマトの生産について学んだ。特色ある経営をしている農家を見学して、学習者用コンピュータを活用した栽培方法や、消費者の期待に応える商品作りに関心を高める児童の姿が見られた。



【ミニトマト農家見学】

### ○児童の感想

- ・稲刈り体験を通して、お米として食べられるようになるために、たくさんの苦労があることが分かった。昔はこれを手作業でやっていたと思うと、その大変さをより感じた。限りあるお米を大切に食べたいという気持ちが強まった。
- ・ブランド米を育てるのがこんなに難しいとは知らなかった。お米のおいしさをより感じるようになった。
- ・自然の恵みを学び、農家さんの思いを知った。感謝の気持ちを込めて食事をしたいと思った。
- ・新潟には豪雪地帯があると聞いていたけれど、実際に行き宿の方のお話を聞いたり町の様子を見たりして、住んでいる人たちの苦労や工夫が分かった。また、水をくらしに生かしているなど感じた。
- ・時間を守る大切さを学んだ。一人一人の意識とみんなでいるんだという気持ちをもつことが大切だと感じた。また、様々な人に支えられていることが分かったので、感謝の気持ちを忘れずに過ごしたい。

### ○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

子どもたちは、3つの目標を掲げてセカンドスクールに臨んだ。それは、協力すること、感謝の気持ちをもって人と接すること、地域の特色を学ぶことである。この目標を最後まで意識して5日間を過ごし、大きな達成感を味わうことができた。

毎日の振り返りでは、どうしたいか、そのために何を大切にするか、具体的にどう行動するかについて話し合った。話し合いで決めたことを翌日実践し、また振り返るというサイクルを行うことで、本校の目指す児童の姿である「主体的に学ぶ」意識が高まった。本年度は感染症

の影響で、参加できなかった子どもが多数いるため、現地で身に付けた力をファーストスクールで広げていく必要がある。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・「先を見通して、自分で計画が立てられる」や「自分で問題点や課題を見付けることができる」などの計画性についての質問は肯定的な回答が少なくなった。このことから自己をしっかり振り返り課題として自己分析できる児童が増えたと考えられる。
- ・前向きな姿勢の項目については特に変化はなかった。欠席多数のために帰校後にあまりセカンドスクールについての話に触れなかったことが原因だと思われる。
- ・4日目に「父から学ぶ 南魚沼の米作り」を行った。「事前の知識」と3日目の課題別フィールドワークの「体験で学んだこと」が南魚沼の米作りを中心とした生活につながっていたことに気付くことができた。
- ・実施地を今年度より変更したことで、教員も見通しをもつことが難しかった。次年度に向けて資料を残しておくことで活動の見通しをもてるようにする。
- ・宿別体験については、こちらからの提案不足もあり、宿によっては実施内容が定まらない状態で本番を迎えてしまったところもあった。次年度ではこちらからもできそうなことを提案し、晴天雨天どちらになっても充実した活動ができるよう準備していく。
- ・稲刈りの時期が今年度は大幅に遅れてしまい、現地の方の損失となる事態になってしまった。猛暑であることで稲刈りの時期が早まったこともあるので、実施時期についても再考が必要かもしれない。

## 本宿小学校

## 新潟県南魚沼市

9月21日～9月26日(5泊6日)

参加人数 男子31名 女子27名  
計58名

## ○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然と調和して生きることの大切さや魅力を深く理解する力
- ・自然の美しさや力強さに感動する心
- ・自ら学びたいことを選び、追究したい課題を具体的に設定する力
- ・自分の課題を解決するために情報を集めて整理し、自分の言葉で人に伝える力
- ・自分にできることを主体的に考え、人と協働する力
- ・自分の生き方や生活を見つめ、改善、向上させようとする前向きな姿勢

## ○日程表

9月21日(木)		9月22日(金)		9月23日(土)		9月24日(日)	
8:30	学校集合 出発式	6:00	起床・健康観察	6:30	起床・健康観察	6:30	起床・健康観察
9:00	出発	7:00	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
12:30	昼食	9:00	ネイチャークラフト	9:00	塩沢宿ウォーク	9:00	課題別学習
13:30	八海山ロープウェイ	12:00	昼食・入浴	13:00	昼食	12:00	昼食
15:00	到着 開校式	13:30	座禅体験	14:00	稲刈り体験	14:00	ぶな林トレッキング
16:00	マイはし作り	16:00	お別れの会準備	16:00	お別れの会準備	16:30	周辺散策
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	入浴・学習のまとめ	19:00	入浴・学習のまとめ	19:00	入浴・学習のまとめ	19:00	入浴・学習のまとめ
20:00	学びの時間	20:00	学びの時間	20:00	ナイトウォーク	20:00	星空観察
21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝
9月25日(月)		9月26日(火)					
6:30	起床・健康観察	6:30	起床・健康観察				
7:30	朝食	7:30	朝食				
9:00	三国川ダム見学 現地小学校交流会	9:00	笹団子づくり体験				
12:00	昼食	11:30	大掃除				
13:30	課題別学習のまとめ	12:00	昼食				
16:30	お別れの会準備	12:30	閉校式				
18:00	バーベキュー	13:00	出発				
19:00	入浴・学習のまとめ	16:30	学校着・帰校式				
20:00	お別れの会						
21:30	就寝						

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・課題別学習のテーマ（生活・産業・歴史・自然）に照らして、南魚沼市と武蔵野市の比較を行った。学習に際しては、Google スライドでフォーマットを配布し、インターネットを使って調べた。その中から自分の調べたい項目を決めた。現地で何を取材するのかを具体的に考え、質問項目をまとめた。国語科「みんなが過ごしやすい町へ」の調べ学習や社会科「寒い土地の暮らし」「米づくりのさかんな地域」、理科「流れる水のはたらきと土地の変化」の単元と関連付けて学習を進めた。また、武蔵野市民科のカリキュラムとして行った。

### 2 事後の学習内容

- ・課題別グループに分かれて、発表用スライドを作成した。南魚沼市で学んだことについて、校内児童発表会で全校に学習の成果を発表した。
- ・今回交流した北辰小学校と3学期にオンラインで交流した。武蔵野市民科のカリキュラムとして、南魚沼市と比較した武蔵野市のよさをまとめた。北辰小学校からは、南魚沼市の特色についての発表があった。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 八海山ロープウェイ

ロープウェイを使って八海山に登った。頂上から今回宿泊する上の原地区を眺めた。盆地の広がりや土地の様子を自分の目で確認した。

#### 2 後山ぶな林トレッキング

後山のぶな林をガイドの方と散策した。ぶなの葉や実の特徴、水を貯える働き、多くの生き物のすみかになっていることなど、ぶな林の役割を知り、自然環境や自然と共に生きる人々の暮らしについて学ぶことができた。



【後山ぶな林トレッキング】

#### 3 星空観察

「学びの時間」で星空観察を行った。雲一つない夜で、街灯がほとんどない観察地点からは、満天の星が見られた。また、夜にこうした時間を友達と共有できたことが、児童にとってよい思い出になった。

### <社会体験活動>

#### 1 稲刈り体験

稲刈り体験では、宿の方や地域の方に稲の刈り方と束ね方を教えもらい、作業を進めていった。米づくり作業の一端を体験することでその大変さを理解し、農家の方がたくさんの手間をかけ



て米を作ってくれているおかげで自分たちが米を食べられることを感じる事ができた。

## 2 三国川ダム見学

三国川ダムでは、短い時間だったが、堤防や展望台からダムの大きさを体感した。バスで周辺の自然を味わった。帰校後には、理科の学習で振り返りをした。



【稲刈り体験】

## 3 北辰小学校との交流会

4年ぶりに地元の小学校との交流会を行った。温かい歓迎を受けて会が始まり、レクリエーションで仲を深め、北辰小学校児童のプレゼンテーションから南魚沼の自然や米づくりについて学んだ。



【北辰小学校との交流会】

## <生活・文化体験活動>

### 1 ネイチャークラフト体験

地元の方に手順を教わりながら、南魚沼市の自然素材を使ってネイチャークラフトを行った。自分なりにデザインを考え、個性豊かな作品に仕上げることができた。これらの活動を通し、南魚沼の自然を感じ、地元の人たちの自然との関わりや工夫を学ぶことができた。

### 2 座禅体験

雲洞庵では、座禅体験をした。多忙であったり、悩んでいたりするときは座禅をして心を落ち着かせ、その事を一旦考えないことが大切だということを知った。「東京に戻ってからもうやってみたい」と言う児童もいた。

### 3 塩沢宿ウォーク

3つのグループに分かれて、つむぎ記念館と鈴木牧之記念館、中島屋の見学をした。つむぎ記念館では、伝統産業である織物体験をした。初めての機織りに戸惑いながらも、慣れるに従い徐々に長くなっていく様子を見て、「もっとやりたい」と楽しんでた。



【つむぎ記念館織物体験】

### 4 郷土料理(笹団子)づくり

各宿で、地元の講師の方と交流しながら笹団子づくりに取り組んだ。初めは戸惑っていたが、慣れるに連れて楽しんで取り組み、できあがった笹団子を味わっていた。

## <課題別体験学習>

### 1 雪国の生活

1,000トンの雪を収容する雪中貯蔵庫を見学した。日本酒の熟成だけでなく、野菜等の貯蔵にも使われていることを知り、1年間を通して雪が活用されていることに児童も驚いていた。六日町の駅前には消雪パイプや雁木、縦型信号機など設備などがあることを知り、宿周辺では、高床式の家や雪を溶かす水路など町の中の雪国の暮らしの工夫を見付け、自然環境に合わせた人々の生活について学ぶことができた。

### 2 南魚沼の米

社会科で学習したカントリーエレベーターの見学を行い、収穫した粳をスムーズに受け入れる施設、トラックに積んだまま米を計量できる仕組みなどを、関心をもって調べることができ



た。また、粃が乾燥から貯蔵、精米、パッケージされていく過程を知り、カントリーエレベーターが果たしている役割を学んだ。豊かな自然環境を生かしながら、米づくりに関わる人々がこうした施設や設備を使い、様々な努力や工夫を重ねていることに気付くことができた。

### 3 坂戸城跡

坂戸山に行き、山城であった坂戸城とはどのような城だったのかをテーマに、人工的にめぐらせた内濠や坂戸山からの景色や住居の跡などを実際に見ながら、講師の話聞いた。地元の人々に親しまれていた上杉景勝と直江兼統の生涯を知る機会となった。

### 4 源流の学習

「川は、どこから流れてくるのか」「川にはどのような生き物がいるのか」といった課題をもって活動に臨んだ。川の源流に行き、小さな生き物を観察した。普段見られない生き物を見たり、講師の話の聞いたりすることで、川や水に関する学習を深めることができた。

## ○児童の感想

- ・八海山ロープウェイは、最初は怖かったけど、途中からきれいな景色が見えて、とても嬉しかったです。展望台に行くと、南魚沼市の全体が見渡せました。
- ・マイ箸づくりでは、深く刃を入れすぎると危ないしやりにくいので、刃の入れ加減を調節するのが難しかったです。出来た箸を見せ合いっこしたのが楽しかったです。
- ・ネイチャークラフトが楽しかったです。同じ材料を使っているのにふちに飾りをつけている人もいれば、顔にしている人もいて、みんな少しずつ違っていて、見ているだけでも、楽しむことができました。友達にも手伝ってもらい、とてもいい作品をつくることができました。
- ・座禅体験では、「本当の自分」を見つけられた気がしました。座禅体験をして、もっと「自分」を大事にしようと思いました。
- ・牧之通りの散策では、昔の雪国の家がならんでいて、これこそがザ・新潟と思いました。
- ・稲刈り体験では、稲をまとめるのが難しく、友達に助けてもらわないとできなくて、稲刈りの人の大変さがよく伝わりました。稲を切るのがノコギリみたいでした。稲を少しでも落としていたら、必ず拾うことを意識しました。
- ・ブナ林では、森林や自然のよさが改めてわかりました。積もった雪でブナの木が横に曲がって成長したのを知って、雪国ならではの道と思いました。
- ・星空観察では、いくつもの星が見られ、こんな景色を東京でも見たいなと思いました。
- ・三国川ダムを見学して、湖みたいでとても広くて大きい場所だなと思いました。ダムは初めて見たので、すごかったです。
- ・北辰小学校との交流会では、いろいろなゲームで楽しむことができました。最初にやった名前リレーで、北辰小学校の人たちの名前を覚えられて、最初はみんな緊張して全然しゃべらなかつたけど、このゲームで笑いが増えました。
- ・笹団子作りでは、先生にお手本を見せてもらいながらやりました。そのおかげで自分だけの笹団子を作ることができました。すごいいい経験になりました。
- ・お別れ会は、お父さん、お母さんと最後の夜となりました。ゲームをしているうちに、どんどん寂しくなってしまうました。そして自分が感謝の言葉を言おうとしたとき、緊張して言

葉が出なくなっただけで、なんとか言葉を言い切ることができました。その後、先生の言っていた感謝が分かってきた気がしました。

- ・セカンドスクールを通して、改めて礼儀や感謝を大切にできたと思いました。東京ではできないことをたくさん学びました。友達と約一週間過ごせたことに感謝しています。一人ではできないことでもみんなと一緒にだったらできることってたくさんあるんだなと思いました。
- ・一番思い出に残っているのはご飯の時間です。毎日違う話をして「今日はどんな話かな」と心を踊らせていた日もありました。家ではテレビを見ながら食べていますが、みんなと対面で食べるご飯はすごく楽しかったです。
- ・帰る前では宿の人と最後に会うときに少し泣いてしまいました。それだけ宿のお父さんお母さんに支えてもらえていたんだなと帰りに思い出したときに泣いてしまいました。
- ・いつも学校では、あまり発言することがなく、男の子たちと話したこともあまりなかったけど、このセカンドスクールのおかげで、生活面でも、学習面でも、私も友達（みんな）もとても大きく成長できたと思います。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

今回のテーマとして、「礼儀・感謝・学び」の3つを掲げた。児童の感想からは、このセカンドスクールを通して、多くのことが身に付いたと感じていることが伺える。帰校後の学校生活においては、日常的に明るく気持ちのいい挨拶ができるようになっただけでなく、周囲の大人たちに敬意をもって関わるようになった。キャリアパスポートや学校生活の振り返り自由記述では、多くの人に支えられていることへの感謝の気持ちを示すものが多く見られた。開かれた学校づくり協議会では、学年として行事や各教科学習等に意欲的に取り組むよい姿が見られているという評価をいただいている。

今回の学習事項は、武蔵野市民科と連動させる。今後、「武蔵野市のよさ」や「武蔵野市民として自分たちにできること」を考え、市政に参画していこうという意欲をもった児童を育てていく。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

今回の指導では、ファーストスクールでの成長につなげるために、自己の課題を発見することをねらいとしていた。事業評価では、実施後に各項目で数値がやや減少したが、宿舎で教員の手を離れて生活する中で、今の自分の能力を理解し、課題に向き合った結果ではないかと考えている。児童の自由記述による振り返りには、課題を見付けられたことに対する肯定的な評価や、セカンドスクールを通して学んだこと、礼儀、感謝等の思いが多く書かれていた。帰京後もこの経験をこれからの生活にどう生かすかを考える学習活動や生活指導を行っている。引き続き、各自の成長につなげられるように指導を続けていく。

交流学习ではこちらがイニシアティブを取れず、ねらいとするプログラムができなかった。次年度への課題として、先行して受け入れ先に学校としてのねらいと思いを伝えていきたい。

## 千川小学校

## 新潟県南魚沼市

9月4日～9月9日(5泊6日)

参加人数 男子31名 女子26名  
計57名

## ○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・ 現地の自然や人々の生活等について理解を深め、自然を大切にしようとする態度を育む。
- ・ 現地での学習を通して、自己やグループの課題解決のための情報を集め、整理、分析してまとめる力を育む。
- ・ 集団活動を通して、互いのよさを理解し合い、協力して生活する態度を養う。
- ・ 現地の方々との交流や自然・文化体験を通して、よりよい地域・社会づくりについて考える力を育む。

## ○日程表

9月4日(月)		9月5日(火)		9月6日(水)		9月7日(木)	
8:00	学校出発	6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔
11:30	昼食	7:30	朝食	6:30	朝会	7:30	朝食
13:00	八海山ロープウェイ乗車	9:30	稲刈り実習	7:30	朝食	9:30	後山ブナ林トレッキング
14:00	開校式	12:00	昼食	9:00	わら細工作り		
15:30	マイ箸作り	13:30	JAカントリーエレベーター見学	12:00	昼食	12:00	昼食
17:30	夕食	14:30	ちまき作り	13:00	各宿での活動	13:30	各宿での活動
18:30	天体観測	17:30	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食(バーベキュー)
20:00	健康観察	20:00	健康観察	20:00	健康観察	20:00	健康観察
20:15	入浴	20:15	入浴	20:15	入浴	20:15	入浴
21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝
9月8日(金)		9月9日(土)					
6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔				
7:00	朝食	7:30	朝食				
9:00	課題別学習	9:30	笹団子づくり				
12:00	昼食	12:00	昼食				
14:00	雲洞庵座禅体験	13:00	閉校式				
18:00	夕食	16:30	学校到着				
19:00	感謝の会	16:45	到着式				
20:00	健康観察						
20:15	入浴						
21:00	就寝						

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・社会科の学習において、米作りのさかんな地域について学習した。その地域の気候や地形の特色、米作りの方法などとともに、安心でおいしい米を作るために働く人々の工夫や努力について、理解を深めた。また、米の消費量が減っていることと関連付けて、米を使ったレシピを考えるという活動も行った。
- ・総合的な学習の時間に、南魚沼市から送っていただいたコシヒカリの苗を学校の自然体験園に植えた。稲の成長をスライドにまとめ続けることで興味を高められるようにした。
- ・セカンドスクールで行う活動と水・米・歴史文化・水生生物の4グループに分かれて行う課題別学習について調べた。事前に、体験することをインターネットや本で調べ、体験学習への興味・関心を高め、学習が深められるようにした。
- ・新潟県の地形や食文化、セカンドスクールで体験することなどについて調べ学習を行い、クイズを作成した。現地に行く前やバスでのレクリエーションで、みんなで取り組んだことで興味を高められるようにした。

### 2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールの課題別学習で学んだことをスライドにまとめた。事前学習で調べたこと、実際に現地で見たり聞いたり体験したりしたことを項目立ててまとめることができた。
- ・事前学習で調べたことや、現地で体験したことを基にして、学習発表会で発表を行った。まず、セカンドスクールで学んだことを整理した。そして、学んだことを分かりやすく伝えるために、クイズも含めて劇にして、表現した。今回学んだことを今後の学校生活に生かしていきたいという意欲を高めることができた。
- ・セカンドスクールを通して学んだことや考えたことなどについて現地でお世話になった人に向けての手紙という形でまとめたことで、感謝の気持ちをもつことができた。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 八海山ロープウェイ、展望台

ロープウェイを利用して八海山の展望台まで上がった。山に囲まれている南魚沼市の地形の特徴（扇状地）や中央を流れる魚野川、流域の水田の多さを実感することができた。また、麓との寒暖の差も体験したことで、八海山の標高の高さを体感することができた。

#### 2 後山ブナ林森林トレッキング

水源林としても機能しているブナ林の森林をガイドの方2名と散策した。武蔵野市では見たことのない植物を見つけて説明を聞いたり、ふわふわした落ち葉の感触を足から味わったりして、自然の豊かさを実感した。また、山に囲まれた地形ならではの山びこを体験したり、菌糸を探したりするなど、五感を使って自然と触れ合い、楽しむことができた。

## <社会体験活動>

### 1 農業体験(稲刈り、野菜の収穫など)

稲刈り体験では、現地指導員の方に鎌の使い方を丁寧に教えていただいたことで、初めはぎこちなかった稲刈りも、素早く刈り取ることができるようになった。気温が上がり暑い中での活動となったが、指導員の方と一緒に粘り強く取り組むことができた。稲刈りや、はざかけの体験を通して、機械化になる前の手作業での米作りの苦労を知り、米の大切さを実感することができた。



【稲刈り体験】

その後、カントリーエレベーターを見学することで収穫された米がどのようにして保管されているのかを学ぶことができた。さらに、各宿でちまき作りをすることで、収穫から食べるまでの行程を1日で体験することができた。

米だけでなく、各宿の畑で野菜の収穫体験も行った。宿の方から話を聞きながら一緒に畑仕事をする中で、野菜を育てることの苦労とともに、自分たちで収穫した野菜を食べる喜びやそのおいしさを感じることもできた。

## <生活・文化体験活動>

### 1 一輪挿し作り

地元の方を講師に迎え、各宿で一輪挿しを作った。作り方を丁寧に教えてもらうことで、全員が作り上げることができた。また、同じ宿の友達同士で教え合ったり助け合ったりする姿を多く見ることができた。



【一輪挿し作り】

### 2 ちまき作り、笹団子作り

南魚沼市の伝統の食文化を、実際に作ることで学んだ。笹でもち米を包むことに悪戦苦闘しながら一生懸命作ったちまきを、翌日の朝食として食した。児童にとってなじみ深い五目ちまきとの違いに興味をもっていた。

最終日に行った笹団子作りは、宿の方や地元の方との最後の交流となり、5泊6日の締めくくりの活動として、非常に有意義な時間となった。

### 3 雲洞庵見学、座禅体験

歴史・文化に触れる活動として、座禅体験を曹洞宗の寺院である名利雲洞庵で行った。自然に囲まれ、静寂の中で黙想し精神を落ち着かせ集中するという貴重な体験ができた。また、「開かずの門」と言われている赤門や、参道の石畳、上杉景勝や直江兼続が戦国時代の武将になるための教養を受けていた場所がある本堂など、貴重な歴史的文化財をガイドの説明を聞きながら見学することで、より深く理解することができた。

## <課題別学習>

### 1 水グループ(三国川ダム・三国川頭首工・畔地浄水場)

生活や農業を支える豊かな水がどのようにして生まれるのか、三国川ダム・三国川頭首工を見学した。また、施設の方の丁寧な説明を通して、ダムや頭首工の役割について理解を深めることができた。

### 2 米グループ(精米所・ぬか釜体験)

J Aの職員の方の説明や映像資料を通して、収穫した後の米がどのように精米されて、消費者まで届いているのかを学んだ。ぬか釜体験では、指導員の方に昔ながらの米の炊き方を教わった。炊きあがった米のおいしさにどの児童も驚いていた。

### 3 歴史文化グループ(鈴木牧之記念館、中島屋)

江戸時代の文筆家である鈴木牧之の記念館では、雪国の生活について著した「北越雪譜」や地域の特産品である「塩沢紬」について学んだ。中島屋では、雪国の伝統的な家屋の工夫や地域の風習について教わった。

### 4 水生生物グループ

地元の藤原水源に行き、湧き水を飲んだり水生生物を探したりした。天然記念物であるハコネサンショウウオの姿も見ることができ、付近が豊かな雪解け水の恩恵を受けていることやその水がおいしい米づくりに欠かせないことなどを実感することができた。

## ○児童の感想

- ・セカンドスクールに行くまでは「やってね！」と言われたことも「後でやる！」と言って、後回しにしていました。でもセカンドスクールを通して、「やってね！」と言われたことは後回しにせず、すぐにやらないといけないので後回しにすることが少なくなりました。また、「やってね！」と言われる前に考えて自分から行動をすることが多かったので、先を読んで行動することができるようになったと思います。
- ・私はいろいろな友達と交流できたのではないかなと思いました。なぜなら、食事の時最初は、あまり席を変えずにいましたが、3日目からは、なるべく席を変えて他の人と喋るようにしたからです。
- ・学校であまり話したことがない友達とちゃんと話せるかが心配でした。でも、一緒に活動していくうちに話せるようになり、話してみると面白いんだなと感じました。また、結構話していた友達にも、こんなところあるんだなと友達の違う一面も知れました。
- ・自分の持ち物の管理、整理整頓や時間の管理ができるようになった。
- ・しっかりとあいさつやお礼を言うことができるようになった。
- ・友達とけんかしたときには、話し合いで仲直りが出来たことが一番の成長だと思う。
- ・食べ物への感謝の気持ちを見直すことができた。
- ・先生がほとんどいなくても何日か過ごしていたら自分たちで行動できた。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

セカンドスクールでは、室長を中心に目標を「けじめつけ みんな楽しむ セカンドスクール」と決め、取り組んだ。また、セカンドスクール期間中は、係ごとに反省点や改善点を出し合い、日に日に改善することができるようになった。学校生活の中でも、行事などでは、実行委員会を中心に児童主体で話し合い、改善できるようにしていく。

現地の体験では、学ぶことの楽しさを味わうだけでなく、現地の方々との関わりを大切にしてきた。このような素晴らしい経験をする事ができたのは、直接関わった方だけでなく多くの方々の協力があったからであることを知り、自分は多くの人々に支えられているということに気付くことで、日頃の生活の中でも自分を支える人々への感謝の気持ちをもって生活できると考える。

そのような心の成長を土台として、ファーストスクールでの学習でも、自分たちで考え、正しい行動がとれる力をさらに身に付けていけるよう、指導していく。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

### 成果

- ・初日に八海山ロープウェイで八海山展望台に登ったことで、これから1週間過ごす南魚沼の地形や自然を観察することができた。
- ・宿ごとの活動では、周辺散策や農作業、パン作りなど、実施地や宿主さんの特性を生かした活動をすることができた。
- ・事後アンケートでは、「季節の変化を感じる事ができる」「洗濯機がなくても、手で洗濯ができる」「お金やものの無駄遣いをしない」という項目に対して、肯定的に答える児童が多くなった。宿での集団生活を通して、生活習慣を見直したり、自然と触れ合ったりした成果だと考えられる。

### 課題

- ・しいたけパックセンターの見学や、日本大学セミナーハウスでの天体観測が感染症拡大防止の観点から中止となった。例年、充実した教育活動となっているので、引き続き見学依頼をしていく。
- ・事後アンケートでは、「多くの人に好かれている」「自分かってな、わがままを言わない」の平均値が下がった。教員の手を離れて生活する時間が多くなった中で、友達と関わることで衝突や、トラブルが起きたことが原因として考えられる。だが、児童の自由記述による振り返りには、落ち着いて話し合うことでトラブルを解決することができるようになったことや、それによって全員が楽しく活動や生活を進めることができたこと、集団の大きさを理解する大切さや、自分の少しの行動で集団が乱れてしまうことを肝に銘じたいなど、自分たちの課題へ向き合うための意見が多く見られた。この経験を引き続き、各自の成長につなげられるように指導を続けていく。
- ・次年度の課題としては、学習のねらいをそれぞれの受け入れ先に明確に伝え、より充実したプログラムとなるようにすることである。



## 井之頭小学校

## 長野県飯山市

9月22日～9月27日(5泊6日)

参加人数 男子36名 女子46名  
計82名

## ○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・飯山での体験活動を通して、飯山の自然と人との関わりについて理解を深める。
- ・飯山の自然とのふれあいや現地の人の話を聞く活動を通して、自然を利活用していることを知り、自然を大切にしようとする態度を育てる。
- ・飯山のまちのよさについて、調査や体験したことを基に各自で考え、それらをグループとして統合、表現する活動を通して、情報を基に考える力を育てる。
- ・自己の課題を設定し、見学や活動を通して飯山について学んだことを整理し、よりよい活動にしようとする態度を育てる。
- ・長期にわたる集団生活を通して自立した生活を送る技能を身に付けたり、友達と協力したりして、目標を達成するための話し合いや合意形成の回り方の理解を深める。
- ・現地の方々と関わりや、体験活動を通して、飯山における課題を自分事としてとらえ考える力を育てる。

## ○日程表

9月22日(金)		9月23日(土)		9月24日(日)		9月25日(月)	
7:30	学校集合 出発式	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
8:00	出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
12:45	戸狩到着	9:00	郷土食体験	9:00	ブナ林散策	9:50	飯山線乗車
12:55	開校式	11:30	昼食	12:30	昼食	10:10	寺町めぐり
13:10	昼食	14:00	雪国のくらし学習	13:30	米作りの講話	12:00	昼食
14:30	箸作り	15:00	手紙書き	14:00	稲刈り、脱穀体験	14:30	スケッチ
17:00	健康観察	16:00	入浴・健康観察	16:00	入浴	16:00	健康観察
18:00	夕食	18:00	夕食	17:00	健康観察	17:00	夕食
19:00	入浴	19:00	暗闇体験	18:00	夕食	19:00	入浴
20:00	振り返り	20:00	振り返り	20:00	振り返り	20:00	振り返り
21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝

9月26日（火）		9月27日（水）	
6:00	起床	6:00	起床
7:00	朝食	7:00	朝食、大掃除
9:00	課題別学習	9:30	閉校式
12:00	昼食	10:00	戸狩出発
13:30	宿ごと勤労体験	12:00	昼食
16:00	健康観察	15:00	学校到着
17:30	夕食	15:10	帰校式
18:15	感謝の交流会	15:30	解散
19:45	入浴、振り返り		
21:00	就寝		

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・昨年度のセカンドスクールの様子をスライドで見て、事前にどのような準備や学習が必要か、学年や学級のめあてについて話し合った。
- ・飯山市の「自然・動物」「農業・暮らし」「歴史」「食文化・伝統文化」「気候・自然」などのテーマについて個人課題を決め、本やインターネット等を使って調べ学習を行った。調べた内容は学習者用コンピュータを用い、ドキュメントシートやスライドなどにまとめた。

### 2 事後の学習内容

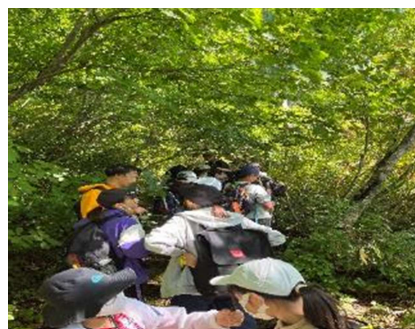
- ・セカンドスクールで体験したことや学んだこと、成長したことなどを作文にまとめた。
- ・宿のお父さん、指導員、4年生へセカンドスクールで学んだことを伝えるため、発表のテーマを学級で話し合い、スライドにまとめ、教室で報告会を行った。その後、宿のお父さん、指導員へ感謝の気持ちを伝えるための出し物を体育館で行った。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 ブナ林ハイキング

各宿のお父さん方をガイドとして、茶屋池周辺に広がるブナ林のハイキングをした。ハイキングの前に、水源林やブナの特徴の話を聞いた。ハイキングの途中、ブナの木に触れ、観察したり、落ち葉の堆積した地面を踏みしめたりしながら、豊富な水を蓄えるブナ林の特色や、自然環境の中で果たす役割について肌で触れながら学ぶことができた。山道をハイキングすることで、自然と触れ合い、生き物や人間と自然がどのように関わっているのか実感することができた。



【ブナ林ハイキングの様子】

## 2 暗闇体験(星空観察)

日が落ちて真っ暗になった飯山の夜道を各宿のお父さんと一緒に歩いた。また、満天の星を観察した。東京の街とは異なり、街灯や家、店の明かりがなく、今までに体験したことのない暗闇に児童はわくわくしている様子が見られた。また、暗闇の中で見る星空は、天の川までくっきりと見え、感動しながら観察していた。

## <社会体験活動>

### 1 農業体験(稲刈り、はぜかけ、脱穀体験)

作業前に農業の工夫や苦勞、働くことの意義などを話していただき、農業への関心や稲刈りへの意欲を高めることができた。その後、宿のお父さん方の指導で稲刈り・はぜかけ・脱穀を行った。稲刈りでは、鎌の使い方や体の動かし方を習い、一生懸命に取り組む姿が見られた。「お米を作るのって大変な作業だ。」という児童の声も聞こえた。はぜかけでは、稲穂の束ね方から教えていただいた。脱穀では、刈り取った稲を束にして、千歯こきや足踏み脱穀機を使って脱穀を行った。実際に使われていた昔の道具を使いながら、当時の人々の苦勞を学ぶことができた。全ての作業を通して、「一粒のお米も無駄にはいけない」という思いをもつことができた。



【農業体験の様子】

### 2 宿ごと勤勞体験

宿ごとに勤勞体験を行った。野菜の収穫や袋詰めをしたり、畑の片付けをしたりと、主に畑での活動を行った。児童は自分で野菜を収穫することの大変さとともに嬉しさも実感した。夕食時に自分で収穫した野菜を食べたときは「自分たちで収穫したんだよ。」と得意げに話し、自分たちの力で働いて食べ物を得ることの喜びを味わうことができた。

## <生活・文化体験活動>

### 1 箸作り

箸作り体験では、竹を割りナイフで先を削って細くし、セカンドスクール期間中の生活で使用する箸を作る体験を行った。生活の道具を自分の力で作ることができ、児童は満足そうだった。また、友達同士で手伝ったり、声を掛け合ったりしながら制作する様子が見られ、協力して作業することの大切さを知ることもできた。

### 2 郷土食体験

郷土食体験では、飯山の郷土料理である「笹寿司」と「天井焼き」を作った。笹寿司を作るために、藪に入って笹を収穫した。また、この料理が生まれた経緯や地域でどのように親しまれているかを知ることができた。自分で作った料理を味わいながら、飯山の食文化を身近に感じることができた。



【笹寿司づくり体験の様子】

### 3 寺町めぐり(飯山城址、飯山シャンテ見学)

飯山線に乗車し、飯山城址と寺町、飯山シャンテを見学した。飯山城址から見える千曲川の風景や寺町の仏壇通りの雰囲気、飯山シャンテのジャンプ台の様子など東京との違いに驚いていた。飯山市中心部を徒歩で散策しながら、地域の特徴や地理的状况を知るだけでなく、地域の飯山の歴史、文化、産業、伝統工芸に触れることができた。

### 4 課題別学習

飯山市について知りたいことを、「自然・植物・動物」、「観光・産業」「観光・名所」、「暮らし・伝統工芸」、「歴史」、「農業」のテーマに分けて事前学習を行い、宿ごとに活動内容を考えていただいて課題別学習を実施した。課題について事前に調べておくことで、より主体的に学習に取り組むことができた。宿の方の話の聞いたり、実物に触れたり見たりすることで、事前学習では分からなかった自然の豊かさや暮らしの工夫など、学びをより深めることができた。

## ○児童の感想

- ・自然と触れ合うにつれ、段々と植物や昆虫に興味をもつようになった。
- ・朝の散歩の時間がとても涼しく、気持ちよく歩くことができた。また、東京との気温差を実感することができた。
- ・暗闇体験で普段見ることのできないたくさんの星を見ることができた。静かにしていると虫の鳴き声も聞こえ、普段とは違った感覚を味わえた。
- ・昔の米作りの仕方と今を比べると、昔はとても大変だったということや技術の発達を実感することができた。
- ・自分で作った物で生活をするのが大変だと思っていたけれど、楽しむことができた。特に最初に作った箸は家でもずっと使っていきたい。
- ・親と離れて集団生活をする中で、協力することの大切さや自立することの大切さを学ぶことができた。これからは友達と協力することや家事を積極的にやることを頑張りたい。
- ・セカンドスクールを通して、正直で素直でいることや当たり前のことを当たり前でできるようになることが必要だと感じた。大人の階段を一段上がった気がした。
- ・普段、洗濯や食事のことは母に任せっきりだったので、とても苦労した。これからは母へ感謝をしながら普段の生活を送っていきたい。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・社会科の「雪国の人々の暮らし」、「米づくりのさかんな地域」において、飯山市の暮らしと関連付けながら、学んだ。「なぜ」「どうして」といった疑問から「知りたい」という課題解決への意欲が高まり、資料から読み取れることを整理・分析しながら考える力が高まった。
- ・自身の考えを伝えるためには、相手の立場に立って考えることや根拠となる情報を基に考えることが大切だとセカンドスクールを通して理解することができた。
- ・時間を気にして、互いに声を掛け合ったり、意見を聞き合ったりと協力しながら活動する場面が多くなった。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

### <成果>

- ・子どもたちの「生きる力」を測るアンケートにおいて、「生きる力」「心理的・社会的能力」「道徳的能力」「身体的能力」の項目で事前事後にかけていずれも10ポイント以上増加した。
- ・「心理的・社会的能力」の項目では、長期的な集団宿泊生活を通して、課題解決能力や協調性が育まれたことにより、友達との助け合いや先を見通した計画の立て方を学び、自己評価の数値が上昇した。
- ・「道徳的能力」の項目では、自分に割り当てられた仕事はしっかりとやるといった自立心や責任感が育まれたことにより、肯定的な回答が増加したと考えられる。
- ・「身体的能力」の項目では、自然の中で体を動かし、体験的な活動をしたことで規則正しい生活リズムが身に付き、健康的になったと感じ、自己評価の数値が上昇した。
- ・稲刈りでは、1人10束と決め、残りは宿の方がコンバインで稲刈りをするのを見ることで、時間的にも体力的にも、無理なく楽しく稲を刈ることができた。
- ・飯山線の最寄り駅までマイクロバスで行くことができたので、寺町巡りでは、疲労や熱中症の危険を低減することができた。
- ・地元の方が産業の特色などを話してくださった。飯山の現状についての生の声が聞けたことはとてもよい経験になった。
- ・報告会で宿のお父さんやお母さん、指導員、4年生へセカンドスクールでの学びを伝えることで、グループとして考えを表現したり、情報を基に考えたりする力を育てることができた。

### <課題>

- ・寺町巡りの移動距離が長く、宿の方が高齢であるため持続可能な方法にする必要がある。
- ・課題別学習の時間が長いので、内容を精査する必要がある。
- ・年々、稲刈りの日程が早まっているため、セカンド実施日を見直す必要がある。
- ・稲刈りが他の学校と重なってしまった場合、道具（足踏み脱穀機）等の数が足りない。

### <改善策・検討が必要なこと>

- ・飯山線は駅舎線路の見学のみとし、マイクロバスで移動して寺町、飯山城址を見学できるようにする。
- ・課題別学習では宿ごとに何をするか、より綿密な打ち合わせを行う。今後、カヌー体験や飯山線乗車を課題別学習に入れることも検討する。
- ・他校と宿泊日程が重なっているので、行程をずらす、他の体験活動に変えるなど検討する。

関前南小学校

長野県飯山市

9月27日～10月2日(5泊6日)

参加人数 男子39名 女子28名  
計67名

## ○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・体験活動や現地の人々の話を通して飯山市の自然の特色を知り、自然に親しむと共に、自然の偉大さを実感することができる。
- ・飯山市の自然の特色を生かした取り組みを知り、自然とのつながりについて考えることで生命を尊重しようとするすることができる。
- ・飯山市の様々なテーマ（自然・暮らし・農業・観光・伝統）について学習課題を設定し、体験活動や現地の人々の話から必要な情報を集め、整理してまとめることができる。
- ・体験活動や現地の人々の話から学習したことをまとめ、振り返ることができる。
- ・飯山市について学んだことを、武蔵野市の自然・暮らし・農業・観光・伝統と比べて魅力を発信したり、課題を提示したりすることができる（武蔵野市民科）。
- ・友達と協働的に取り組み、互いの考えやよさを認め合いながら多様性を尊重しようとする態度を養うことができる。
- ・自分自身の役割を自覚し、積極的に行動することで、自律した生活を送ろうとすることができる。
- ・セカンドスクールでお世話になる方に感謝の思いをもち、他者とよりよく関わろうとすることができる。
- ・自身の家族と離れて生活することで、家族の思いを知ったり、自分の思いを表現したりすることができる。



## ○日程表

9月27日(水)		9月28日(木)		9月29日(金)	
7:15	学校集合、出発式	6:30	起床、健康観察	6:30	起床、健康観察
7:45	学校出発	7:15	朝食	7:15	朝食
12:00	戸狩到着	8:30	お米作りのお話	9:00	飯山についての学習
12:15	昼食		稲刈り、脱穀体験		(ふるさと館、伝統産業会館、 手すき和紙体験工房)
13:15	開校式	12:00	昼食	12:00	昼食
13:30	各宿到着	14:00	金崎さんちのお米見学	14:00	茶屋池ハイキング
13:45	避難訓練	16:00	健康観察、入浴	16:00	洗濯
14:00	荷物整理	17:00	薪割り、火起こし	16:30	感謝の会準備
14:30	自己紹介	18:00	夕食	17:15	薪割り、火起こし、ご飯炊き
15:00	箸作り	18:30	感謝の会準備	18:00	夕食
16:00	周辺散策		学習の振り返り	19:00	健康観察・入浴
17:00	健康観察、入浴	19:30	星空観察	19:45	自由時間(各宿で星空観察等)
18:00	夕食	21:30	消灯	20:30	学習の振り返り
19:30	学習の振り返り			21:30	消灯
21:30	消灯				
9月30日(土)		10月1日(日)		10月2日(月)	
6:30	起床、健康観察	6:30	起床、健康観察	6:30	起床、健康観察
7:15	朝食	7:15	朝食	7:15	朝食
8:30	スキー場の周辺散策	8:30	北竜湖カヌー体験	8:00	荷物整理
10:00	野外炊飯	12:00	昼食	8:30	奉仕活動
12:00	昼食	13:30	宿別体験(収穫、郷土食)	9:30	閉校式
13:30	感謝の会準備	16:00	健康観察、入浴	10:30	出発
15:00	わら細工体験	17:00	夕食	11:30	昼食
17:00	健康観察、入浴	18:30	学習の振り返り	16:00	学校到着、帰校式
18:00	夕食	19:00	感謝の会	16:30	解散
19:30	学習の振り返り	20:00	荷造り		
	家族への手紙	21:30	消灯		
21:30	消灯				

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・社会科では、お米の生産、流通、販売の一連の流れを学習し、稲作に携わる人々の工夫や努力を学習した。
- ・総合的な学習の時間での、飯山市についての学習では、「自然」「暮らし」「農業」「観光」「伝統」の観点別に本やインターネットで調べ学習を行った。その後、課題を設定し、セカンドスクールの活動を通して問題解決をすることができるように見通しをもった。
- ・学級活動の時間では、セカンドスクールを通して目指したい自分の姿を考えた。目指す自分の姿を実現することができるよう、自分のめあてを設定し、セカンドスクールの意義付けをした。

### 2 事後の学習内容

- ・国語科で、セカンドスクールでの体験を作文にし、学習したことや今後に生かしていきたいことをまとめた。
- ・国語科で、セカンドスクールでお世話になった宿の方に、挨拶の手紙を書いた。
- ・総合的な学習の時間で、セカンドスクールの活動内容や現地の様子などを、4年生に向けて発表し、4年生がセカンドスクールへの興味と学習の見通しをもてるようにした。
- ・総合的な学習の時間で、飯山市の「自然」「暮らし」「農業」「観光」「伝統」の観点で学習したことを踏まえ、武蔵野市も同じ観点で調べ学習をした。その後、飯山市と武蔵野市を比較しながら、武蔵野市のよさや魅力について発信することで社会参画をした。(武蔵野市民科)
- ・家庭科で、飯山市で収穫したお米とサツマイモを調理し、いただいた。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 茶屋池ハイキング

昨年度、社会科の学習やプレセカンドスクールでの丸太切り体験を通して、児童は、森林の働きや重要性について学習した。また、武蔵野市民科とも関連させながら、静岡県島田市や川根本町の自然の偉大さや美しさについても学習してきた。

セカンドスクールでは、これらのことを踏まえて体験活動を設定した。ハイキングでは、ブナ林のある茶屋池の周辺を歩いた。宿の方を先頭に、植物や生き物の説明を詳しく聞いた。茶屋池周辺のブナ林は、飯山市の農業の特色である米作りをする上で重要な役割を担っているということ学んだ。ハイキングを通して、自然から恵みをいただいているということに気付き、これらの自然を保全していく必要性について考えることができた。

また、ハイキングを通して植物や生き物に触れる中で、生命の美しさや偉大さも体感することができた。



【茶屋池ハイキングの様子】

## 2 北竜湖カヌー体験

自然体験学習の一つとして、米作りの農業用水として使用されていることでも有名な北竜湖で、児童があまり経験したことのないカヌー体験を実施した。宿の方から、パドルの取り扱いや万一落ちてしまったときの助けの求め方を事前に学んだ。ほとんどの児童が初めてであったが、時間がたつにつれ、二人で息を合わせて進むことができた。飯山市の自然の雄大さを実感しながら、体験することができた。



【カヌー体験の様子】

## <社会体験活動>

### 1 稲刈り、脱穀体験

稲刈り体験、脱穀体験を行った。宿の方から、稲について様々な知識を教えていただき、お米一粒一粒のありがたみを知ることができた。その後、鎌を使った稲刈りを行った。刈り取った稲を紐でしっかりとまとめ、千歯抜きや足踏み脱穀機を使用して、脱穀作業を行った。実際に自分たちの手で収穫作業をすることで、社会科で学習した手作業での収穫の大変さを感じることができた。その後、コンバインでの収穫の様子を見学した。収穫のスピードの速さに驚き、機械作業の効率の良さに気付くことができた。



【稲刈り体験の様子】

### 2 農作物の収穫体験

各宿での体験活動では、農作物の収穫を体験させていただいた。さつまいもや落花生を収穫し、収穫の嬉しさとありがたさを実感することができた。収穫をしながら、宿の方々に農作業の工程や難しさについても教わった。自分たちが日頃から食べているものがどのように育てられているかを知ることができた。

## <生活・文化体験活動>

### 1 わら細工体験

各宿での体験活動として、わら細工体験を実施した。稲刈り体験をしたときの藁を使用して、束ねたり、編み込んだりして亀を作った。お米ではない藁がこのような使われることに驚きを感じると同時に、先人の知恵を学んだ。また、苦労しながら完成させた亀を見て、喜びと達成感を味わうことができた。

### 2 手すき和紙体験

飯山市の伝統工芸品である「内山紙」について、伝統産業会館で和紙の製作工程や材料について学び、手すき和紙体験工房では、自分だけのはがきサイズの和紙を作った。和紙作りの工程を知るとともに、多くの手間がかかることを学ぶことができた。



【紙すきの様子】

## ○児童の感想

- ・セカンドスクールを通して、宿の方々の温かさを感じ、感謝の気持ちをもちました。決められた時間にご飯やお風呂の準備を下さるなど、私たちのために様々な気遣いをしてくれているのだと気付くことができました。
- ・火起こしや野外すい飯、わら細工体験などを通して、友達と協力する事の良さに気付きました。友達がいてくれたことで、自分だけではできなかったことがたくさんできました。
- ・茶屋池ハイキングや収穫体験、稲刈り作業などを通して、自然と触れ合うことが楽しいと思うようになりました。
- ・友達との5泊6日の生活は、最初は大変そうだと思っていたけれど、みんなで1日の予定を確認し合ったり、声を掛け合ったりして過ごすことができました。自分たちだけでも、やれるのだと感ずることができました。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・事前学習⇒現地での体験学習⇒事後学習という流れを通して、課題解決型学習をより意識しながら学びに向かう児童の姿が見られた。
- ・大人の力を借りずとも、自分たちで考え、協力することで諸問題を解決したり、見通しをもって行動したりすることができるということを学んでいた。これらのことを経験し、物事へ主体的に取り組む態度を醸成することができた。
- ・体験的な活動や現地の方々からのお話をいただいた経験から、目の前の事象への表面的な見方だけでなく、物事を多面的・多角的に考えることの大切さに気付くことができた。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・セカンドスクールでは、「大人の力をなるべく借りずに、自分たちで行動すること」・「感謝の気持ちを感じること」などを児童に指導し、意識させるとともに、教員が生活にあまり介入せず、指導員と子どもたちのみで生活する時間をなるべく多くとるようにした。セカンドスクール実施前と後で行ったアンケートによる事業評価では、共同生活を通して、互いに協力しながら生活してきたことで、「心理的・社会的能力」が153ポイント、「道徳的能力」が101ポイント向上した。セカンドスクール全体として、多様な活動を意図的・計画的に位置付けたことにより、各項目で数値による向上が見られ、「生きる力」が344ポイントと大きく変化が見られたのは、長期宿泊体験活動ならではの成果である。
- ・昨年度の様子から判断して、活動内容を二つ削減し、計画を組んだ。生活に少しゆとりが出たことから、宿の方と過ごす時間や自分たちで考えて過ごす時間が多く確保できた。これらの時間が児童の諸能力を向上させることにつながったと考える。
- ・多様な体験活動を通して、セカンドスクールのねらいに到達することができた。
- ・今年度は、曇りまたは雨の日が多かったがほぼ予定通り活動を行うことができた。小雨ではない時に、ねらいに合う活動を計画していく必要があると感じている。

セカンドスクール

桜野小学校

長野県飯山市

9月15日～9月20日（5泊6日）

参加人数 男子76名 女子79名  
計155名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・生活上の自立に必要な知識・技能を身に付けること。
- ・飯山市と武蔵野市を比べて違いに気付くこと。
- ・米作りの努力や工夫について知ること。
- ・自ら課題を設定すること。
- ・学習の場を移し、体験を通して課題に対する情報を集め、整理・分析してまとめる力を育むこと。
- ・児童相互の協力や、児童と現地の方々、指導者、教師との信頼関係と人間関係を深めること。
- ・探究的な学習に取り組もうとすること。

○日程表

9月15日（金）		9月16日（土）		9月17日（日） 1・2組		9月17日（日） 3・4組	
7:40	学校集合 出発式	6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食
8:00	出発	9:00	米作りについての話	9:00	伝統産業会館見学	8:30	手紙書き
13:00	戸狩到着 開校式	10:00	稲刈り		雁木通り見学	9:00	宿ごと食体験
13:20	昼食	12:00	昼食		和紙すき体験	12:00	昼食
14:00	里山散策	13:30	脱穀		ふるさと館見学	13:30	伝統産業会館見学
15:00	箸づくり体験	16:00	入浴	12:30	昼食		雁木通り見学
18:00	夕食 入浴	18:00	夕食	13:30	手紙書き		和紙すき体験
20:00	語らいの時間	19:00	星空体験	14:00	宿ごと食体験		ふるさと館見学
21:30	就寝	20:00	語らいの時間	18:00	夕食 入浴	18:00	夕食 入浴
		21:30	就寝	20:00	語らいの時間	20:00	語らいの時間
				21:30	就寝	21:30	就寝
9月18日（月）		9月19日（火）		9月20日（水）			
6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食		
9:00	茶屋池ハイキング	9:00	笹寿司作り体験	8:00	大掃除 荷物整理		
12:30	昼食	12:00	昼食	9:30	閉校式		
14:00	わら細工体験	13:30	宿ごと自然体験	9:50	戸狩出発		
17:30	夕食（バーベキュー）	18:00	夕食	12:00	昼食（横川SA）		
19:00	入浴	19:00	感謝の会	15:30	学校着 帰校式		
20:00	語らいの時間	20:00	入浴	16:00	解散		
21:30	就寝	21:30	就寝				

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・1学期の総合的な学習の時間「お米博士になろう」の単元で、社会科と関連させ、稲作についての学習を行った。バケツを使った田植えを行い、稲穂が実るまでの様子を学校や家で継続して観察した。
- ・総合的な学習の時間の単元「見つけよう・関わろう・発信しよう セカンドスクール」のオリエンテーションでは、児童がこれまで学習してきた単元の1学期社会科「低い土地の暮らし」、「高い土地の暮らし」、「国土の気候の特色」、「寒い土地の暮らし」、「米づくりのさかんな地域」、4年生社会科の伝統工芸、観光業など、これらの学習との関連を図り、個人の探究課題を設定した。また、1学期末から開始したことで、夏休みを活用して調べ学習を進める児童もいた。

### 2 事後の学習内容

- ・設定した課題についてセカンドスクール中の記録や見学の時にいただいた資料などを活用して、スライドにまとめた。また、セカンドスクールで体験した活動、探究課題のまとめについて11月の学校公開で4年生に紹介した。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 ブナの森ハイキング(茶屋池ハイキング)(4日目)

ハイキングでは、ブナに触れたり、木の実を拾ったりしながら、ブナの特色や、自然環境に果たす役割などについて肌で触れて学ぶことができた。2日目の「米作りについての話」の中で、米作りの作業に関してだけでなく、稲の1年間の成長という観点でもご講義いただいたことで、「なぜ飯山の米がおいしいのか。」ということについて、2日目の話と関連して、ブナの森が蓄えた豊富な水が大きな役割を果たしているということを知ることができた。また、宿の方がガイドとなって説明をしてくださり、様々な疑問がその場で解決されていった。

#### 2 星空体験(2日目)

東京ではなかなか体験できない、街灯が少ない真っ暗な道を歩く体験を行った。東京では見ることのできない程の満天の星を観察することができた。また、武蔵野市の夜の暗さとは異なる暗闇の中を歩き、その中で雷も光ったことで、暗闇の怖さを知ることができた。暗さにより、聴覚で自然の音を感じ取ったり、大自然を肌で体感したりすることで、自然への畏敬の念を育む貴重な体験となった。



## <社会体験活動>

### 1 農業体験(稲刈り・脱穀)(2日目)

まず、学校で行っていたバケツ稲と異なり、田んぼの広さに児童は驚いている様子だった。宿の方々の指導で、稲刈り・脱穀を行った。稲刈りでは、鎌の使い方や刈った稲のまとめ方を習った。児童は習ったことを生かし、勢いよく手前に引くように刈っていった。稲刈り体験後、自分たちが刈った田んぼを眺め、学年155人で刈った部分がたった一部分でしかないことに気付き、農作業機械化のありがたみを実感していた。

脱穀では、千歯扱・足踏式脱穀機・ハーベスターの3種類の農具を体験した。足踏式脱穀機は足を踏むタイミングが上手くいかないと機械の回転が止まったり、逆回転になったりしてしまう。足で踏みながら、手で稲を丁度良い位置に合わせるという複雑さを味わい、楽しんでいた。ハーベスターは機械に稲を通すだけで脱穀ができる。ここでもまた、機械のありがたみを実感することができた。また、足踏式脱穀機での脱穀が意外にも早かったと感じた児童が多く、昔の人々の知恵や工夫を実感している様子だった。

この日は全国的に見ても飯山市が酷暑の日であった。暑い中での体験であったため、米作りが想像以上の重労働であることに気付き、昔の人々の苦労を実感している様子であった。

この農業体験は、今回のセカンドスクールの中心をなすものである。宿の方との語らいの時間では、脱穀後の精米や保管、出荷するまでの流れについて話していただいた。一日を通して稲刈り・脱穀・もみすり・精米といった出荷までの一連の流れを捉えることができた。

また、4日目に行うわら細工では、もみを落とされたわらを再利用し生活用品に生まれ変わらせるという、先人の知恵を体感することができた。主食である米を作るまでの手間の多さと、それによって生まれる副産物について学ぶことができた。



【稲刈りの様子】



【脱穀の様子】



【わら細工の様子】

## <生活・文化体験活動>

### 1 笹寿司作り体験(5日目)

宿の方の指導で、「笹寿司」作りを行った。笹寿司の起源や工夫された食材、食べ方などについての話を聞き、戦国時代から伝えられてきた郷土料理に興味をもっていた。また、木々を分け入って笹を採りに行くところから始めたため、達成感もあったのかおいしそうに食べている様子が見られた。

## 2 宿ごとと食体験(3日目)

宿ごとの食体験では、ジャム作り、よもぎ団子作り、おやき作り、ピザ作り等が行われた。多くの宿で行われたジャム作りは、果物を細かく切り、鍋で煮詰め、パンケーキやクラッカーなどにつけて食べた。飯山で採れたもので作った宿が多く、どの宿も武蔵野市では体験できない活動ばかりで、意欲をもってできただけでなく、自分たちで作り上げたという満足感を味わうことができた。



【食体験の様子】

## 3 和紙すき体験(3日目)

国が定める伝統的工芸品が長野県に9つあり、飯山市には「内山紙」と「飯山仏壇」の2つがある。内山紙は冬の寒さを生かして作成した和紙である。飯山和紙すき体験工房では、和紙すき体験を行った。

和紙すき体験の前に、和紙の作り方や歴史についての説明を受けた。原料となる楮が紙に変化していくことに驚く児童もいた。和紙すき体験では、液の中で繊維が均等に入るように上下左右に木杵を揺らしながらすき、葉書サイズの和紙をすいた。木杵を上手に持たないと繊維の入った液がこぼれてしまうので、児童は工房の方の指示に従って慎重に作業をしていた。植物や色紙を飾りとしてのもせ、アレンジすることができたため、お土産としてオリジナルの和紙を持ち帰ることができた。

## ○児童の感想

- ・飯山市の自然や文化、産業などに触れ、武蔵野市との違いを知った。また、昔からあるものを大切にしている飯山の人たちを見て、私も武蔵野市の玉川上水などを大切にしていきたいと思った。
- ・稲刈り、脱穀体験をしたことで、農家さんの八十八の苦勞によって私たちのもとにお米が届くことが、すごくありがたいことだということが分かった。
- ・集団の中で自分が今何をしたらよいかという判断力がついた。
- ・何事も当たり前と思わず、してくれたこと一つ一つに感謝の気持ちをもてるようになった。
- ・暑い中、農作業をしたことで、我慢強くなったと思う。
- ・宿で揉めたり、意見が分かれたりしたこともあったが、自分たちで協力して解決することができた。
- ・セカンドスクールに行く前までは、自分のことばかり考えていて、周りの友達のことをあまり意識していなかったが、自分たちだけで生活したことで、友達と協力して支え合いながら楽しく取り組むことができるようになった。
- ・「誰かがやってくれる」という意識ではなく、自分たちで声を掛け合って過ごすことができた。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

セカンドスクールにおける最大の成果は、自分のことは自分でできる限りやっつけようとする姿や、言われてから動くのではなく、自分たちで気付いて行動する姿が見られるようになったことである。セカンドスクールで学んだことを生かした行動を価値付けていくことで、今後も継続していけるようにする。また、セカンドスクールを通して人と関わり合うことの大切さを学ぶことで、協力しようとしたり、助けようとしたりする姿が多く見られるようになった。

学習においては、児童は飯山での米や野菜を収穫する体験を通して、生産者の苦労や思いを知った。そのことが、食に関する意識の高まりにつながった。セカンドスクール後に社会科で学習した「これからの食料生産とわたしたち」では、農業のこれからについて、宿のお父さんやお母さんから聞いた話と関連付けて考えを深めていた。学習課題を自分の身に引き寄せて考えようとする姿から、実感を伴う学習活動の重要性を認識した。今後の学習でも、体験活動を取り入れたり、当事者の話から学んだりして、児童自ら探究し、課題解決をできるように工夫する。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・ 5泊6日の長期間の宿泊学習の間、宿での生活で発生したトラブルを解決したり、学校生活では見えない友達の新たな一面に気付いたりすることで、児童同士の関係性が深まった。
- ・ 指示を待つのではなく、自分たちで考え、声を掛け合って行動できるようになった。
- ・ 稲刈り、脱穀、ブナの森ハイキング等、事前学習で学んだことを実際に見たり経験したりすることで、実感の伴った生きた知識として習得できた。
- ・ 4日目のブナの森ハイキングは、宿元が所有しているマイクロバスだけでなく、レンタルしているものもある。天候による活動の入れ替えが難しい現状にあるため、午前と午後に分けることで宿元が所有しているもののみで行い、天候に柔軟に対応できるようにする。
- ・ 宿での過ごし方やわら細工の内容など、全体で統一している部分があったが、「ニュースや天気予報を見て、東京との違いを感じさせる。」「児童の実態に応じて、わら細工の内容を簡略化する。」等の助言をいただいた。宿元の裁量に任せて、柔軟に対応できる部分も必要である。

### 【「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査の傾向分析】

全体的な傾向としては事前から事後にかけて大幅な向上傾向にある項目は見られず、肯定的評価が減少した項目もあった。セカンドスクールを通して、自分の生活を見直し、自己認知が高まったことが要因の一つであると考えられる。しかし、細かな増加を見ると、項目9「自分のことが大好きである」の肯定的評価が増加していて、様々な活動を通して成功体験を重ね、自尊感情が高まっていると考えられる。また、項目11「自分からすすんで何でもやる」、項目22「その場にふさわしい行動ができる」、項目26「自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる」などの集団の中での力に関するアンケートにおいても増加傾向にあった。アンケートどおり、現地でも、児童が集団の中で力を高めていく様子を見ることができた。

# 中学校セカンドスクール



## 第一中学校

9月19日～9月23日(4泊5日)

## 長野県北安曇郡白馬村

参加人数 男子63名 女子55名  
計118名

## ○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・教科の枠を越え、自然体験的な活動や自然のふれあいを通して、自ら考え、主体的に学ぶ姿勢を身につける。
- ・長野や白馬の自然に触れるとともに環境保全への取り組みを聞くことで人と自然が持続的に共生する大切さを理解する。
- ・問題解決的な学習や体験学習活動を通じて、自ら考え、主体的に学ぶ意欲を高めると共にセカンドスクールの体験を通して学んだ問題解決的な学習や主体的な学びを、ファーストスクールの学習に生かす。
- ・1998年に冬季オリンピック・パラリンピック大会を開催した長野県白馬地区から、有形無形のオリンピックレガシーがどのように継承されているかを知り、東京オリンピック・パラリンピックを現地で経験した自分たちと比較しながら、暮らしや生き方にどう役立てていけるかを考え、これからの生活に生かす姿勢を身につける。
- ・寝食を共にすることでこれまで以上に学年・学級の親睦を深める。また、共同生活から集団の一員としての行動を学び、自主自律の精神を身に付けさせる。
- ・現地や民宿の方々との交流を通して自分と異なる考え方や感性に触れ、多様な考えを受容し将来に必要な社会性を身に付ける。

## ○日程表

9月19日(火)		9月20日(水)		9月21日(木)	
6:50	一中集合、出発式	6:00	起床、健康チェック	6:00	起床、健康チェック
7:05	バス出発	6:45	朝食、出発準備	6:30	朝食、出発準備
11:00	安曇野IC	8:00	退館式、ホテル出発	8:15	各民宿出発
12:00	白馬村ジャンプ競技場到着 昼食、見学	9:00	扇沢駅到着、黒部ダム駅出発	8:30	八方尾根トレッキング開始
15:00	ホテル五龍館到着	9:46	黒部ダム駅着 黒部ダム見学	12:45	昼食(兔平レストハウスにて)
18:00	入館式、夕食	14:10	扇沢駅出発	14:00	兔平駅出発
19:30	学年レクリエーション	15:10	白馬村到着、入村式	15:00	民宿到着、食づくり体験
20:30	班長会議、班会議		各民宿到着、オリエンテーション	18:30	夕食
22:00	就寝		夕食、宿との交流	19:30	宿との交流(各宿にて)
		21:00	民宿班会議	21:00	民宿班会議
		22:00	就寝	22:00	就寝

9月22日（金）		9月23日（土）	
6:30	起床、健康チェック、朝食	6:00	起床、健康チェック、朝食
9:00	EXアドベンチャー （チームビルディング）	8:20	五竜第四駐車場出発
11:40	昼食	8:40	ウイング 21 オリパラ学習
13:30	圃場集合 稲刈り体験	10:00	エスカルプラザ到着 白馬村の地域活性化学習
15:00	米粉のお菓子づくり体験	11:15	昼食
18:00	夕食	11:50	退村式
19:00	キャンプファイヤー	12:10	白馬村出発
21:30	民宿班会議		調布 I C
22:30	就寝	17:15	学校到着、解散式、解散

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・ J A 大北の方のオンラインによる講演を実施し、白馬村の自然や観光、農作業についての特徴や現在課題となっていること、長野オリンピック・パラリンピックについて学習した。
- ・ 長野五輪、白馬村までの経路や交通インフラ、黒部ダム、白馬村の自然や環境、文化と産業の5つのテーマを分担し、インターネット等を用いて個人新聞を作成した。作成した新聞を基に、班内発表を行い、当日の行程で実際に見学するポイントを班ごとにまとめた。
- ・ お世話になる民宿へ送る自己紹介カードを作成した。

### 2 事後の学習内容

- ・ キャリアパスポートを活用し、セカンドスクールでの学習や自己の成長についてまとめた。
- ・ 事前学習で担当したテーマを基に、実際に体験や見学を通して学習したことを行動班ごとにスライドにまとめ、クラス・学年発表を行った。学年発表会では現地の宿舎の方々、J A 大北の方々とオンラインでつなぎ、白馬村との交流をより深めた。
- ・ お世話になった民宿へ、お礼の手紙を書いた。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 八方尾根トレッキング

白馬の自然や雄大さ、天気の移り変わりの早さを実感し、自然の良さや大切さを学んだ。また、運動を苦手とする生徒に対してもお互いに声を掛け、励ましあいながら八方池までのトレッキングを行った。自らの足で登頂した達成感を感じたようであった。



【八方尾根トレッキングの様子】



## 2 農業体験

各民宿に分かれ、さつまいも等の野菜の収穫を行った。その後、自分たちで収穫した野菜を使って作った羊羹や、夕食のバーベキューの素材にして食べることで、農産物のおいしさを改めて実感できた。また、農家の方から生産の大変さや収穫の喜びなどの話を聞かせていただいた。

## 3 稲刈り体験

手刈りとコンバインを使っての稲刈り体験を行った。田植えをしてから稲が育つまでの過程や条件についての説明や、実際の収穫作業の体験を通して、自然と共生する生活の知識や工夫を学んだ。また、お米が農家の方々の手を通して私たちの食事につながっていることを実感し、改めてお米のおいしさ、農業の大切さを実感することができた。



【稲刈り体験（手刈り）の様子】

## <社会体験活動>

### 1 オリンピック・パラリンピック学習

長野冬季オリンピック会場となった白馬ジャンプ競技場では、現役スキージャンプ競技者の栗田さんによるスキージャンプ競技や当時のオリンピックの様子や取り組みについての講義を聴き、オリンピック・パラリンピックの意義を実感した。一方で、最終日にはオリンピックレガシーについて『負の遺産』という観点から話を聴くことができ、東京オリンピック・パラリンピックと関連させながら自分の事として考える生徒の姿が見られた。

### 2 黒部ダム見学

事前に学習した黒部ダムで、実際に見る放水の圧倒的な迫力や、破碎帯からの湧き水の冷たさ、ダムから見える自然の景色に感動する生徒の姿が多く見られた。また、黒部ダムの歴史や建設の背景について学び、先人たちの大事業の偉大さに心を打たれる生徒の様子が見られた。

### 3 チームビルディング体験

チームビルディング体験では、体育館で各クラス 15 名のグループを作り、講師が設定する「完璧な正方形」や「空飛ぶ大玉」などの各アクティビティについて、生徒同士が対話活動を通して課題解決する姿が多く見られた。これらの活動を通して課題解決能力、他者との協調性を育むことができた。

## <生活・文化体験活動>

### 1 食づくり体験

民宿ごとに様々な郷土料理体験に取り組んだ。おやきやそばクレープ、そば打ちなどの地元食材を利用した郷土料理を作り、実際に自分たちで食べることで作る喜びを感じていた。

また、わら細工、飾りパン、フォトスタンド、マイ箸、森の鉛筆、ボタニカルキャンドル作りなど、宿舎ごとにもものづくり体験をした。学校で行うものづくりと異なり、自然の中で自ら

得たものを材料に、地域の伝統的なものづくりをする経験ができ、現地の文化への理解を深めた。

## 2 民宿の方との交流体験

各宿舎で家族の一員として迎え入れてもらい、夕食での白馬豚のバーベキューやカレー作り、夜のナイトハイクなど、生徒にとって貴重な経験ができた。4日目のキャンプファイヤーでは、宿舎での体験について、宿舎班ごとに創意工夫を凝らしながら発表を行った。そうした経験から、最後の別れは感動的なものとなり、生徒の心に強く残るものとなった。

### ○生徒の感想

- ・この4泊5日で、集団生活で人に合わせる難しさも楽しさも知ることができた。
- ・八方尾根で実際にトレッキングしてみると事前学習の写真とは比べ物にならないくらいきれいで、行くことでしか味わえないものがあると改めて気づきました。
- ・これからの生活で重要なことを多く学びました。これらを生かし、学年のみんなと交流を深めたり、今まで以上にお母さんの手伝いをしたり、感謝を言葉に表したりしていきたい。
- ・セカンドスクールの貴重な体験から、最後まで諦めない心と、みんなで協力する力を得ることができた。緊張したことも多かったが、絆を深める良い経験となった。
- ・キャンプファイヤーでは、各民宿での体験を発表しました。夜空に見える星、火の粉が舞い上がる姿、全部凄く幻想的で、夢みたいな楽しい時間で、来てよかったと感じました。

### ○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

生徒がセカンドスクールに向けて掲げたスローガンは「正しく楽しむ」ということだった。4泊5日を仲間と寝食を共にする中で、仲間の新たな一面を知り、互いを気遣うこと、自分の役割を果たすことで絆を深め、楽しみを仲間と共有する喜びを実感させることができた。また、多くの体験活動で事前学習が生き、生徒が探求心を持って学ぶ場面が多く、「正しく楽しむ」ために事前学習の大切さを実感することができたという生徒が多く見られた。今後の活動においても、協働の姿勢や生徒の探究心を喚起するような指導を行っていきたい。

### ○今年度の成果と次年度に向けての課題

学年目標である「自律・責任・思いやり」について、それらを実感できた4泊5日だったことが大きな成果である。宿舎での生活では各自がすべきことを考え、責任もって係の仕事を行い、他者を思いやりながら共同生活ができた。また、学年の仲間との絆を深めたことがはっきりとわかり、ファーストスクールでの教育活動において積極的に物事に取り組む生徒が増えた。

一方で、子どもたちの「生きる力」を測るアンケートでは、生徒の「生きる力」の変容が事前から事後にかけて3.75ポイント低下したが、各質問についての平均に注目すると、3（あまりあてはまらない）を下回るものはなく、生徒の「生きる力」や自己肯定感について、良好な結果である。今後、生徒の「生きる力」がより向上するように体験活動を計画していく必要がある。

## 第二中学校

## 新潟県十日町市松之山

5月23日～5月27日(4泊5日)

参加人数 男子67名 女子59名  
計126名

## ○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・新潟県や十日町市・上越市の文化や歴史・地理・自然などの学習を通して農村地帯の知識を深める。
- ・田植えや自然観察などの体験を通して自然と共生する生活の工夫や知識を身に付ける。
- ・武蔵野市との共通点・相違点に気づき、地域の活性化に参画しようとする態度を育成する。
- ・事前・事後学習の発表を通して、思考力・判断力・表現力を養うとともに、自分で考えて行動できる力を育てる。
- ・セカンドスクールを通して、人との出会いを大切にするとともに、感謝の気持ちを相手に伝える態度を身に付ける。
- ・仲間と共に係活動や集団活動に積極的に取り組み、よりよい学年・学級を作る。

## ○日程表

5月23日(火)		5月24日(水)		5月25日(木)	
7:00	学校集合 出発式	6:40	起床、検温、洗顔	6:40	起床、検温、洗顔
7:30	出発	7:40	朝食	7:40	朝食
9:30	高坂SA(トイレ休憩)	9:15	ちとせ班宿舎発	8:30	キュービッドバレイへ出発
11:15	塩沢石打SA(トイレ休憩)	9:45	雲海班宿舎発		市民学習Ⅰ・Ⅱ
12:40	十日町浦田着		環境学習Ⅰ・Ⅱ		環境学習Ⅲ
13:20	開校式	12:15	昼食(CD組)	9:00	雪室体験と火焚き体験(AB組)
13:40	田植え体験	12:45	昼食(AB組)		ものづくり(CD組)
15:40	活動終了		環境学習Ⅰ・Ⅱ		昼食
16:00	宿舎へ移動	15:15	活動終了(CD組)		雪室体験と火焚き体験(CD組)
17:00	宿舎着	15:45	活動終了(AB組)		ものづくり(AB組)
19:00	実行委員会、班長会	16:30	宿舎着/ちとせ(CD組)	16:00	活動終了
	1日目の学習のまとめ		宿舎着/雲海(AB組)	17:00	実行委員会、班長会
	健康観察	19:00	実行委員会、班長会	18:45	環境学習Ⅳ
21:30	就寝		健康観察	19:15	3日目の学習のまとめ
	消灯		2日目の学習のまとめ		健康観察
		21:30	就寝、明日の準備	21:45	就寝
			消灯		消灯

5月26日（金）		5月27日（土）	
6:40	起床、検温、洗顔	6:30	起床、検温、洗顔
7:20	朝食		清掃、朝食準備
8:30	出発	7:30	朝食
	市民学習Ⅲ		出発準備
	農村生活体験	8:30	各宿舎発（観光バス）
16:30	宿舎着		市民課学習Ⅳ
19:00	実行委員会、班長会	9:45	地場産業学習
	4日目の学習のまとめ	10:30	クロスステッチ
	健康観察	12:15	赤城高原 SA（昼食・休憩）
	翌日の準備	13:00	出発
21:00	就寝	14:00	高坂 SA（トイレ休憩）
	消灯	15:45	到着
		16:00	合同学活
			解散

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間で、新潟県の気候、風土、動植物、行事などについて学習者用コンピュータや図書などを用いて整理した。
- ・学級の係活動を通して、生徒各自が集団活動に寄与する態度を育成した。
- ・道徳科の授業で、現地の人との出会いや集団行動を通して温かい信頼関係の大切さを学んだ。

### 2 事後の学習内容

- ・総合的な学習の時間で、セカンドスクール中に発見した課題を追究し、解決策や生活に生かす方法を考え発表した。
- ・道徳の授業で、勤労の尊さとその意義を振り返り、勤労を通じた社会貢献の大切さを考えた。
- ・セカンドスクールの体験をよりよい集団生活に繋げるために、その方策を学級活動で考えた。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 星空（夕空）観察

本校教員による星空（夕空）の観察会を行った。もともと星空を観察する予定だったが日の入りの時刻の関係で、日没の時刻から星が出るまでの様子を観察することができた。

地面に転がって一面に広がる空を眺めるといふ、東京ではなかなか体験することのできない夕空から星空への変化を感じ、自然の雄大さを実感することができた。

## 2 自然観察ハイキング

森の学校キョロロで現地のインストラクターとフィールドワークを行った。少人数グループでのフィールドワークで生徒一人一人が興味をもったことに対し丁寧に対応してもらうことができた。また水辺の生き物探しでは、生徒それぞれが実際に網を持ち、掬い取ったものを間近に観察するなど、普段の生活で会うことのない自然に触れ、生徒の学びが深まった。



【観察の様子】

## 3 自然観察スケッチ

森の学校キョロロで里山の豊かな自然と文化を観察し、スケッチをした。各自で切り取る風景を決め、集中して取り組むことができた。豊かな自然を感じることによって、生徒の情操を養うことができた。



【スケッチの様子】

## <社会体験活動>

### 1 田植え

現地の講師の方から、里山の棚田の特徴や田植えの手順、稲の成長に必要な条件や環境を学んだ。また自然と共生する生活の工夫や知識を身に付けることができた。自分たちが普段食べているお米が、農家の方々の様々な工夫によって、自分たちの手元に届いていることを実感し、勤労の大切さや感謝する気持ちの大切さを学んだ。



【田植えの様子】

## <生活・文化体験活動>

### 1 雪国の暮らしを学ぶ

雪国である新潟県の雪の利用法等をSDGsの観点から学んだ。「ユキノハコ」では実際に積もった雪を再利用している雪室を見学し、武蔵野市との暮らしの違いを体感することができた。また雪がもたらす恩恵と課題についても深く考えることができた。

### 2 地場産業を知る

道の駅クロステンに行き、新潟県の地場産業について学んだ。木を利用した工芸品や、豊かな水を生かした食品などから、気候風土や資源、歴史などによって古くから育まれた伝統的なものづくりなどの地場産業に触れることで、伝統的な文化への理解とものづくりの魅力を知ることができた。

## ○生徒の感想

・セカンドスクールの一番の思い出は、田植えです。田植えを体験する前までは、苗を田んぼに埋めるだけだから簡単だと思っていました。だけど実際に体験してみると、田んぼの地面はぬかるんでいて一歩進むだけでもとても大変でした。たくさんの苗を植えている農家さんは本当にすごいと思いました。また、バスに乗って宿舎に向かうときに見た夕日に照らされている棚田がとてもきれいに見えました。

- ・ハイキングでは、インストラクターさんが丁寧に説明をしてくれてとても分かりやすかったです。水辺の生き物探しでは実際に生き物を探して捕まえるのが面白かったです。あまり生き物を探して捕まえる経験をしたことがないので、とても貴重な経験でした。
- ・農村生活体験が一番印象に残っているし、4泊とも農村生活体験がしたかったくらい、充実していた。畑の耕し方から、種の植え方、水のあげ方まで、工夫ばかりで、本当にすごかった。また周りでとれた山菜をつかったお昼ご飯は本当においしかった。受け入れてくれた農家の人に感謝しています。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・武蔵野市の特徴は何か、と初めて発問したとき、即答できる生徒はおらず、中には「特徴がない、というところが特徴です。」と言った生徒もいたほどであった。セカンドスクールの事後学習を通して、これまでは感じる事ができていなかった自然を感じる目が養われ、武蔵野市にもある自然に気付くことができた。また、武蔵野市は雪が降るのは年に数える程度で、積雪することもあまりない。新潟県の特徴ある自然や雪国の文化、都内では感じられない空の様子を体験することで、自然とともに生きる尊さを感じられたようだった。自らの目で見て、実際に触れてみる経験が豊かな感性を育むことにつながった。
- ・今回は事前学習の段階から、班で大テーマを選び、さらに個人でも「非日常の体験を日常に生かす」という観点のもと、具体的な小テーマを設けた。SDGsに関する内容を事前学習で学び、実際に体験することで、小・中学校で既に学んだ知識を高めることができた。事後学習でも体験をしたことを基に、SDGsの視野から学習を一層深めることができた。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度も昨年度と同様に分泊と全体泊を行った。新型コロナウイルス感染症の扱いが5類となったこともあり、学級をまたいだ生徒間の交流や、仲間と共に協働し関係を深める活動も行うことができた。また、夜のレクリエーションでも時間を区切って共有スペースを開放できるなど、可能になったことが多かった。来年度の活動の見直しに繋げていきたい。現時点で次年度はキューピットバレイの全体泊2泊、農家泊2泊を予定している。

農村生活体験では1グループが少人数だったこともあり、生徒たちはそれぞれの農家でしか体験できないような農村生活体験をすることができ、多くの生徒がもっと体験したかったというほど学びが深かった。このように、自然や文化に実際に触れる体験や活動と、SDGsに関する学習を事前・体験中・事後に行うことができたことで、SDGsに対する理解を深め、視野を広げることができた。

セカンドスクールの目的である「自然を愛する心」「課題解決能力」「人間関係形成」の観点から事前事後アンケートをもとに調査をしてみると、全ての項目で上がったが、セカンドスクール後には僅かに下がった部分もあった。次年度は宿泊を含め、三つの観点を上昇させるよう抜本的な見直しを進めていき、より体験活動を計画する必要があると考えられる。



## 第三中学校

## 長野県北安曇郡白馬村

9月25日～9月29日(4泊5日)

参加人数 男子53名 女子28名  
計81名

## ○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・よりよい人間関係の形成を育む活動を通し、集団の一員としての自覚を育て、責任ある行動や、互いに協力し合うことの大切さを学び、協調性や自立性を育む。
- ・農業体験活動、自然体験活動を通し、白馬地域の特性や課題に気付き、主体的に課題解決しようとする力を養う。

## ○日程表

9月25日(月)		9月26日(火)		9月27日(水)	
7:15	学校集合、出発式	6:15	起床、検温	6:15	起床、検温
7:45	学校出発	6:45	朝食	7:00	朝食
12:30	白馬ジャンプ競技場着	8:00	出発	8:30	出発
12:45	昼食	9:00	扇沢駅着、周辺見学	8:45	岩岳体育着
13:30	長野オリパラ講和・施設見学	10:45	黒部ダム見学、昼食		岩岳ロゲイニング
17:00	宿舎着	16:00	宿舎着	11:15	新田公民館 入村式
18:00	夕食	16:40	各種係会	11:30	昼食
19:00	入浴	18:00	夕食	12:30	宿でものづくり体験
20:20	各種係会	20:00	入浴	19:30	宿の方とふれあい体験
21:30	就寝準備	21:30	就寝準備	20:30	入浴
22:00	消灯	22:00	消灯	21:30	就寝準備
				22:00	消灯
9月28日(木)		9月29日(金)			
6:30	起床、検温	6:30	起床、検温		
7:30	朝食	7:30	朝食		
8:30	農村生活ふれあい体験	8:15	新田公民館集合		
12:00	昼食(郷土料理に挑戦)	9:00	退村式、感謝を伝える会		
18:00	夕食	10:15	エスカルプラザSDGs講演		
19:00	入浴	12:00	白馬村出発		
21:30	就寝準備	17:00	学校到着、閉校式		
22:00	消灯				

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・「長野県」「白馬村」に関わる農業・伝統工芸・環境問題への取組・観光業など、1人1テーマで分担して調べ、新聞作成を行った。
- ・白馬村の魅力について、作成した新聞を基に、クラス内で発表会を行った。
- ・現地の方を招いて、白馬村の気候や産業、現在の様子について講演をしていただき、何を体験し、取材してくるべきかを考えるきっかけになった。

### 2 事後の学習内容

- ・作文やアンケートを行い、セカンドスクールで学んだことを振り返った。また、実行委員会、各係会を開いて話し合い、今後の学校生活をよりよいものにするための反省を行った。そこでの話し合いの要点については、学年集会で情報の共有をした。
- ・学年全体でセカンドスクールで見たこと、体験したこと、学んだことを分担して、くぬぎ祭に向けてまとめ、発表を行ったり、展示物を作成したりした。
- ・さらに各クラスで、「民宿で体験したこと」を模造紙にまとめ、宿の紹介を作成した。加えて生徒が撮った写真の中からフォトコンテストをくぬぎ祭において実施し、各自が毎日捻った「今日の一句」も展示した。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1 農業体験活動(稲刈り・芋ほりなど)

3日目、4日目が雨天だったため、稲刈りについては、実施できなかった。

雨が止んだ少しの時間を使って、宿の人が、少しでも農業体験をさせたいと芋ほりを実施したグループもあった。そこでは土の柔らかさに触れ、カエルやトンボ、虫を身近に感じ、都会ではできない体験をすることができた。



【農業体験の様子】

#### 2 岩岳ロゲイニング

地球温暖化の影響で雪が減っている白馬村では、雪のないシーズンでの観光のあり方を模索している。北アルプスの大自然を身近に感じながら、ロゲイニングスポーツを楽しむ企画を実施した。悪天候で、霧の中ではあったが、生徒は、班員がお互いに助け合い、励まし合いながらゴールを目指すことができた。

## ＜社会体験活動＞

### 1 オリンピック・パラリンピック学習

1998年長野オリンピック・パラリンピックの舞台となった白馬スキージャンプ競技場では、現在も現役で活躍されている栗田力樹選手から選手としての苦労話や、活躍するために今必要なことについて講演していただいた。その後、ジャンプ台では、ラージヒル・ノーマルヒルのスタート地点に上り、選手が見る景色や高さを体感することができた。

また、ウイング 21 ではオリンピック後の施設維持の難しさについてホール技師の佐藤岳志氏に講演していただき、白馬村の抱える課題や、東京オリンピック後の課題について考えを深めることができた。



【スキージャンプ競技場で講演の様子】

### 2 黒部ダム見学

各クラス1人ずつガイドが帯同し、黒部ダム建設の歴史、エコエネルギー活用の具体的な方法、日本のエネルギー自給率についてなどを学んだ。特に、関電トンネルの実際の採掘場で、採掘の映像を見ることができ、映像だけではなく、寒さや破砕帯の水の冷たさなど、当時の苦労を体感することができた。



【採掘現場で歴史映像を見ている様子】

## ＜生活・文化体験活動＞

### 1 ものづくり体験

宿ごとに籐細工、木彫りコースター、芋のつるを使った細工などのものづくり体験を行った。壺や平皿、お菓子入れ、鍋敷きなど、それぞれが宿の方の指導のもと、想像力を働かせ、集中して取り組むことができた。

手仕事を体験する中で、自然豊かな地域での生きる工夫や苦労を感じるきっかけにもなった。



【籐細工を宿の御主人に教わる様子】

### 2 農村生活ふれあい体験

民宿の方が収穫したそばやお米、ヨモギを使って、そば打ち体験・おはぎ作り・餅つきなどを行い、白馬の食文化について学びを深め、自分たちで作ったものを食べる経験を得た。もちつきでは、声を掛け合い、励ましあい、仲間と共に作り上げる一体感を得ることもできた。

## ○生徒の感想

- ・私は、セカンドスクールで学んだことがあります。まず、各係の大切さとSDGsの取り組みについてです。班长として班員をしっかりとまとめなくてはなりません。もうひとつ、

健康係として一人一人の体調をみるなどの役割がたくさんありました。

- ・実行委員として事前準備はもちろんのこと、突然の変更にも対応しなければならないという大変さがあることを知りました。全部の係が頑張ったからこそセカンドスクールは成り立ったのだと思いました。
- ・私たちの宿では、そば打ち体験や木彫りを体験し白馬村の文化に触れることができました。特にそば打ちは、自分たちでこねてとてもおいしいおそばができてうれしかったです。
- ・黒部ダムでは、迫力のあるダムに目が行きがちだが、工事での苦勞、電気バスの工夫など、ガイドの人から聞きました。
- ・宿のお父さん、お母さんにとてもお世話になりました。私たちがよりよく過ごせるようにいろいろと気を配ってくださりました。ロゲイニングでぬれた靴を宿の方が乾燥室へ持っていき乾かしてくださったことは、忘れません。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

今回のセカンドスクールの生徒が考えたスローガンは「輝学感全」である。白馬村のことを教えてくれる民宿の方や各講師の方々、JA大北の方に感謝しつつ学び、それを全部吸収することで自らをより輝かせていこうという意味がある。今年度の1年生は、中学校生活を送る基礎的な面が、まだ確立されていない。セカンドスクールを通して、各々が自主的に動けるよう、また、自律できるように指導してきた。セカンドスクール中も多くの生徒は、自主、自律を達成するよう、マナーやルール、時間を守って行動していた。今後、実践で培った自主、自律を学校生活でも意識させていきたい。

天候に恵まれず、特に体験の中心をなす農業体験(稲刈りや農作業)ができなかったことや白馬村で今、力をいれているSDGsを意識したグリーンシーズンを体験できる「岩岳ロゲイニング」も雨中での実施となり、大自然のすばらしさを生徒に見せることができなかったことが残念であったが、退村式で民宿の方がおっしゃった「これも白馬の自然です」という言葉に生徒も感銘を受けていた。事後学習では、自分たちが、直に見聞し、体験したありのままの白馬村をくぬぎ祭の中で展示、発表することができた。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

長野オリンピックでの選手の活躍とそれを支えた地元の人々のこと、開催後の課題、黒部ダム建設の意図と完成までの苦闘、昔から連綿と続く白馬村の人々の暮らしと産業を生徒は自分たちの目と耳で体験することができた。また、寝食を共にする中で仲間意識が向上した。三中のスローガン「責任ある自由」に一步近づいたと思われる。また、昨年度の課題であった「山」を意識した「岩岳ロゲイニング」も魅力ある企画であった。

事業評価では、「心理的・社会的能力」「身体的能力」が直後では下がっていたが、次には上がっていることから、頭の中の概念が、セカンドスクールの体験を通して一度は数値が下がったが、その後の学校生活の中で、確かなものとして定着しつつあることが読み取れる。自己肯定感や、自己有用感を集団生活の中で実感させる場面を引き続き作っていきたい。

## 第四中学校

## 群馬県みなかみ町

9月26日～9月30日(4泊5日)

参加人数 男子76名 女子64名  
計140名

## ○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然や農業に関わる体験活動を通じて、自然との共生や畏敬の念を育む。
- ・自然・環境問題に関心を持ち、SDGsを意識し、自然との共存について考える力を養う。
- ・通常の学習で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用し、課題発見能力や問題解決能力を高める。
- ・事前学習で武蔵野市と水上町がSDGsに対してどのような取り組みを行っているか調べ、実際に見聞することで、自分たちが調べたことと実際を比べ、情報活用能力を高める。
- ・長期の宿泊体験を通じて、集団生活における協調性や自立性を育む。
- ・みなかみ町の幅広い年齢層の人々との交流を通じて、共存の精神や自他共に大切にすることを学ぶ。

## ○日程表

9月26日(火)		9月27日(水)		9月28日(木)	
8:00	市役所出発	6:00	起床	6:30	起床・朝食
11:00	ハッ場ダム着	7:20	朝食		農家ごとに体験活動
	昼食	8:45	①ハッ場ダム見学、②丸岩(地域の方の話)、③鎌原地区見学、④浅間園見学(学年を2つに分け、①②と③④を2日間で実施)	12:00	昼食
12:00	①ハッ場ダム見学、②丸岩(地域の方の話)、③鎌原地区見学、④浅間園見学(学年を2つに分け、①②と③④を2日間で実施)		昼食		
16:00	東海大学婦恋高原研修センター着	14:00	農家ごとに体験活動		農家ごとに体験活動
16:30	入浴	18:00	夕食・入浴	18:00	夕食・入浴
18:30	夕食	21:20	日記記入	21:20	日記記入
19:20	星空観察会	22:00	就寝	22:00	就寝
21:00	室長会議				
22:00	就寝				

9月29日（金）		9月30日（土）	
6:30	起床・朝食	6:00	起床
11:00	谷川岳～一ノ倉沢ハイキング	7:00	朝食
13:00	昼食	8:30	坐山みなかみ発
16:00	坐山みなかみ着	9:10	レイクラフティング
16:30	入浴	12:15	昼食
18:30	夕食	16:30	市役所着
19:30	学年レク		解散式
21:00	室長会議・部屋会議		
22:00	就寝		

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・みなかみ町のSDGsの取り組みについて調べ、スライド作成を行った。
- ・作成したスライドを基に各学級で発表し、代表者を選出し学年集会で発表した。

### 2 事後の学習内容

- ・農家ででの体験を班ごとに壁新聞形式にまとめ、文化祭に展示した。
- ・実行委員によるセカンドスクールの活動の振り返り及びみなかみ町への提案についてスライドにまとめ、文化祭で発表した。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 谷川岳～一ノ倉沢ハイキング

山の自然に触れながら、地形の特色や樹木の様子、特徴などをガイドの方より説明していただき、自然の雄大さについて知った。自然を維持しつつ、観光地として発展しているユネスコエコパークとしての取り組みに触れることができた。



【ガイドによる解説】

#### 2 レイクラフティング

1日目又は2日目にダムの見学を行い、ダムの産業について学んだ。また、ラフティングをダムで行うことで、アクティビティとしてもダムを利用できることを学んだ。オールの使用方法などの技能を学び、ボートごとに協力して漕ぐ楽しさを経験した。



【ラフティングの様子】



### 3 星空観察

天気が悪く、星を見ることはできなかったが、ガイドの方から現地の星空について説明を聞くことで、星座についての知識を深めることができた。

#### <社会体験活動>

##### 1 長野原方面散策

長野原方面を4グループに分け、学級単位で散策した。浅間園見学では、噴火の跡や地域の植物についてガイドの方から説明を受けた。鎌原泥流地区では、噴火当時の様子や現在の石の多い畑のことを、八ッ場ダム見学では内部を案内していただき、ダムの役割などを学んだ。丸岩では、地域の方から八ッ場ダム建設の歴史を聞き、グループでの意見交換を行った。地域に生活する方々との交流を通して、自然と共存するための考えに触れた。



【浅間園の見学】



【鎌原観音堂の見学】



【八ッ場ダム見学の様子】



【丸岩で地域の方との交流】

#### <生活・文化体験活動>

##### 1 農家分泊

分泊した農家ごとに薪割、野菜や栗の収穫や調理、雑草の駆除、動物の世話、竹細工などの体験活動を行った。薪割や畑を耕すなど日常でできない活動に道具の使い方を考えながら取り組んでいた。買ってくる食材ではなく、自分たちで収穫し調理することで、よりおいしく食べることができた。慣れない活動も班員と力を合わせて取り組む様子が見られた。



【薪割の様子】



【農作業の様子】

## ○生徒の感想

- ・クラスや班で行動することが多く、学年の絆が深まったと思う。
- ・自然が豊かであることで学べる部分があることを知った。
- ・今まであまり話せていない人とも、同じ部屋や同じペンションだったことで仲良くなれた。
- ・自分の目で見て、耳で聞いて現地でしか学べないことを学べたと思う。
- ・民宿では、自分たちで準備や片付けなどしながら過ごさなければいけないと思い、気を付けて行動できた。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・事前及び事後学習において、みなかみ町について調べる中で、人口減少を食い止めることが課題であることを知った。自分たちが体験してきた中で、みなかみ町の魅力と感じる部分をどう伝え広めていくか、方法を考え、スライドを作成し、提案するという形で発表した。みなかみ町の方にも発表の様子や作成したスライドを送付し、問題解決の方法や、社会参画についての考えを持つようになった。
- ・グループでの活動を通して、対話による相互理解を図る。
- ・時間を守って行動することや、大きな声で挨拶することを心掛けることで、他者と関わる力を磨く。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・今年度の1年生は新型コロナウイルス感染症の影響により、小学校ではセカンドスクールを実施できなかったが、今回実施できたことで良い思い出にすることができた。集団として意識すべきポイントとして、「時間を気に掛ける意識」と「聞く姿勢」があったが、自分たちで次の行動を把握する必要から、意識が高まったと感じた。「先を見通して、自分で計画が立てられる」は事前から事後にかけて7.4ポイント上昇（5、6の回答）した。
- ・「自分勝手なわがままを言わない」は事前から事後にかけて10.5ポイント上昇（5、6の回答）している。寝食を共にする生活の中で、助け合い、力を合わせる意識が高まったと言える。
- ・事後学習の中で、実行委員を中心とした、自分たちの感じたことを現地の人に提案する活動をより多くの意見を集めてできるとよいと思う。
- ・次年度は事前学習において、みなかみ町の魅力や取り組みなどの他、課題についても学習しておくことで、生徒が一層魅力を感じ、よりよい提案ができるようにしていく。

## 第五中学校

## 長野県北安曇郡白馬村

9月11日～9月15日(4泊5日)

参加人数 男子48名 女子33名  
計81名

## ○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・「食」に関する知識を増やすとともに環境保全意識と自然そのものへの畏敬の心を培う。
- ・オリンピック長野冬季大会の環境対策から、環境保全について理解を深める。
- ・現地の方々との交流体験、自然体験を通じて、課題について情報を収集し、自らの考えをまとめ論理的に表現する力を養う。
- ・良好な人間関係を築き、積極的に他者と関わるとともに、自主自律、協調性、勤労、奉仕の精神を養う。
- ・現地の方々との交流体験を通じて、自らが住む町や地域の改善を模索する市民性を養う。
- ・現地の方々との交流体験を通じて、食文化についての理解を深める。

## ○日程表

9月11日(月)		9月12日(火)		9月13日(水)	
7:00	学校集合・出発式	6:30	起床	6:30	起床
7:20	出発	7:15	朝食・退館式	7:00	朝食
11:45	「JA大北アプロード」着 昼食	8:45	「ゴンドラ山麓駅」着	9:00	親海湿原環境保全活動(ヨシ刈り)
13:10	八坂中学校との交流		SDGs学習	11:00	昼食(白馬ポークバーベキュー)
13:20	ポスターセッション開始		八方池トレッキング	13:00	農村ふれあい体験①
16:30	八坂中学校生徒と下校	15:40	「白馬ジャンプ競技場」着		※活動内容は各宿で決定
17:45	「ホテル五龍館」着	16:00	入村式	18:00	夕食
18:30	夕食・入館式	17:00	民宿生活スタート	19:00	宿の方との交流
19:55	入浴	17:30	夕食	20:00	入浴・健康チェック
21:10	会議(実行委員・係・班・室)	21:00	宿会議	21:30	宿会議
22:00	消灯・就寝	22:00	消灯・就寝	22:00	消灯・就寝
9月14日(木)		9月15日(金)			
6:30	起床	6:30	起床		
7:00	朝食	7:00	朝食		
8:30	農村ふれあい体験② ※活動内容は各宿で決定	7:45	感謝の気持ちを伝える会		
13:20	稲刈り体験	8:15	退村式		
17:30	夕食	8:30	お土産購入		
19:00	宿ごとに「オリバラ学習」		白馬ジャンプ競技場見学		
20:00	入浴・健康チェック	10:45	昼食(白馬の豚丼)		
21:00	宿会議	11:30	「白馬村」発		
22:00	消灯・就寝	16:15	帰り学活(バス内)		
		16:25	「武蔵野五中」着		

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・実行委員会【通称：SS友】を立ち上げ、実行委員会を5回行い、実施要項の検討、各係の長としての仕事、セカンドスクール便り【通称：白馬の空】の作成を行った。
- ・特別の教科 道徳において、1時間「山に来る資格がない」(A-2) 節度、節制)の単元を通して、望ましい生活習慣を身に付けることの大切さについて考えを深めた。
- ・夏季休業中の課題として、レポート「長野オリンピックについて」の作成、映画「ヒノマルソウル」の鑑賞(任意)を行い、現地のオリンピックレガシーの知識を得るとともに、主体的に学習に取り組む態度や 思考力・判断力を高めた。
- ・学活のガイダンス、実施要項の説明は、写真を活用しながらイメージをもてるように工夫した。また、民宿班決め・役割分担等の活動では自主自律、協調性を養う工夫を行った。
- ・総合的な学習の時間で、民宿の方への自己紹介カードや手紙の作成や八方尾根や親海湿原の環境保全活動、稲刈り体験等の情報収集し、自己の課題を設定し考えをまとめる表現力を養った。



【事前学習の様子】

### 2 事後の学習内容

- ・学活でのお礼状作成を通して、多様な人と唯一無二の人間関係を築き、豊かな人間性の育成を図った。また、反省アンケートや作文を通して、活動を振り返りファーストスクールに生かしていけるように工夫した。
- ・総合的な学習の時間で、事後学習発表会へ向けてのスライドと壁新聞を作成し、民宿班ごとに「Google スライド」を利用し、プレゼンテーションを行った。また、民宿の方々やJA大北の方々を本校にお招きし、多様な人間関係のつながりを感じた。



【民宿への色紙とお礼状】

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 「八方尾根トレッキング(SDGs 学習)」～ねらい:自然豊かな環境を保全する意識を高める～

天候が不安定の中、八方池まで行くことができた。不安定な山道だったが、自分の力で最後まで歩き切った生徒たちはとても清々しい顔をしていた。八方池でグリーンパトロールの方から「自然を守ることや自然と共に生きる」お話を伺った。



【険しい山道を登る】



## 2 「親海湿原環境保全活動」～ねらい: 勤労や奉仕の心を養う～

親海湿原の環境保全活動は、五中のセカンドスクールで平成27年度から毎年取り組んでおり、地域の方々はこの活動を喜んでくださっている。今年度は活動記念碑が新しく設置されるということでセレモニーを行った。また、JA大北の広報紙にも掲載された。



【新記念碑】

## 3 「農村ふれあい体験(各民宿)」～ねらい: 食文化への理解を深める～

民宿ごとのプログラム。作物の収穫等の農作業体験、そば家などの食づくり体験、わら細工などのものづくり体験など、学校の中では、経験できない取り組みで、生徒たちの目は輝いていた。



【わら細工体験】

## 4 「稲刈り体験」～ねらい: 米の収穫の過程と農家の方の仕事について理解を深める～

手刈り、バインダー、コンバインといった3つの収穫方法について学んだ。体験場所には、トンボやカエルもいて、豊かな自然も感じる事ができた。



【稲刈り体験】

### <社会体験活動>

## 1 「白馬ジャンプ競技場見学」～ねらい: オリパラのレガシーについて学ぶ～

ノーマルヒル、ラージヒルのスタート地点を間近に感じたり、オリンピックギャラリーの見学で長野冬季オリンピックについて学習したりした。映像や映画と比較し、感動を肌で感じていた。また、スキージャンプの練習風景を間近で見ることができた。その中に日本代表選手がおり、リフトですれ違う際に生徒が話しかけていた。



【スクリーンに映る五中生】

### <生活・文化体験活動>

## 1 「八坂中生との交流」～ねらい: お互いの住む地域の市民性を高める～

大町市立八坂小中学校との交流学习を行った。武蔵野市民科の授業を通して調べた武蔵野市のことについて、ポスターセッションで発表した。八坂中生からは、八坂地区の発展についての発表があり、お互い多くの学びのある機会となった。その後、八坂中生と普段の下校路である約5kmの道のりを歩いた。八坂中生とビンゴをしたり、湧水を飲んだり、チェックポイントで一緒に写真を撮ったりするなど、たくさんの思い出を作ることができた。



【八坂中生の発表に夢中】

## 2 「民宿の方との交流」～ねらい:現地の方々から学び、交流を深め、ファミリーとなる～

一緒にカレーを作ったり、白馬豚のバーベキューをしたり、3日間ファミリーとして生活したことで、各自の成長がみられた。お別れは少し寂しかったが、貴重な3日間を過ごした。

### ○生徒の感想

- ・セカンドスクールで新しい体験をしたので、新しいことをすることが楽しみになった。
- ・バーベキューが一番楽しかった。自分で焼けばよかったと思った。
- ・指導員や宿の人たちと協力して、過ごすことができた。
- ・自立することの大切さを学んだ。これからの学校生活で生かしていきたい。
- ・トレッキングや稲刈りを通して、自然を守ることの大切さを学んだ。
- ・稲刈りの手刈りが大変だった。バインダーやコンバインが簡単に思った。
- ・集団行動の大切さや時間を守ることの大切さを実感できた。
- ・民宿の方々が長い間育ててきた野菜を収穫するのに責任を感じた。
- ・4日目の夜、日記を書いているとき少し寂しさを感じた。
- ・「虫が食べる分も作っているから大丈夫」という言葉に衝撃を受けた。
- ・八坂中からの下校やトレッキングで歩ききると達成感や喜びがすごくて、景色が全く違うものに感じた。

### ○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

生徒が現地の方々と「ファミリーになって帰ってくる」ということを目標に実践し、教員、看護師、生活指導員、JA大北の方々等も「ファミリー」となってマネジメントし、体現できた。大人からの指示で動くのではなく、子供たちの自主的、自発的な力、知的好奇心や探求心を引き出すことができる活動を設定し、時間をかけて成長を見守るマネジメントを意識した。今後もこの「唯一無二」のセカンドスクールの経験を「ファーストスクール」での日常においても生かせるよう、意図的・計画的かつ長期的な視野に立った指導を行っていきたい。

### ○今年度の成果と次年度に向けての課題

前年度の課題を受けて、事前学習を丁寧に行い、知識を深めてからセカンドスクールに臨むことができた。しかし、今年度の1年生も小学校時代の宿泊体験等の経験値が少なく、宿泊行事や集団生活に必要な能力が未熟であることで、話を聴かなかったり違う活動をしてしまったりで、学習活動が止まることがあった。

事前と事後の事業評価を比較すると自己肯定感の値が事前より事後のほうが低い値を示した。セカンドスクールを経験し、自分たちのできることや課題などが分かり、自分の今の立ち位置を改めて理解できたことが理由ではないかと推測する。自分に何ができて何ができないかを理解することは、これからの成長のためのよい評価材料といえる。



## 第六中学校

## 長野県安曇野市

9月7日～9月11日(4泊5日)

参加人数 男子38名 女子38名  
計76名

## ○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・5日間のセカンドスクール、および事前事後学習を通して、安曇野市の自然と人との調和について理解を深め、自然を大切にすることを育てる。
- ・安曇野市の方々と関わる活動を通して、安曇野市と武蔵野市を比較し、友好都市として今後のよりよい関係づくりについて考える。
- ・自己や班の課題を解決するために、フィールドワークや体験活動を通して、情報をわかりやすく整理し発表する能力を養う。
- ・フィールドワークや体験活動が充実するよう、事前学習等を通して情報を活用する力を養う。
- ・グループ活動を通して、他者と協働しながら課題解決を図る力を養う。
- ・黒部ダムの学習を通して、今後の我が国の資源やエネルギー、自然保護について深く考える。

## ○日程表

9月7日(木)		9月8日(金)		9月9日(土)	
7:30	第2しろがね公園集合	6:30	起床、検温、洗面	6:30	起床、検温、洗面
8:00	出発式	7:00	朝食	7:15	朝食
8:30	バス出発	9:00	ビレッジ安曇野発	8:45	ビレッジ安曇野発
	調布IC		A組：謎解きウォークラリー ガイド付き	9:00	農業体験(午前)
	談合坂SA 休憩		B組：エネルギー博物館		
11:30	梓川SA 休憩		山岳博物館見学	11:55	ビレッジ安曇野着
12:00	安曇野IC	12:00	昼食	12:00	昼食
12:30	国営あづみの公園着	13:00	ビレッジ安曇野発	12:30	ビレッジ安曇野発
	昼食		A組：エネルギー博物館	12:45	農業体験(午後)
13:30	クラフト体験		山岳博物館見学		
	園内クイズラリー		B組：謎解きウォークラリー ガイド付き	15:40	ほりで一ゆ～四季の郷着
16:00	国営あづみの公園発			17:00	入浴
16:30	ビレッジ安曇野着 入館式	16:00	ビレッジ安曇野着	19:00	夕食
17:30	夕食	16:10	入浴	21:40	就寝準備
18:30	入浴	18:30	夕食	22:00	消灯
21:40	就寝準備	19:00	謎解きウォークラリーまとめ& 発表会		
22:00	消灯	21:40	就寝準備		
		22:00	消灯		

9月10日（日）		9月11日（月）	
6:30	起床、検温、洗面	6:00	起床、検温、洗面
7:00	朝食	6:30	朝食
8:15	ほりでーゆ〜四季の郷発	7:30	退館式
10:35	上高地ハイキング開始	8:00	ほりでーゆ〜四季の郷発
10:45	河童橋着	9:00	扇沢駅着
11:45	A組：左岸コース B組：右岸コース 明神橋着 昼食	9:30	扇沢駅発（電気バス）
12:45	明神橋発	9:45	黒部ダム駅着 ①関電トンネル工事跡& くろよん建設工事記録視聴
13:35	A組：右岸コース B組：左岸コース		②エネルギー学習
14:35	河童橋着	11:35	黒部ダム駅発
15:10	上高地発	11:51	扇沢駅着
17:00	ほりでーゆ〜四季の郷着	12:05	昼食・解散式
17:30	入浴	13:00	扇沢駅発
19:15	夕食		梓川SA
21:40	就寝準備		談合坂SA
22:00	消灯	17:30	第2しろがね公園着（二小前） 解散・下校

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・文献とともに学習者用コンピュータを活用し、インターネットで安曇野市について調べ、理解を深めた。

### 2 事後の学習内容

- ・お世話になった宿舎や農家の方々にお礼状を書き送った。
- ・セカンドスクールで学んだことや感じたことを作文にして、今回のセカンドスクールでの学びを振り返ることができるようにした。また代表者の作文を学年だよりに掲載した。
- ・現地で自然や地域の写真を撮影し、「こだわり写真」として個々のよいものを1つ選定した。また、それを掲示し投票することで、お互いに新たな発見をすることができた。
- ・事前に学習したこと、セカンドスクールで体験したことを題材にテーマ設定を行い、グループ活動で模造紙に成果をまとめた。また代表者を選定し、学習発表会で発表を行った。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 国営あづみの公園・クイズラリー

1日目の午後、国営あづみの公園内で行動班ごとにクイズラリーを行った。園内に設けられた8ヶ所のポイントを回りながら安曇野の動物や植物について学べるプログラムで、最後に花

の種のプレゼントもあり、生徒たちは安曇野の自然を楽しく学ぶことができた。

## 2 上高地ハイキング

4日目、バスで大正池まで行き、河童橋まで学年で行動し、そこからは班で行動した。河童橋からは左右コースに分かれ、折り返し地点の明神橋まで行った。昼食後、反対のコースで河童橋まで戻った。上高地の雄大な自然を体感しながら、班長だけでなく、撮影をする係や計時をする係を設けて、各々が責任をもって行動することができた。

### <社会体験活動>

#### 1 農業体験

3日目、安曇野市在住の14件の農家の方々のご協力を得て、農業体験を行った。実際に畑に出てトラクターに乗せていただいたり、稲刈り体験や、りんごや味噌の作り方を教えていただいたりと、数多くの体験を通して、農家の方の喜びや苦勞を学ぶことができた。

(生徒のしおり「1日を振り返って」から)「今日は農家の方にりんごや栗の作り方を教えてもらい、とても良い体験となった。よく見て考えて買うことや、食べ残しをしないということをお忘れのようにしたい。家でも何か育ててみたいと思った。」



【稲刈り体験中の様子】

#### 2 黒部ダム見学

黒部ダムでは、見学するだけでなく、黒部ダムの歴史について学ぶ機会を得た。前半と後半組に分かれて、一方では黒部ダムの放水を見学し、その圧倒的なスケールを肌で感じた。もう一方では建設の際に多くの犠牲が伴い困難を極めたことがわかる映像を実際のトンネルの中で見せていただいた。生徒は、黒部ダムの歴史を学ぶと同時に、わが国のエネルギー問題に尽力する姿に心を打たれていた。

### <生活・文化体験活動>

#### 1 クラフト体験

セカンドスクール初日、国営あづみの公園にてクラフト体験を行った。安曇野の木をヤスリで磨き上げ、アクセサリーを作る体験をした。普段、学校で行うものづくりと違い、実際に自然の中で得たものを使い、自らの手で形に残るものを作った。五感で体験することで、ただ記念に残すのではなく、セカンドスクールの思い出を形として残すことにより、大人になっても安曇野を忘れないような体験となった。

#### 2 謎解きウォークラリー

宿泊施設の周辺を、地元の方と一緒に行動班ごとにまわり、安曇野の自然と触れ合いながら学習した。生徒たちは地元の方と交流をしながら、ときには疑問を投げかけ、ときには自ら解答を探して歩いた。そして、その日の夜に、一緒にまわった地元の方を宿舎に招き、学んだことを模造紙にまとめて発表し合うという活動を行った。事前学習で調べていたことや、実際に

触れたことを比較しながら、安曇野について深く考え学び直す貴重な時間となった。

### 3 大町エネルギー博物館、大町山岳博物館見学

大町エネルギー博物館は、熱、光、運動、電気といった直接見ることが難しい「エネルギー」の基礎について、模型や実験装置を動かして学べる博物館で、体験型の展示物が多く生徒たちは積極的に活動し、黒部ダムがある大町とエネルギーの関連性について深く学ぶことができた。

大町山岳博物館は「北アルプスの自然と人」をテーマに、北アルプスの地形や動物、植物についてわかりやすく展示され、生徒は熱心にメモを取って学習していた。付属園（動植物園）では国の天然記念物であるライチョウを実際に観察し、飼育の様子を学ぶことができた。

## ○生徒の感想

- ・農業体験が一番印象に残った。農家の方にたくさん安曇野のことを教えていただき、美味しい梨を食べて世間話をして、とても楽しい時間でした。
- ・心に残っているのは謎解きウォークラリーです。歩きながらガイドさんと話をして「なるほど!」と思うことが多く、安曇野のことについてたくさん学ぶことができました。
- ・5日間のどかな安曇野市で過ごしてたくさんの思い出ができた。いろいろな人の支えがあったからこそ僕たちは楽しむことができたので、感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思う。
- ・セカンドスクールはとても楽しかった。クラスのみんなどと一緒に生活してたくさんの思い出ができました。仲間と心が一つになれたと思います。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

今回のセカンドスクールで生徒たちが掲げたスローガンは「One for All, All for One」だった。中学校に入学して半年が過ぎ中学校生活に慣れてきたこの時期に、今回のセカンドスクールを実施できることには大きな意味があり、5日間寝食を共にすることで、意見の食い違いがあっても自分たちで解決せざるをえない環境に身を置くことは、生徒にとって大変貴重な機会である。ファーストスクールでは、何か問題が起こっても一旦帰宅することで心と体をリセットできるが、セカンドスクールではそれが難しく、自分たちで解決の道を探らなければならない。そこで、生徒は自分で問題を解決するだけでなく、友達というかけがえのない存在に気付き、普段よりもより密度の濃い時間を過ごすことで大きく成長を遂げた。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

新型コロナウイルス感染症の影響で中止していた農業体験を4年ぶりに復活し、農家の方々にご協力いただいた。普段知り合えない間柄の人々との交流は、事前、事後のアンケートでは「だれにでも、あいさつができる」という質問で「とてもよくあてはまる」と答える割合の増加につながった。また事前学習で作成したレポートの内容に、実際に現地で体験したことをつけ加えることにより、事後学習ではより詳しく充実した振り返りや発表を行うことができた。

# フシセカンドスクール



# 第一小学校

# 山梨県南都留郡山中湖村

10月18日～10月20日(2泊3日)

参加人数 男子53名 女子45名  
計98名

## ○プレセカンドスクールのねらいで育成を目指す資質・能力

- ・現地の環境に関する調べ学習を通して、自然と人との調和について理解を図り、自然を大切にしようとする態度を育む。
- ・ハイキングやトレッキングなどの豊かな体験を通して、自然の中で安全に気を付けて体を動かすことのよさを感じ取るとともに、豊かな自然を大切にしようとする心情を養う。
- ・自己やグループの課題を解決するため、富士山とその周辺の散策や富士山に関わる施設見学を通して、情報を分かりやすく整理する力を養う。
- ・散策や見学を通して得られた知識と、今までに習得した自分の知識や経験とを結び付けてまとめ、表現する力を育む。
- ・現地の方々と関わる活動を通して、宿泊地における諸課題を自分事として捉え、よりよい地域・社会づくりについて考える力を育む。
- ・活動の振り返りや話し合い活動を通して、異なる意見を生かして新たな学びを獲得しようとする力を育む。

## ○日程表

10月18日(水)		10月19日(木)		10月20日(金)	
7:45	文化会館集合	6:30	起床・健康観察・清掃	6:30	起床・健康観察・清掃
8:15	出発	7:00	朝の会	7:00	朝の会
9:45	談合坂SA(トイレ休憩)	7:30	朝食・活動準備	7:30	朝食・活動準備
10:20	富士山レーダードーム館見学	8:45	宿舎発	8:15	そうじ・片づけ・荷物整理
11:30	富士山レーダードーム館発	9:45	紅葉台入口着・ハイキング開始	8:45	閉校式
12:00	富士山五合目トレッキング	11:45	紅葉台発	9:00	宿舎発
15:00	スパルライン奥庭駐車場発	12:15	野鳥の森公園着・昼食	9:30	富士山世界遺産センター着
16:00	宿舎着・開校式	13:30	樹海ハイキング開始	10:30	富士山世界遺産センター発
16:30	入浴	15:00	富岳風穴見学	11:00	富士湧水の里水族館着
18:00	夕食	15:45	富岳風穴発	12:00	富士湧水の里水族館発
19:00	学習の記録・室内レク	16:30	宿舎着	12:30	八木崎公園着・昼食
20:00	就寝準備・健康観察	16:45	入浴	13:30	八木崎公園発
21:00	消灯	18:00	夕食	14:00	談合坂SA(トイレ休憩)
		19:00	学習の記録・寄せ書き作り	15:30	学校着・帰校式
		20:00	就寝準備・健康観察		
		21:00	消灯		



## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・事前学習として、富士山周辺の地域の魅力を探る活動を中心に、学習活動を進めた。富士山周辺の魅力について、地図や周辺施設に関する資料から考えた。
- ・児童は興味をもったことからテーマを絞り込み、探究する課題として設定し、学習を進めた。学習に際しては、市内の図書館から本を借りたり、学習者用コンピュータを活用したりして情報収集を進めた。
- ・集めた情報は、現地で学習したいことやどのようなことを調べるかという観点から情報を整理することで、現地での学習に向けて見通しをもつことができた。
- ・初めての宿泊行事にあたり、見学施設や宿泊施設での過ごし方、部屋の整理整頓の仕方、風呂場・脱衣所での注意点など、集団生活のマナーについて学んだ。

### 2 事後の学習内容

- ・3日間の学習や宿舎での集団生活を通して生活面や行動面で学んだことや、自分自身の成長をしおりに記述し発表し合った。児童が互いに学んだことや成長したことを発表することで、3日間の経験をより深く振り返り、これからの学校生活に活かしていこうという気持ちをもつことができた。
- ・児童が各自で設定した学習課題に対し、学んだことや新たな発見などについて、学習者用コンピュータを用いてスライドにまとめた。
- ・学習の成果として来年度プレセカンドスクールに参加する現在の3年生に向けて「プレセカンドスクール発表会をしよう」という活動を設定した。学級内でグループに分かれ、3年生にプレセカンドスクールで見学する場所の概要や魅力、共同生活の様子やきまりについて伝えるため、写真を効果的に用いたスライドのまとめ方や話す順番等発表の仕方を工夫し、発表を行った。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 富士山御中道コーストレッキング

五合目のトレッキングでは、雲や地面の様子、武蔵野市で見られる植物との違いなどに注目させた。途中霧が出たものの、全体的に天候に恵まれ、頂上の積雪の様子や山肌の様子、すそ野の樹海の広がりにも注目して、熱心に観察する児童の姿が見られた。

トレッキングでは、足元に転がる石が普段見慣れた地面と異なることや、木々が反りながら生えていることなど、児童それぞれが気付いたことを口にして、情報を共有しながら歩くことができた。針葉樹やコケ、キノコなど多くの植物が厳しい環境で生育していることを実感しながら学習することができた。



【御中道コースのトレッキング】

## 2 紅葉台・三湖台ハイキング

紅葉台の入口から三湖台にかけてハイキングを行った。三湖台の展望台からは富士山と青木ヶ原樹海、西湖、本栖湖、精進湖などが一望できた。児童は、事前学習で身に付けた知識をそれらの位置関係から確認することができていた。

## 3 青木ヶ原樹海ハイキング・富岳風穴見学

青木ヶ原樹海ハイキング・富岳風穴見学をネイチャーガイド6名同行の下実施した。樹海ハイキングでは、ネイチャーガイドから樹海で見られる植物の生育のしくみと、それらを食料として生きる動物の生態について詳しく説明を受けた。動物や樹木だけでなく、倒木やキノコの仲間、シダ植物やコケ類、微生物など全てが互いに関係しながら自然豊かな樹海を作り上げていることを知り、児童は自然の偉大さに気付いたり自然を大切にしたいという意識を高めたりしていた。富岳風穴見学では、溶岩棚や縄状溶岩などの自然の織り成す世界や、風穴内部の気温を生かした先人たちの知恵に驚く姿が見られた。



【樹海ハイキングの様子】

### <社会体験活動>

#### 1 富士山レーダードーム館

富士山レーダードーム館では、一人1枚配布されたワークシートを使って学習を進めた。館内の展示からワークシートの問題の答えを探することで、楽しみながら学習を進めることができた。富士山レーダードームが必要とされてきた理由や、気象、災害に関して理解を深めていた。富士山頂の寒さ体験を通して、富士山の気候についても学習することができた。



【気象観測装置について学ぶ児童】

#### 2 山梨県立富士山世界遺産センター

富士山世界遺産センターでは、富士山が世界文化遺産に登録された経緯について学習した。北館では動画を中心に展示を通して学習した。南館ではガイドからの説明もあり、児童は興味をもって見学していた。

#### 3 山梨県立富士湧水の里水族館、森の学習館

富士湧水の里水族館では、富士山周辺に見られる淡水魚を中心とした、多くの動植物が展示されていた。今回はその中でも、自然に近い環境を再現した二重回遊水槽を中心に、飼育員の解説を聞きながら学習を進めた。児童は水槽で泳ぐ淡水魚の様子に興味津々で見学していた。

森の学習館では、富士山周辺の動植物について学習した。シカやクマの大きなはく製を中心に、富士山周辺で生きる動植物について学びを深めることができた。

## ○児童の感想

- ・これまでより荷物の準備が自分でできるようになった。これからは5分前行動や準備を素早くすることを生かしていきたい。
- ・協力することでみんなが考えていることを共有することができた。これから班などで協力することに生かしていきたい。
- ・人の話をよく聞いて行動することが、改めて大切だと考えた。
- ・友達と協力していろいろなことができた。このことを、学校生活にも生かしていきたい。

## ○セカンドスクールとの関連(生かし方)

セカンドスクールでは、「魚沼市について調べよう」というテーマの下、児童一人一人がそれぞれ課題を決め、現地でグループに分かれて学習を進めていく。現地の学習では、体験場所や学習内容に応じて変化してくことが予想される。そのため、第4学年の段階から「事前学習—現地学習—事後学習」という大まかな学習の流れを定着させ、次年度のセカンドスクールにおいてスムーズに学習活動を進めることができるようにする。

プレセカンドスクールでは一つの宿舎に教員も含めて生活する。一方で、セカンドスクールでは分宿となる。そのため、プレセカンドスクールを通して荷物の整理、入浴や食事、就寝前の過ごし方など集団生活における基礎基本を身に付けさせるとともに、教員や生活指導員が教えるのではなく、児童が見通しをもって主体的に行動できるよう、課題解決の場面を設けた。セカンドスクール全体を通して、児童が協力して自分たちの力で班の全員がよりよく生活できるための工夫を考えられるようにしていく。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度は昨年度と同様に、武蔵野市では体験できない自然体験を多く取り入れた。児童の振り返りには、身の回りの自然の大切さに気付いた、というものがあつた。このことから、ねらいにもある自然を大切にすることを育むことができたといえる。

また、初めての宿泊を伴う校外学習の機会であつたため、公共の場で活動したり、宿舎で友達と多くの時間を過ごしたりしたこと、話をよく聞くこと、その場にふさわしい行動を考えること、互いに声を掛け合いながら生活することの大切さを児童が改めて理解していた。協調性が育まれたと考えられる。事後評価では生きる力の数値は全体的に減少したが、初めての宿泊体験学習であつたことから、児童が今回の体験を通して自分自身を見つめなおすことができるようになったと考えられる。そのため、次年度は児童ができるようになったことに目を向けられるような声掛けをしていく。

他には、前年度同様に、個人の課題だけでなく見学場所についても事前に調べたことで、現地で学習したいことを明確にし、見学をすることができた。

一方で、次年度に向けた課題として、見学場所間の移動距離が非常に長かつたことが挙げられる。そのことにより、交通状況によって予定していた見学時間に間に合わないことがあつた。次年度に向けて、移動にかかる見学時間を踏まえて計画を見直し、児童がより学びを深めることができるようにしていく。

第二小学校

山梨県南都留郡山中湖村

9月27日～9月29日(2泊3日)

参加人数 男子23名 女子36名  
計59名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・富士山での自然体験を通して、富士山の自然についての理解を深め、自然を大切にする態度を育てる。
- ・山中湖村のことについて様々な観点から自らすすんで課題をもち、事前に調べ学習を行い、体験活動を行うことによって、課題解決能力を育てる。
- ・自然観察や施設見学を通して、情報を分かりやすく整理する力を養う。
- ・宿舎での集団生活や行動班での活動の中で協力し合う力を育てる。

○日程表

9月27日(水)		9月28日(木)		9月29日(金)	
7:30	校庭集合	6:00	起床	6:00	起床
7:35	出発式	6:30	朝会・体操	6:30	朝会・体操
7:45	バス出発	7:00	朝食		山中湖散策
10:40	忍野八海散策	9:40	富士山五合目トレッキング	7:30	朝食
11:20	ほうとう作り体験	12:00	昼食(宿舎)	8:15	持ち物用意・部屋の整理
	昼食(ほうとう)	14:00	富士山レーダードーム館	8:45	閉校式
13:45	ネイチャーラリー	16:00	入浴	10:00	ぶどう畑農業体験
16:00	宿舎着		学習のまとめ	12:00	昼食
16:05	開校式	18:00	夕食	13:00	ぶどう畑登
16:50	入浴	19:00	室内レク	15:45	学校着、解散式
18:20	夕食	20:00	学習のまとめ		
			明日の準備		
19:00	室長会議	20:20	室長会議		
19:20	星空観察	21:00	就寝		
20:00	学習のまとめ・葉書書き				
	明日の準備				
21:00	就寝				

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・初めての宿泊学習のため、昨年度のプレセカンドスクールや実踏の様子を写真で見せながら活動内容について見通しをもった。
- ・富士山とその周辺の特徴ある自然、忍野八海や山梨の郷土料理などの文化、ぶどう農家の産業など、実際に行く場所や体験する内容について項目ごとに調べ、関心意欲を高め、知識を深めていくようにした。
- ・自然、文化、産業の中から特に調べたいテーマを決め、現地で調べる内容や確かめる内容を明確にした。

### 2 事後の学習内容

- ・事前学習で調べたことをもとに、現地で体験活動を行った。一連の活動を通して、自分のテーマを決め、模造紙や紙芝居を使って説明したり、スライドや動画にまとめたりして個々の課題の形式に合わせてまとめた。そして、それらをもとに発表会を行った。
- ・3年生にプレセカンドスクールについて紹介する発表会を行った。生活に関わる係についてと、実施地である山梨県についての2本柱で紹介し、来年度初めて行く宿泊学習がどういった内容か、3年生が見通しをもてるような発表にした。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 富士山五合目トレッキング

トレッキングではネイチャーガイドの方の話聞きながら、富士山に自生している植物の特徴や富士山特有の地形について学ぶことができた。また富士山の噴火の歴史を、溶岩の様子や地形の変化から実感し、学びながらハイキングすることができた。

#### 2 ネイチャーラリー

現在の暮らしから原始時代の暮らしに遡り、自然の中で生きていくために必要なことをゲーム形式で体験した。頭と体（五感）を使って自然の理解を深めることができた。また、班の友達と知恵を出し合って、互いに協力しながらゲームをクリアすることで、友達と協力して活動する力を身に付けることができた。



【ネイチャーラリー】

### <社会体験活動>

#### 1 忍野八海見学

忍野八海マップを配布し、班ごとに散策を行った。それぞれの池の名前や由来、歴史などについて掲示板に書かれている内容を読んでメモしたり、事前学習で調べた内容からそれぞれの池の違いを自分の目で確かめたりすることで、池の美しさを実感していた。

#### 2 富士山レーダードーム館

富士山レーダードーム館では、防災・気象観測の歴史について学ぶことができる展示があり、

メモをとりながらすすんで学んでいた。また、富士山頂の寒さを体験し、今までに体験したことのない寒さを肌で実感することができた。クイズラリーでは、班で協力しながら楽しく学ぶこともできた。

## <生活・文化体験活動>

### 1 ほうとう作り体験

地元の方々に丁寧に教えていただきながら、郷土料理であるほうとうの麺を作る体験を行った。仲間と協力してほうとうを作ることができた。また、食後にまとめの時間をとったことで、ほうとう作り体験で学んだことを振り返り、体験の感動をすぐに記録することができた。



【ほうとう作り】

### 2 ぶどう農業体験

勝沼のぶどう畑における農業体験では、収穫・草取り・かさ拭き体験を行った。事前学習でも児童は熱心にぶどうについて調べていたため、農家の方の普段どのような思いや願いから仕事をしているのかについての話も、興味・関心をもって聞いていた。収穫体験では、房が落ちないように、互いに手伝いながら収穫することができた。また、かさ拭きや草取りなども、グループごとに協力して、意欲的に取り組んでいた。

## ○児童の感想

- ・ほうとうは、あつつあつでとてもおいしかったし、さらに自分たちで作ったからおいしさが増した。三杯くらいおかわりした。
- ・原始人の狩りの仕方や獲物に近づく時の歩き方など原始人の気持ちになりながら過ごすことができて楽しかったです。あと獲物に近づくために、万歩計を数えないように歩くというミッションでは、上半身を動かさずに足だけを動かして進んでみると2歩しかカウントされずにやることができて嬉しかったです。
- ・みんなで協力をして5分前行動して遅れないようにすることなどをがんばりました。みんなで協力すると一人が頑張らなくて疲れないし、みんなで協力することでみんな気持ちいいし、もっと仲良くもなるし一人でやるよりもみんなでやったほうが早く終わって遊ぶ時間も増えたりして楽しい時間も増えるし、みんなで協力することは自立にもつながるからやっぱり協力は大切だなと思いました。

## ○セカンドスクールとの関連(生かし方)

プレセカンドスクールの2泊3日を過ごす中で、自分のことは自分でしたり、自分の身の回りのこと以外にも、係として仲間と声をかけたり、しおりを見て、次の予定や時間を意識したりするなど、見通しを立てて行動することの大切さを強く感じていた。「協力し合う大切さ」については、協力することで活動に気持ちよく取り組めるだけでなく、楽しさを共有できることで、より多くの感動やよい経験を積むことができることなどを実感していた。5年生のセカン



ドスクールは分宿となり、宿泊形態が異なるが、プレセカンドスクールで培った「自立心」と「仲間との協力」をもとに、セカンドスクールも仲間とともに成功させたいという意欲が高まった。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

富士山トレッキングやネイチャーラリー、富士山レーダードーム館、ぶどう農家での農業体験など、実施先の自然や施設といった環境を生かした活動を行うことで、普段の学校生活では感じることはできない体験を豊富に行うことができた。また「自立」「協力」「礼儀」というテーマを掲げることで、児童が意識して活動に取り組むことができた。次年度は実施地が変わることが確定している。実施地の環境を最大限に生かした活動や、3か所に分宿となる際の教員、指導員の動きについて綿密に計画を立てておく必要がある。

子どもたちの「生きる力」を測るアンケート結果から、自然の中で活動したりすることへの抵抗感が低くなっていることや、自然の美しさを感じることができるようになっていたことが分かった。プレセカンドスクールの富士山トレッキングやネイチャーラリー等の自然体験活動を通して、自然への親近感が高くなったと考えられる。また他人を思いやり、円滑な人間関係を築く力が高まったことが分かる。班や学級、学年での共同生活を通して、他人と折り合いを付けたり、自分の考えをしっかりと主張することができるようになったと考えられる。

# 第三小学校

# 新潟県南魚沼市

5月31日～6月2日(2泊3日)

参加人数 男子41名 女子31名  
計72名

## ○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然や文化とのふれあいを通して、豊かな情操や感性を育む。
- ・自然と人間との共生、自然保護の必要性、自然に対する畏敬の念などについて体験を基に考え、自然を大切にしようとする態度を育てる。
- ・友達同士で、適切に意見交換を行いながら試行錯誤を繰り返し、課題を解決する力を育てる。
- ・課題解決したことを伝え合うことにより、学び合い、新たな課題を解決していこうとする力を育む。
- ・現地の方との触れ合いを通して、豊かな情操や感性を養い、お世話になっている人への感謝の気持ちを育む。
- ・自然体験や人との関わりから学んだことを、今後の学習や生活に生かしていこうとする態度を育てる。

## ○日程表

5月31日(水)		6月1日(木)		6月2日(金)	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床	6:00	起床
8:15	学校出発	7:30	朝食(おにぎり作り)	7:30	朝食
11:45	南魚沼市到着	8:00	朝会	8:30	朝会
12:00	開校式	9:00	上越国際スキー場トレッキング	9:00	塩沢つむぎ機織り体験
12:30	各民宿あいさつ	11:30	昼食(十日町展望台にて)	10:00	牧之通り散策
13:00	昼食(弁当)	14:00	農業体験	12:00	昼食
14:30	田植え体験	16:00	交流会準備	13:00	閉校式
16:30	ぬか釜体験	16:30	入浴	13:30	南魚沼市出発
17:30	入浴	18:30	夕食	16:45	学校到着・帰校式
18:00	夕食	20:00	交流会		
20:30	学習の記録・健康観察	21:30	消灯		
21:30	消灯				

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・オリエンテーションでは、プレセカンドスクールに参加する目的を学年で確認した。自然と触れ合うことで地域の特色について学ぶこと、自ら課題をもち解決していく力をつけること、よりよい人間関係を築き今後の生活に生かしていくことなど明確な目的をもって参加することでより有意義な時間になることを学習した。
- ・南魚沼市の自然や気候、特産物などについて学習者用コンピュータを活用して調べた。
- ・班長、副班長、生活係、学習係、交流会係などの役割を分担し、児童一人一人が責任感をもちつことで積極的に活動できるようにした。

### 2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールを終えて、どのようなことを学び、そこから何を今後生かしていきたいかについてまとめ、しおりに書いた。また、それらを共有した。
- ・学習に関しては、実際に行ってみて新たに分かったことや、肌で感じたことをプレゼンテーションにまとめた。生活に関しては、今後の生活に生かしていくことを確認し合った。
- ・来年度、プレセカンドスクールに行く3年生に向けて「プレセカンドスクールを伝える会」を開いた。テーマごとにグループに分かれて発表内容を考えた。
- ・「プレセカンドスクールを伝える会」では、発表の仕方を工夫した。紙芝居、劇、プレゼンテーションなどの発表方法から選び、テーマに適した方法で発表することができた。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 上越国際スキー場トレッキング

宿の方やガイドの方に各グループ1名ずつ付いていただき、南魚沼の植生や地形についての話を聞きながら歩くことにより、自然についての理解を深めることができた。また、頂上から眼下に広がる自然を眺めることにより、山に囲まれている地形についての理解を深めることができた。展望台を目指し、最後まで歩き、やり抜く力を育んだ。



【トレッキング】

### <社会体験活動>

#### 1 農業体験

宿の方に教えてもらいながら、土を耕したり、野菜の苗を植えたりするなど、農業体験を行った。農業機器を実際に操作したり、どのような作物が育つのかなどについて、宿の方と話しながら作業を行ったりしたことで、農家の方の大変さや、働く喜びについて実感することができた。

## 2 田植え体験

苗の植え方や、植える間隔などについて教えてもらってから、田植え体験を行った。自分の担当の場所が終わってからも、追加で植えている姿が見られるなど、田植えという体験に興味をもって、前向きに取り組んでいる様子が伺えた。また、5年生のセカンドスクールでは稲刈りを行うことを聞き、今から楽しみだと話す児童も多くいた。



【田植え体験】

## 3 お世話になった宿の方との交流会

お世話になった宿の方に喜んでもらえる会にしようと考えた。事前に宿の方と一緒に楽しめるゲームを企画したり、感謝の演奏を練習したりした。最後に感謝の気持ちを伝える言葉を送った際の宿の方々の姿をみて、感謝の気持ちを表現する大切さに気付くことができた。

### <生活・文化体験活動>

#### 1 塩沢つむぎ機織り体験

塩沢つむぎの歴史や、麻の織物がどのような工程を経て、どのくらいの時間をかけて作られているのかについて知り、完成するまでの工程の多さに驚くとともに、多くの時間と労力がかかることに気付いた。また、実際に機織りの体験をすることで、機織りをしている方々の大変さを感じることができた。生きている蚕に触れたり、展示を見たりすることで、伝統工芸への理解を深めた。



【機織り体験】

#### 2 牧之通り散策

地元のガイドの方に塩沢の歴史についてや、雪国の暮らしの工夫を教えもらいながら牧之通りを散策した。昔使われていた道具を見たり、雪国ならではの生活の知恵を知ったり、土地の特徴について理解を深めたりすることができた。



【牧之通り散策】

## ○児童の感想

- ・5年生になったら、またセカンドスクールで南魚沼市に行き、宿のお父さんお母さんに会えることが楽しみだ。成長したところを見てもらえるようにこれからも頑張りたい。
- ・プレセカンドスクールに行く前は、自分の考えを友達に話すことがなかなかできなかったけれど、みんなと生活することを通して、意見を言うことができるようになった。すごく成長できたと思う。
- ・友達との絆が深まったように感じる。自分が担当する係では、みんなが気持ちよく生活できるように頑張った。ありがとうと言われてうれしかった。
- ・プレセカンドスクールへ行く前は、お家の人たちがいないとこで生活できるか不安で緊張していたけれど、友達と協力して生活することができて、自信になった。自分の生活を支えてくれる家族の大変さが分かった。

## ○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・学校で生活をしているときは、友達と意見がすれ違って言い争ってしまうことが多かった児童が、一緒に一日中生活を共にすることで、自分の伝えたかったことや、相手の言いたいことを落ち着いて伝え合うことができるようになっていた。今後も、普段の生活から対話的に様々な活動に取り組みせるとともに、来年度のセカンドスクールでは、さらに児童同士の交友関係が広がるよう指導していく。
- ・宿の周りの景色や、トレッキングコースで触れた自然などから、事前に学校で調べていた南魚沼のことと実際の体験と結び付けることができた。来年度のセカンドスクールでは、今回分かったことに加えてさらに、自分自身で課題を設定して、今回のプレセカンドスクールで体験したり感じたりしたことを基に、学習に取り組んでいく。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・子どもたちの「生きる力」を測る事前・事後アンケートの調査結果では、全ての項目において、数値が向上した。
- ・トレッキングでは、長時間歩くということだけでなく、日差しも強かったため、体力的にかなりきつい児童もいた。しかし、全員が最後まで歩き切ったことで、体力面で自信がついたとアンケートに回答した児童が多かった。
- ・長い時間生活を共にすることで、お互いのことが良く分かるようになり、協調性や思いやりが育まれた。声を掛け合って自立して生活しようとする態度も多く見られ、できることを増やし、自信を付けることができた。
- ・昨年度、田植え体験ができなかった反省を踏まえて、今年度は事前に南魚沼市観光協会へ田植え体験用の田んぼを残してもらおうよう声掛けを行った。次年度も、田植え体験を行うためには、遅くとも5月の中旬ごろにプレセカンドスクールを実施するか、事前に現地に問い合わせしておく必要がある。

# 第四小学校

# 東京都西多摩郡奥多摩町

7月5日～7月7日(2泊3日)

参加人数 男子20名 女子31名  
計51名

## ○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然と人との関わりについて理解を深め、自然と積極的に関わろうとする態度を育てる。
- ・水源林や、水を生かした農業について理解し、自然を大切にしようとする思いを育む。
- ・奥多摩の自然や、飲料水の供給のしくみについて、自ら課題を立て、必要な情報を選択する中で分かりやすく整理する力を養う。
- ・多様な方法を用いて課題を追究し、自ら解決する。
- ・集団活動を通して、生活の自立に必要な知識や技能を身に付ける。
- ・仲間と共に協力し合い活動することを通して、豊かな人間関係を築いたりコミュニケーション能力を育んだりする。

## ○日程表

7月5日(水)		7月6日(木)		7月7日(金)	
7:45	学校集合・出発式	6:00	起床	6:00	起床
8:00	学校出発	6:50	朝食	6:50	朝食
10:10	開校式(文化会館)	8:30	移動	7:40	大掃除
11:10	日原鍾乳洞見学	9:40	水源林学習	8:45	移動
12:50	昼食(福祉会館)	11:50	昼食	9:15	わさび田見学
13:40	ビジターセンター見学	12:40	クラフト工芸	10:20	鹿角ストラップ作り
15:00	奥多摩民話	14:50	山のふるさと村 発	11:30	昼食
16:15	各宿到着	15:20	小河内ダム展望塔見学	12:30	閉校式
17:00	入浴		水と緑のふれあい館見学	12:45	ふれあい農園 発
18:00	夕食	16:30	各宿到着	14:45	学校到着
19:20	健康観察	16:50	入浴	15:00	帰校式・解散
20:00	振り返りタイム	17:30	夕食		
20:30	就寝準備	18:30	星空観察(氷川小学校)		
21:00	就寝	19:50	各宿到着・健康観察		
		20:10	振り返りタイム		
		20:30	就寝準備		
		21:00	就寝		



## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・東京都奥多摩町の自然について、学習者用コンピュータを活用した調べ学習を行った。個人で、「奥多摩の自然や植物」や「日原鍾乳洞」などの課題を設定し、実際に訪れた際により深く調べる学習計画を立てた。調べた情報を新聞にまとめ、学級ごとに共有した。
- ・社会科「水はどこから」の学習で、飲料水を安定して供給するための仕事や工夫、水源林の特徴や役割などについて調べ、理解した。
- ・しおりを活用する方法やプレセカンドスクールにおける生活班、個人のめあて、またスケジュールや持ち物について、学年全体でオリエンテーションを行い丁寧に確認した。
- ・班長や各係を決めて、役割ごとに集合して、係打ち合わせを行った。児童全員が見通しをもって取り組むことができるように、プレセカンドスクールを通して取り組む目標を係ごとに設定し、各班がその目標を共有することで宿での過ごし方や活動時の約束を確認しあった。

### 2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールの3日間で体験したことや感じたことを振り返り、作文にまとめた。
- ・プレセカンドスクールに対する3年生の興味・関心を高めることを目的として、Google ドライブで共有した写真を活用して、現地での体験や発見についてポスターにまとめた。
- ・学習者用コンピュータで作成したポスターを廊下に掲示し、全校に成果を報告した。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 奥多摩の自然学習

2日目には、山のふるさと村にて、水源林のガイドウォークを行った。

ガイドの方に奥多摩に生息する動物のフィールドサインや植物の特徴などを教えていただいた。また、ふかふかの土が水を吸収する様子を実験し、水源林が水を蓄える役割をもつことを理解できた。

活動全体を通して、奥多摩の自然の豊かさや、水源林としての役割を学習することができ、児童にとってよい学びとなった。



【水源林を歩く児童の様子】

#### 2 星空観察

2日目の夜に、氷川小学校校庭で星空観察を行った。はじめに福祉会館にて、星の話を聞いた。空にはたくさんの星座が見えることや、奥多摩の空にはどのような星が見えるのかを教えていただいた。その後に校庭に移動して観察を行った。星座早見を使って空に見える星が何かを調べた。また、財団の方に天体望遠鏡を用意していただき、肉眼では見えない遠くの星や星

団を観察することができた。児童は、望遠鏡を通して見えた様々な星に興味をもち、熱心に観察に取り組んでいた。

## <生活・文化体験活動>

### 1 クラフト工芸

2日目の午後には、クラフトセンターにてクラフト体験を行った。今年度は石のストラップ、木工、お皿の3種類から1つ選び制作した。

機械で石を削る、電動糸のこぎりで木を切る、棒で陶土をお皿の形に整えるなど、それぞれの過程で、財団の方や教師の手助けを受けながら、自分の納得できる作品になるように集中して活動に取り組んでいた。また、活動を終えた際は、「早く学校に届かないかな」と話す児童がいるなど、充実した時間にすることができた。



【クラフト工芸の様子】

### 2 鹿角ストラップ作り

3日目の午前に、海沢ふれあい農園にて、鹿角のストラップ作りを行った。はじめに、財団の方から鹿の角の生え方などを教えていただいた。自分たちの予想とは異なる角の生え方に「そうなんだ！」と驚きの声が多く上がった。また、実際に鹿角を持つことで、鹿角の大きさや重さを理解できた。

鹿角を削る際は、模様を残したり、表面をつるつるにしたりと、児童一人一人が工夫して活動していた。紐付けする時間になっても、「まだやりたい！」と、活動に没頭していた様子が見られた。また、完成したストラップを互いに見せ合い、成果を認め合っていた。



【鹿角を紙やすりで削る様子】

## ○児童の感想

- ・クラフト工芸では木工を選んで、本だなを作りました。とてもきれいに作ることができてうれしかったです。セカンドスクールも楽しみです。
- ・星空観察では、さまざまな場所から星が見えてわくわくしていました。また氷川小学校に行ってきた綺麗な星空を見たいです。
- ・水源林学習で、落ち葉がもふもふの所がありました。そこに水を入れると、水があふれなくてどんどん落ち葉の中にすいこまれていくようで、とてもびっくりしました。
- ・宿の方がとてもやさしかったです。ごはんもとてもおいしかったです。プレセカンドスクールで思い出がたくさんできました。セカンドスクールがとても楽しみです。
- ・親のもとをはなれて、少しきんちょうしたけど、友達がいたので大丈夫でした。やっぱり友達って大事なんだなと思いました。
- ・ぼくはプレセカンドスクールに行って、いろいろな体験をして、奥多摩の魅力をいっぱい見

つけました。そして3日間とても楽しかったです。

- ・先生のお出迎えをしたことも思い出に残っています。みんなでいろいろなことができて、とても楽しかったです。

## ○セカンドスクールとの関連(生かし方)

セカンドスクールの前段階として、分宿制を取り入れ、宿泊体験をすることで宿の方々とのふれあいを大切にしようとする心情や、一人一人が見通しをもって計画的に行動しようとする力、集団生活でのマナーやルールを意識して行動する態度を育むことができた。基礎的な集団生活を今後も継続して指導し、セカンドスクールに向けて、自分たちで課題意識をもって取り組んだり、学習したことを基に課題を発見して主体的に調べたりする態度の育成につなげたい。また、一人一人のよさを認め合い、互いに協力し合うことのできる集団づくりに生かしていきたい。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・事業評価について、身体的能力のポイントが高く、水源林のガイドウォークやクラフト体験を通して、自分の足で歩いて自然の豊かさを体感したり、作品を完成させたりしたことが、児童の自信につながったと考えられる。次年度に向けて、仲間との集団生活を通して、相手を思いやること、自分の仕事に責任をもって行うことなどの道徳的能力をさらに高めていく必要がある。
- ・今年度は7月上旬に実施したが、社会科「水はどこから」や、理科「星の明るさや色」など、学習内容と関連付けた体験（水源林学習、星空観察など）を設定することができた。
- ・1日目にビジターセンターで奥多摩の動植物について見学した後に水源林学習（ガイドウォーク）を行うことで、児童がより意識して動物のフィールドサインや植物を見付けようとすることができた。
- ・水源林のガイドウォークでは、ガイドの方が班ごとに付き添い、説明をしながら自然体験ができたことで、進行がスムーズで安全を確保できた。次年度も現地講師と連携しながら取り組んでいく。
- ・クラフトセンターでのクラフト工芸は、実施前に現地担当者と綿密に打ち合わせができていたため、多様な活動を設定することができた。電動糸のこぎりなど初めて扱う工具もあったため、次年度は図画工作科の学習で、工具の使い方を事前に理解したうえで実施できるようにする。
- ・昨年度より実施場所を変更（群馬県利根郡片品村から東京都西多摩郡奥多摩町）したことにより、移動時間が短縮され、初日や最終日を含め多様な活動を設定することができた。一方で、2日目は星空観察を行ったこともあり、活動後から就寝時間までの時間が短くなったことや、1日の活動内容が多かったことから、児童の疲労も大きかったように感じる。次年度は児童の実態を踏まえながら、プログラムを精査して実施したい。

# 第五小学校

# 山梨県南都留郡山中湖村

9月27日～9月29日(2泊3日)

参加人数 男子44名 女子34名  
計78名

## ○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・富士山周辺について事前の調べ学習や、現地での豊かな自然や文化に触れる体験活動を通して、武蔵野市との違いに気付くとともに、それらへの関心を高め、自然を大切にしようとする態度を養う。
- ・自分の立てた課題について、調べたり体験したりして得た情報を分かりやすく整理し、まとめ・表現する力を育む。また、現地での諸課題について、友達と協働してよりよく解決する力を育む。
- ・2泊3日の宿泊体験を通し、集団生活に必要な基礎的知識や技能を身に付ける。また、友達や現地の方との関わりを通して、他者とよりよい人間関係を築こうとする態度を養う。

## ○日程表

9月27日(水)		9月28日(木)		9月29日(金)	
7:30	学校集合・出発式	6:30	起床・洗面	6:30	起床・洗面
8:00	学校発	7:00	朝の会・朝食	7:00	朝の会・朝食
10:00	富士山レーダードーム	8:55	ネイチャーラリー	8:15	大掃除・荷物整理
11:00	昼食(芝生広場にて)	11:00	昼食(宿舎にて)	9:20	閉校式
12:30	富士山トレッキング	12:00	さかな公園見学	9:50	宿舎発
16:00	宿舎着	13:30	交流プラザきらら(散策)	10:10	忍野村着・ほうとう作り体験
16:40	入浴	15:00	宿舎着	12:00	昼食(手作りほうとう)
18:00	夕食	16:00	学習のまとめ 入浴	12:45	忍野八海見学着
19:00	星空観察	18:00	夕食	13:20	忍野村発
20:00	健康観察・係会議・班会議	19:00	室内レク	15:30	学校着・帰校式
21:30	就寝	20:00	健康観察・係会議・班会議		
		21:30	就寝		

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間に、「プレセカンドスクールを楽しもう～自然や文化との触れ合い～」をテーマとし、富士山や山中湖、忍野八海などに関する課題を設定し、調べ学習を行った。
- ・インターネットや図書資料などを使って調べたことをプレセカンドスクールマイガイドブックとしてまとめた。

### 2 事後の学習内容

- ・体験したことや学んだことなどをスライドにまとめ、学年で交流した。
- ・振り返る活動を通して、今後の学校生活に生かしていきたいことやセカンドスクールに向けて身に付けた力をつなげていくことをまとめた。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 富士山五合目見学

富士山五合目ではガイドの方から、五合目周辺における富士山の動植物、景観、地形、地質等について話を聞いた。山の下とは違う冷たい空気を体感し、実際に目の当たりにすることで、富士山の自然環境について学ぶことができた。



【五合目トレッキング】

#### 2 ネイチャーラリー

8つのコーナー（やり投げ、竹ポックリ、魚釣り、火起こし、カモフラージュ、重さ当て、目隠しロープ、サイレントウォーク）を班ごとに回り、体を動かし、体験することで、大昔の暮らし方を知った。また、8つのコーナーを2回以上体験することで、ポイントをつかんで1回目より上手にできるようになった児童が多かった。

### <社会体験活動>

#### 1 富士湧水の里水族館、森の学習館

水族館では富士の湧水を使った淡水魚専門の水族館で、イトウやニジマス、ヤマメなどの様々な魚を見学することができた。事前に調べた魚を実際に見て、その大きさに驚いたり、初めて知る魚や他の生物に感動したりすることができた。シアターでは山梨にいる魚の生息地域について学び、富士五湖や周辺の川に住む魚へ理解や興味が深まった。森の学習館では、多くの生き物を育む森や自然の役割について学ぶことができた。

#### 2 富士山レーダードーム見学

班ごとにクイズラリーをしたり、富士山山頂の寒さ体験をしたりした。限られた時間の中で、班で協力して防災・気象観測の歴史や富士山周辺の気候について学ぶことができた。



### 3 忍野八海見学

バスガイドの解説を聞きながら、クラスごとに世界遺産富士山の構成資産の一部として認定されている忍野八海を見学した。事前学習で忍野八海について調べている児童も多く、作成したガイドブックの内容を実際にその場で確認することで、富士山が生み出す自然の偉大さに気付くことができた。

#### <生活・文化体験活動>

##### 1 ほうとう作り体験

3つの民宿に分かれて山梨県の郷土食であるほうとうを作った。生地を混ぜ、捏ね、伸ばし、切るまでの工程を体験することで、郷土料理についての理解を深めた。地元の野菜がたくさん入ったできたてのほうとうを味わい、郷土食の素晴らしさを感じることができた。



【ほうとう作り体験】

#### ○児童の感想

- ・富士山に登るのが楽しみだったし、富士山は青色っぽい色だと思っていました。行ってみると五合目からでも歩くのは大変だし、実は赤茶色っぽい色でスコリアという石があると分かっておどろきました。他にも、植物は育たないかと思っていたけれど、ちゃんと育っていて、動物もいたのでおどろきました。
- ・さかな公園でおどろいたことがあります。それは、ヒダサンショウウオのことです。事前に調べていて、サンショウウオだし大きいだろうなと予想していたけれど、自分の中指くらいの大きさで、すごく小さかったのでびっくりしました。
- ・一番思い出に残ったことは3日目のほうとう作りです。ほうとう作りでは初めて友達とめんから作って楽しかったです。めんを作るときにこねるのが難しかったです。めんをのばす時にぼうに体重をのせることも難しかったです。来年のセカンドスクールも友達と協力してがんばりたいです。
- ・みんな自分から時計を見てくれて安心しました。室長や班長ではなくても「あと5分だよ。」と声かけをしてくれました。私も自分から時計を見るようにすると、予定の時刻より早く準備ができて忘れ物もなくすごせました。
- ・同じ班の人たちと部屋の大掃除をがんばりました。なぜかというと、2泊3日も泊まらせていただいたので、感謝の気持ちを伝えたいからです。



## ○セカンドスクールとの関連(生かし方)

「なかよく 楽しく 協力し合い学習しよう」というスローガンを考え、課題解決学習を行った。課題解決に向けた調べ学習や宿泊学習に向けた準備、計画、学んだことをまとめ、表現するまでの学習の流れを体験することができた。

来年度のセカンドスクールに向けて、友達との集団生活の中で係を一人一役担うことで、それぞれが自分の役割に責任をもつことができた。協力という面では、生活班や行動班など班ごとの活動を大切にすることで、みんなのできるようにと考えて行動する力が育った。宿や活動場所では互いの個性を認め合い、困ったときには助け合う姿が見られた。また、感染症が増えている中、事前の体調管理を自分自身で行ったことで実施期間も自分で考えながら生活することができた。結果、全員参加で途中大きく体調を崩すこともなくプレセカンドスクールを終えることができた。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・子どもたちの「生きる力」を測るアンケートは、事前から事後にかけて約2ポイント向上した。これは、班で協力して活動し、集団生活を通して協調性が育まれたことによるものとする。先を見通して行動できていて、「五分前行動」の意識は高かった。集団としての動きがスムーズになった。
- ・「身体的能力」は、規則正しい生活をプレセカンドスクール前から意識したり、富士山五合目のトレッキングを体験したりしたことで向上したと考える。体力的につらい時でも粘り強く活動できるようになったと感じる。
- ・「道徳的能力」は目標を高く設定しすぎて、「もっとできる」と、自己評価を厳しくつけた児童が多かったためポイントが下がったと考える。実際はプレセカンドスクールを通して、道徳的能力は向上していると感じた。特に「自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる」ことができていた。
- ・日程やプログラム、活動内容については、バランスよく組んでいたと考える。課題として挙げられたさかな公園やトレッキングでの時間配分や写真撮影の回数などについて、来年度に向けて検討した。今回は例年になく暑さだったため、現地で受け入れ施設に臨機応変に対応してもらった。雨対策だけでなく、暑さ対策も考慮して活動内容を改善していく。

# 大野田小学校

# 山梨県南都留郡山中湖村

6月14日～6月16日(2泊3日)

参加人数 男子83名 女子60名

計143名

## ○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・世界遺産の富士山周辺の自然や文化について、体験的な学習を通じて知り、大切にしようとする心を育む。
- ・体験学習を通して自然の美しさや雄大さを味わい、自然への親しみや愛する心を育む。
- ・富士山周辺の文化や自然に対して、武蔵野市との違いや共通点に目を付けながら課題を設定し、調べ追及する力を養う。
- ・学習を通して学んだことを分かりやすく整理し、下級生へプレゼンテーションすることで伝える力を育成する。
- ・宿舎での生活を通して、友達と協力し助け合いながら生活する態度を育てる。
- ・保護者の元を離れ自主的・自発的に生活する体験を通して、自立心を育む。

## ○日程表

6月14日(水)		6月15日(木)		6月16日(金)	
		6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
		6:30	朝会、体操	6:30	朝会、体操
7:15	学校集合、出発式	7:15	朝食	7:00	朝食準備
7:30	出発	8:30	宿舎発	7:15	朝食
10:00	「よく見よう、じっくり見よう、自然のつながり」 富士山トレッキング	10:00	「見て学ぼう、感じよう、富士山の自然」 青木ヶ原ガイドウォーク	8:00	集合写真
		11:45	昼食	8:15	部屋の片付け、荷物整理
13:30	昼食(御庭)	12:45	出発	9:00	「作ろう、味わおう、郷土料理」 ほうとう作り体験
14:15	駐車場出発	13:30	「自然の力強さと不思議さを感じ取ろう」 ・鳴沢氷穴	11:15	昼食
15:30	宿舎着、開校式	14:30	「水辺の生物と自然環境」 ・湧水の里水族館	12:30	閉校式
15:45	草木染		・森の学習館	13:00	宿舎発
16:45	各部屋入室、避難訓練	16:40	駐車場出発	15:30	学校着、帰校式、解散
17:15	班長会	17:00	宿舎着、学習のまとめ		
17:45	夕食準備	17:20	班長会		
18:00	夕食	17:45	夕食準備		
19:00	講師講話 「富士山の自然と文化の話」	18:00	夕食		
		19:00	ハガキを書く 学習のまとめ		
20:00	入浴、荷物整理	20:00	入浴、荷物整理		
20:50	健康観察	20:50	健康観察		
21:00	就寝準備	21:00	就寝準備		
21:20	消灯	21:20	消灯		

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクールのめあてや、集団行動、集団生活のルール、公共施設利用のマナーについてしおりや資料を基に確認を行った。
- ・富士山の自然・文化・人々の暮らしなどをキーワードに調べ学習を行い、自己の学習課題や観察の視点をもった。またインターネットを活用して自分の学習課題を追究し、各自が新聞の形でまとめて伝え合った。
- ・生活班の中で係分担をし、それぞれの係で集まって事前打ち合わせを複数回行った。やるべき活動を明確化させ、責任感をもたせた。
- ・草木染めを行うにあたり、絞り加工の方法や種類について調べ、絹のハンカチに絞り加工を施した。普段生活している武蔵野市と山梨県の伝統工芸を関わらせることにより、双方の地域のもつよさや特徴に目を向けさせた。

### 2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールで学んだことを、班ごとに学習者用コンピュータを使ってスライドにまとめた。「スライドのまとめ方」「写真の見せ方」「話し方や目線」など分かりやすく伝える方法を意識しながら準備を行っていった。9月に、来年度プレセカンドスクールに行く3年生に対して、プレセカンドスクールを通して学んだことや楽しさについての発表を行った。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 富士山お中道

標高 2,300m 前後のお中道を五合目から御庭まで歩く予定だったが、あいにくの天候のため、途中で引き返す行程に変更した。土のおいを感じたり、高山植物の観察をしたりしながら、熱心に現地講師の話の聞いていた。最後は、森林限界を眺めながら、富士山の自然の厳しさや雄大さを体感することができた。



【富士山お中道】

#### 2 青木ヶ原ガイドウォークと鳴沢氷穴

2日目は行動班ごとに青木ヶ原樹海を散策した。青木ヶ原樹海は約1,200年前にできたといわれる比較的新しい原生林である。地面は溶岩土壌のため、地を這うように根を張った樹木や、溶岩樹形などについて現地講師の説明を聞きながら見学できた。また、土が少ない青木ヶ原樹海では倒れた木が新しい植物を生育する倒木更新など、樹海ならではの自然環境を目の当

たりにし、自然の奥深さや力強さに触れながら学びを深めることができた。鳴沢氷穴は今から約1,150年前の噴火でできた溶岩洞窟である。事前学習で鳴沢氷穴について調べていた児童も多く、洞窟内で見られた氷柱や自然が作り出した神秘的な空間に、児童は驚きとともに感動していた。

### 3 富士湧水の里水族館、森の学習館

人数の関係で全体を3グループに分け、時間を交代しながらそれぞれの施設を見学した。また、各施設内でもグループを細かく分け、1か所にかたまらないよう工夫しながら見学した。富士山の湧水を使った淡水魚専門の富士湧水の里水族館は職員の方の案内を聞きながら見て回った。流水水槽は、実際の川を再現しており、イワナやヤマメの様子を間近に見ることができた。森の学習館では、富士周辺の木の実や種子、動物のはく製が集められていた。実際に手に取って触れたり、匂いを嗅いだりしながら、展示物をじっくりと見ることができた。これらの見学を通して、自然の多様性や生態系についての理解を深めることができた。



【森の学習館】

## <生活・文化体験活動>

### 1 草木染

事前に絞り方について調べ、ハンカチに割りばしや輪ゴムを使って、折絞りや板締め絞りなど各自が模様を工夫して絞りを入れた。子どもたちは、自分たちが武蔵野市で集め、乾燥させて持ってきたハルジオンを用いた染色液にハンカチを漬け、水でよく洗い、媒染液であるミョウバン水に漬けるという工程を繰り返した。最後の工程を終えてハンカチを広げると、思いがけない模様の美しさに子どもたちから歓声があがった。草木染の前には、講師の方から染色液の材料であるハルジオンが外来種であることや富士山の自然と外来種の問題について話があり、富士山の自然の生態系について学ぶことができた。

### 2 ほうとう作り



【ほうとう作り体験】

山梨県の郷土料理であるほうとう作りを行った。包丁を使って野菜の皮むきをする担当、麺打ちをする担当の2グループに分かれ、協力して作業を進める姿が見られた。講師、指導員とともに、子どもたちの様子を見ながら一緒に活動できたため、安全に進めることができた。できあがったほうとうを、どの子も美味しく食べていた。

## ○児童の感想

- ・青木ヶ原樹海では、たくさんの植物を見たことが一番印象に残っています。中でも「倒木更新」は自分が全く知らないことで、倒れた木に種が落ちて、そこから木が生えていてとても驚きました。
- ・ほうとうのめん作りでは、こねるときに力が入ることが大変でした。伸ばす時には、薄いところや分厚いところがあったけれど、食べたらもちもちしておいしかったです。ほうとう作りは大成功でした。
- ・生活班の班長になって最初は不安だったけれど、しっかりみんなをまとめるだけでなく、班長らしい行動や発言ができるようになりました。3日間、みんなで協力して過ごすことの大切さも分かりました。これからもこの経験を生かしていきたいです。

## ○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・今年度も「つなげよう・つながろう」をテーマとし、学習を進めた。事前学習の時からセカンドスクールや普段の学校生活につなげること、また自分たちの経験を3年生に伝えてつなげていくことを意識付けし学習に取り組むことができた。
- ・主に、自然観察の仕方や課題解決学習の学び方を積み上げた。現地で培った自然を視る目、味わう心はセカンドスクールの学習課題の調べ方や学んだことのまとめ方につなげた。
- ・友達との集団生活を通して、一人一人役割を担って活動する経験を積んだことにより、児童の自主・自立・協力の心を養うことができた。また、荷物の準備、5分前行動、部屋の整理整頓、宿泊活動時の感染予防など、生活上のルールやマナーを再確認するよい機会となり、セカンドスクールに向けて、自分にはできるという自信と新たな目標をもつことができた。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・今年度はコロナ禍の制限が緩和され、食堂で一緒に食事をするなど、例年に近いかたちで実施することができた。
- ・同じ講師の方が3日間付き添い、児童の様子をよく見ながら自然についてレクチャーしてくださったため、セカンドスクールにもつながる「自然を視る目」を養うことができた。
- ・児童に行った事前・事後のアンケートでは、「生きる力」と「心理的・社会的能力」の項目で全体として伸びが見られた。特に「自分のことが大好きである」「小さな失敗をおそれない」などで高い結果が出ており、今回の集団生活を通じて、前向きに取り組む意識や自己肯定感が高まった様子が見えたと感じた。
- ・一方で、「早寝早起きである」と「誰にでも好かれている」という項目では、事前・事後に関わらずやや低い結果であった。「早寝早起きである」では、プレセカンドスクールにかかわらず、普段の生活から意識付けが大切である。また、「誰にでも好かれる」についても、普段の学校生活で互いの良いところを見つけたり、前向きな声掛けを増やしたりしていきたい。

# 境南小学校

# 山梨県南都留郡山中湖村

9月13日～9月15日(2泊3日)

参加人数 男子37名 女子57名  
計94名

## ○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・地形や気候を生かした自然体験を通して働く人々の工夫を理解すると共に、富士山周辺の自然に親しむことを通して自然の素晴らしさを感じ、自然と自ら関わろうとする心情を育む。
- ・地域の伝統食に触れ、その土地の風土に根差した文化への関心を高める。
- ・体験活動や地域の人との交流を通して、自ら課題を解決しようとする意欲や態度を育てる。
- ・課題を解決するため、調査活動を通して、情報を分かりやすく整理する力を養う。
- ・集団行動する中で、互いが気持ちよく過ごせるように、生活の約束を守り自分の責任を果たせるようにする。
- ・現地の方々と関わる活動を通して、宿泊地における諸課題を自分事として捉え、よりよい地域・社会づくりについて考える力を育む。

## ○日程表

9月13日(水)		9月14日(木)		9月15日(金)	
7:45	学校集合(出発式)	6:15	起床、健康観察	6:15	起床、健康観察
8:00	学校出発	6:45	朝の会	6:45	朝の会
	調布ICより中央道へ	7:30	朝食	7:30	朝食
9:45	談合坂SA(トイレ休憩)		部屋の清掃	8:10	片付け・清掃
10:30	鳴沢氷穴見学、青木ヶ原樹海	8:50	体育館集合	8:50	閉校式
	ハイキング、富岳風穴見学	9:00	ほうとう作り	9:10	宿舎発(バス)
12:30	富岳風穴発	12:00	昼食(ほうとう)	9:45	湧水の里水族館・森の学習館見学
13:00	富士山レーダードーム館芝生広場着	12:45	片付け	10:55	湧水の里水族館・森の学習館発
	昼食(弁当)、トイレ休憩	13:30	ネイチャーラリー	11:15	富士山科学研究所着
14:10	富士山レーダードーム館見学	15:30	ネイチャーラリー終了	11:30	富士山科学研究所
15:10	富士山レーダードーム館発		片付け		種の模型作り
15:40	宿舎着、開校式(玄関前)	16:00	入室・荷物整理	12:15	昼食(お弁当)
	入室・荷物整理・避難訓練	16:20	学習のまとめ	13:00	富士山科学研究所発
16:30	はがきを書く	17:00	入浴		河口湖ICより中央道へ
17:00	入浴	18:30	夕食	13:40	談合坂SA(トイレ休憩)
18:30	夕食	19:30	レクリエーション(体育館)	14:30	学校着
19:30	レクリエーション(体育館)	20:20	健康観察・明日の準備		帰校式
20:20	健康観察・明日の準備	20:40	就寝準備	14:50	解散
20:40	就寝準備	21:00	消灯		
21:00	消灯				



## 〇プレセカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・生活班の係ごとに事前打ち合わせを行い、やるべき活動を話し合いで決め、責任感をもてるようにした。
- ・国語科「新聞を作ろう」の単元と関連させ、富士山および富士周辺の魅力を伝える新聞制作を行った。行動班の中で調べるテーマを分担し、より多くの見学先の情報を得たうえで、現地で見学を行い、関心をもって活動に取り組めるようにした。
- ・国語科の「お礼の気持ちを伝えよう」の単元と関連させ、はがきづくりの準備を行った。プレセカンドスクール初日の様子や気持ちを、伝えたい相手に正確に伝えるための具体的な手法について学んだ。

### 2 事後の学習内容

- ・2学期の国語科「世界にはこる和紙」「情報を百科事典で調べよう」「伝統工芸のよさを伝えよう」の単元と関連させ、氷穴・風穴や富士山レーダードーム館の見学、ネイチャーラリーで体験したことを生かして、リーフレットの制作に取り組んだ。リーフレットには、一人一人がプレセカンドスクールに参加した感想を書いた。

## 〇特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 鳴沢氷穴、富岳風穴見学、青木ヶ原樹海ハイキング

風穴や氷穴のでき方や、寒冷な気温を利用して、昔は繭玉の保管に使われていた様子などを見学した。外気との気温の違いを肌で感じることで、自然の冷蔵設備としても利用されていたことを体験的に学ぶことができた。

樹海コースに存在する小さな風穴を見たり、溶岩が固まってできた軽石の軽さなどを体験したりするなど、火山の噴火による溶岩の流れからなる自然事象に興味関心をもつことができた。



【樹海ハイキング】

#### 2 ネイチャーラリー

原始の時代を体験する自然体験活動を通して、自然の素晴らしさや偉大さを感じながら、様々な課題に行動班ごとに挑戦することで、「協働」することの大切さに気付くことができた。

#### 3 湧水の里水族館、森の学習館見学

湧水の里水族館では、富士山周辺の身近な魚や珍しい魚まで、多種類の淡水魚を見ることで、淡水魚の生態に触れることができた。森の学習館では、火山としての富士山の恵みや災害などについて展示資料を見ながらクイズに答えることで、自然保護に対する理解を深めることができた。

## <社会体験活動>

### 1 ほうとう作り

ほうとう作りでは、山梨県の代表的な郷土料理を小麦粉から自分たちで作って食べたり、稲作が適さない山間部で、米に変わる主食として昔から親しまれてきた時代背景などを学んだりすることを通して、土地や文化に関心をもつことができた。

## <生活・文化体験活動>

### 1 富士山レーダードーム館

富士山レーダードーム館では、富士山レーダーの歴史や気象観測について映像、展示資料を参考に解くクイズラリーや、富士山の気象を風や映像、音を通して体感できる「富士山頂寒さ体験」を行い、実感をもって自然の偉大さについて学ぶことができた。

### 2 富士山科学研究所

富士山科学研究所では、富士山の成り立ち、水、動植物など、富士山とその周辺の自然の広がりについて講義を通して学ぶことができた。その中でも、様々な種類の種を見たり、世界で一番大きな翼をもつ種の模型を作って飛ばしてみたりする活動では、児童も興味をもって取り組むことができた。



【富士山科学研究所】

## ○児童の感想

- ・友達と協力し様々な活動に取り組むことができたけど、時間の意識が少し足りなかったです。セカンドスクールでは、スケジュールを意識したいです。
- ・自分たちでしおりに予定をメモし、友達と声を掛け合って行動できました。これまでより時間を意識できるようになりました。
- ・行動班の友達とネイチャーラリーやほうとう作りをやって、友達と協力することの大切さが前よりもとてもよく分かりました。
- ・プレセカンドスクールを通して、友達と協力して学習に励むことができました。生活班の班長をやり、時間を意識して行動できました。プレセカンドスクールに行く前より5分前行動ができていたと思いました。
- ・湧水の里水族館では、今まで見たことない魚をたくさん見ることができてとても楽しかったです。

## ○セカンドスクールとの関連(生かし方)

集団生活を通して、友達と協力することや生活の約束を守ることの大切さを実感できるようにし、来年度のセカンドスクールに自信をもって臨めるように指導した。また、「自分のことは自分です」という意識をもてるようにすることで、身辺自立等の向上を促した。

今回学んだ学習課題の調べ方や表現方法は、セカンドスクールにも生かされると考えている。初めての宿泊体験に緊張や不安を抱く児童もいたが、プレセカンドスクールを通して、宿泊を伴う集団生活に対する自信をもつことができた。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・初めての宿泊行事を通して、普段できない体験や自然との関わりができたことで、子どもたちの「生きる力」を測るアンケートの「心理的・社会的能力」のポイントが向上したと考える。
- ・生活班における係分担を通して、責任感や協調性が育まれ、「道徳的能力」のポイントが向上したと考える。また、集団生活のルールやマナーを再確認する機会となり、来年度のセカンドスクールに向けて児童が見通しをもつことができた。
- ・「富士山レーダードーム館」は、児童にとって理解しやすい展示内容があり、クイズラリーなど、児童の関心を高める展示の工夫もされていた。富士山やその周辺の気候などを学ぶのに有効であった。

# 本宿小学校

# 山梨県南都留郡富士河口湖町

10月4日～10月6日(2泊3日)

参加人数 男子34名 女子40名  
計74名

## ○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然と調和して生きることの大切さや魅力への深い理解
- ・自然の美しさや力強さに感動する心
- ・自ら学びたいことを選び、追求したい課題を具体的に設定する力
- ・自分の課題を解決するための情報を集め、整理し相手に伝える力
- ・自分にできることを主体的に考え、人と協働する力
- ・自分の生活を見つめ、改善、向上させようとする前向きな姿勢

## ○日程表

10月4日(水)		10月5日(木)		10月6日(金)	
7:30	学校集合・出発式	6:30	起床	6:30	起床
7:50	出発	7:00	朝の会	7:00	朝の会
9:20	談合坂SA(トイレ休憩)	7:30	朝食	7:30	朝食
10:50	青木ヶ原樹海ハイキング	8:30	宿舎発	8:30	部屋の掃除・荷物整理
13:30	昼食	9:30	富士山五合目トレッキング	9:10	閉校式・宿舎発
14:30	富士山科学研究所	10:50	生物多様性センター	10:30	一久園(ぶどう狩り)
16:00	宿舎着・開校式	12:40	宿舎着・昼食	11:45	昼食
17:00	入浴・学習の記録	15:00	染め物体験	13:40	談合坂SA(トイレ休憩)
18:30	夕食	17:30	夕食	14:40	学校着・帰校式
19:30	自然の話	18:30	ナイトハイク	15:10	解散
20:30	健康観察・明日の準備	19:30	入浴・学習の記録		
21:00	就寝・消灯	21:00	健康観察・明日の準備		
		21:30	就寝・消灯		

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクール実施前に山梨県の位置や気候などを確認し、知っていることについて話し合いを行った。その後、山梨県(富士山)の自然と文化について、興味をもった課題について個人で調べ学習を行った。グループ内で発表し情報を共有したことで、山梨県につい

て興味関心が高まった。

- ・自分の役割に責任をもつことや自立した行動ができることについて意識を高めるため、班における役割分担やめあてを話し合い、各自で準備を行った。
- ・学年で、プレセカンドスクールの目的（めあて）を共有するための話し合いを行った。同時に宿泊や集団生活におけるルールやマナーについても学級で話し合い、その必要性に気づくことができた。

## 2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールを振り返って自分たちが身に付けたことや学んだことについて作文でまとめた。
- ・はとの子発表会（学習発表会）でプレセカンドスクールをテーマに発表を行った。下級生にはプレセカンドスクールが楽しみになるように、上級生にはなつかしいと思ってもらうことを目的に、劇とスライド資料を使ったプレゼンテーションを織り交ぜて発表を行った。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 青木ヶ原樹海ハイキング・「自然の話」

現地のエコスクールの方がガイドをしてくださり、青木ヶ原樹海の自然についての説明を聞きながらハイキングを行った。数時間前まで雨が降っていたが、ぬかるみもほとんどなく、樹海の特徴である倒木更新や切り株更新の様子、溶岩樹形などを眺めながら歩き、青木ヶ原樹海の自然について学習することができた。また、児童は、リスが松ぼっくりを食べたあとの「森のエピフライ」などの動物の痕跡にも興味を持ち、普段はなかなか見られない自然の姿を実際に見るよい機会となった。また、エコスクールの方に宿舎にも来ていただき、富士山周辺の自然や生物の多様性についてのお話を聞く機会も設けた。昼間の活動と関連させて学ぶことで、より学びを深めることができた。



【青木ヶ原樹海ハイキング】

#### 2 富士山科学研究所

富士山全般についての映像学習を行った。富士山の成り立ちや森にすむ動物についてなど、映像とクイズを楽しみながら、富士山の自然について幅広い視点からその特徴を知ることができ、次の日のトレッキングに向けて関心・意欲を高めることもできた。

### <社会体験活動>

#### 1 ぶどう狩り体験

ぶどう棚を初めて見た子どもも多く、さらにぶどう棚にたくさん実っている景観は、児童の



ぶどう狩りに対する楽しい気持ちがさらに増したようであった。ぶどうの採り方や種類、工夫などの話を聞いたり質問したりしてから、ぶどう狩りに取り組んだ。実際にぶどうを採る時には、農家の方が一房一房、たくさんの工夫をしながら大切に育ててきたこと、大きなおいしそうなぶどうが育つうれしい気持ちなどを実感しながら体験することができた。また、自分が選んだぶどうはお土産となるので、農家の方のアドバイスを聞きながら、おうちの方のために一生懸命おいしそうなぶどうを選ぶ姿も見られた。

## <生活・文化体験活動>

### 1 染め物体験

事前にハンカチに割りばしや輪ゴムを使って、様々な絞り加工を施してプレセカンドスクールに持って行った。染めてみないとどのような柄になるのか分からない中の作業であったが、それぞれ思い思いに絞りの加工を施した。当日はエコスクールの方が用意して下さった「セイトカアワダチソウ」を使用して作った染液にハンカチを漬け、水でよく洗い、媒染液のミョウバン水につけて色を定着させ、また、水で洗うという工程を繰り返し行った。最後にハンカチを広げて、浮かび上がった様々な模様を、嬉しそうに見せ合う姿が見られた。外来種であり歓迎されていない「セイトカアワダチソウ」から美しい自然な黄色が生まれることや、身近なものから染め物ができる技術の素晴らしさを体験することができた。



【染物体験】

## ○児童の感想

- ・私は初めてのプレセカンドスクールの中で特に頑張ったことがあります。それは時間を守って行動することです。学校で中休みや昼休みなどのときにメリハリをつけることが苦手なので、時間を守って班のみんなと仲よくするということをめあてにして、特に意識するようにしました。プレセカンドスクールでは、しおりを見ながら班のみんなと声をかけ合い、5分前行動をすることができました。初日に行動が遅れてしまうなどのトラブルはありましたが、これからはこうしよう、ああしようと班で工夫することができて、とてもよかったなと思いました。
- ・ぶどう狩りをする一久園についたらおいしそうなぶどうがいっぱいありました。ぼくは大きくておいしそうなのを選びました。家族のみんな、よろこんでくれるといいなと思いました。バスに乗るとき、富士山にもっと雪がつもっているところ見たかったから、まだ山梨県ですごしたいなと思いました。学校についたとき気温が全然違ってびっくりしました。
- ・私は、プレセカンドスクールをずっと楽しみにしていました。実際に行くと生活面も行動面も自分たちだけでやる事が多く、新鮮でした。私が残っていることは、青木ヶ原樹海のお話です。それは、「枯れ木や切り株の上に種が落ち、土が少なくても木が育っていける。」「草や小さな木は葉のすべてに日光が当たるよう、螺旋に伸び日光を浴びにくいところでも育てる。」などのお話です。私は話を聞いて草木はこんなふうに賢く育っているということを知りました。



## ○セカンドスクールとの関連(生かし方)

2泊3日の宿泊体験を通して、友達と協力して行動することや集団生活でのルールやマナーを守ることの大切さを実感させた。特に時間を守って行動することを意識させるために、部屋に時計を配布し、次の行動までに必要な時間を考えて行動を開始できるようにした。初めは集合時間に間に合わない班や、やり忘れたことが多いまま次の行動をしている班なども多かったが、3日間のうちに、子どもたち自身が改善を実感することができ、自信をもって行動することができるようになった。また班長を中心に、それぞれが担当の係の役割を責任をもって行うことができた。事前の準備から当日の活動まで児童が率先して行動する場面を設け、来年度のセカンドスクールに自信をもって臨めるように指導した。また、草木染から箸づくり、ぶどう狩りから稲刈りなど、今回体験したことをさらに発展させるプログラムがセカンドスクールで用意されていることで、この体験がセカンドスクールにつながっていることを子どもたちも実感し、生かすことができると考えている。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・現地のエコスクールの方にガイドを依頼したことで、低温と強風が心配される中、富士山五合目トレッキングを予定より短時間にして予定を組み直すなど、柔軟に対応することができた。富士山の自然や生物の多様性についての話は、4年生には少し長く難解なところもあったので、事前に話の内容や時間を確認しておくことが必要と感じた。
- ・初めての宿泊学習であったが、児童の活動に忙しさを感じた。4年生という発達段階を考慮すると、もう少し移動の少ないプログラムについて検討していくことの必要性がある。
- ・児童は初めて集団宿泊学習を経験し、「時間を守って行動すること」や「班の人と協力して行動すること」などの集団生活の基礎・基本を学ぶことができた。今後の学校生活や来年度のセカンドスクールに向けて大きな成果があった。
- ・各学級に生活指導員を2名以上配置したことで、細やかな声かけや支援を行うことができ、特別な配慮を必要とする児童も安心して活動することができた。また、具合が悪くなって、予定通りの活動ができなかった子どもへの配慮の面でも大変助かった。
- ・今年度の事業評価(児童の「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査)では、心理的社会的能力のポイントが大きく向上していた。家以外での宿泊経験が少なく、親元を離れる経験が初めての児童も多く、自立について、事前にもプレセカンドスクール当日にも指導する場面が多くあったが、バス内での過ごし方から、宿舎内での過ごし方、宿舎班や行動班における役割分担など、様々な活動において、自分たちで問題点や課題を見つけ、進んで活動することができたようであった。また、友達と集団生活を送る中で、お互いに新たな一面を見つけたり、助け合ったりすることで、自己肯定感が向上し、全体的に生きる力が向上したと考えられる。

# 千川小学校

# 山梨県南都留郡富士河口湖町

10月4日～10月6日(2泊3日)

参加人数 男子24名 女子25名  
計49名

## ○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・富士山周辺の自然や人々の生活についての調べ学習を通して、自然と人との調和について理解を深め、自然を大切にしようとする態度を育む。
- ・自己の課題を解決するために、現地での学習を通して、情報を分かりやすく整理、分析してまとめる力を養う。
- ・集団生活を通して、集団生活の基礎を身に付けるとともに、互いのよさを生かしながら生活する態度を育む。
- ・現地の方々と関わる活動を通して、郷土の文化や働く人々の工夫、苦勞を理解し、積極的に社会参画しようとする態度を育む。

## ○日程表

10月4日(水)		10月5日(木)		10月6日(金)	
7:40	学校集合	6:30	起床	6:30	起床
7:45	出発式	7:00	朝の会	7:00	朝の会
8:00	学校出発	7:30	朝食	7:30	朝食
10:45	紅葉台ハイキング	9:30	青木ヶ原樹海トレッキング	8:45	閉校式
11:30	昼食(三湖台)	10:10	富岳風穴見学	9:40	菱山共選場見学
13:30	富士山世界遺産センター	11:15	ほうとう作り体験	11:00	ぶどう農家作業体験
14:40	宿舎到着・開校式	12:15	昼食(ほうとう)	13:00	昼食(お弁当)
16:00	河口湖畔散策	14:00	富士山科学研究所		
17:30	夕食	17:30	夕食	15:00	学校到着
18:30	入浴	18:30	入浴	15:30	解散
19:30	学習の記録・はがき書き	19:30	学習の記録		
19:50	班長会議	19:50	班長会議		
20:00	検温、健康観察	20:00	検温、健康観察		
21:00	就寝	21:00	就寝		

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・学習者用コンピュータや地図帳の統計資料を活用し、山梨県の基本情報をつかんだ(社会科

の学習と関連付ける)。

- ・プレセカンドスクールのめあてを知るとともに、総合的な学習の時間「プレセカンドスクールで学ぼう」の学習計画を立てた（ゴール「3年生にプレセカンドスクールのよさを伝えよう」を設定した）。
- ・2泊3日の行動予定や活動内容、活動場所を知った。
- ・富士五湖、富士山周辺の文化や歴史、暮らし、産業などについてインターネットで検索したり図書資料を活用したりして情報収集を行う（中央図書館の学校連携事業を活用する）。その中から興味・関心のある事柄、現地で特に詳しく学習したい事柄を課題として設定し、さらに情報を集めた。
- ・しおり配付後、集団生活を通してどんな力を身に付けるのかを具体的に伝え、達成するために必要な5つの係活動を設け、係の仕事や生活班での宿での過ごし方についてなどを確認した。

## 2 事後の学習内容

- ・富士山についての探究してきた課題や富士山以外に探究してきた課題についての事前学習と現地学習を学習者用コンピュータのスライドにまとめた。スライド作成後、伝えたいことを整理し、発表原稿を作成、発表練習後に3年生へ発表した。
- ・発表会についての振り返りと、単元の学習全体についての振り返りを行った。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 紅葉台ハイキング

1日目の紅葉台ハイキングでは、富士山周辺の自然を肌で感じ、草木や花などを観察しながら頂上を目指した。途中で見た間近に仰ぐ富士山の大きさに歓声をあげたり、友達と励ましの言葉を掛け合ったり、転んだ友達を助けたりする姿が多く見られた。三湖台では、西湖や青木ヶ原樹海を見下ろすことができ達成感を味わうとともに、富士山や河口湖の位置を確認することができた。

#### 2 青木ヶ原樹海トレッキング・富岳風穴見学

2日目に、青木ヶ原樹海トレッキングを行い、富岳風穴を見学した。トレッキングは、行動班ごとに行い、自然の力で折れた木や浮いた根っこに自然の強さを感じた。また、溶岩や様々な植物、きのこなどを見付け、事前学習と関連付けながら遊歩道を進んだ。富士山が生み出した様々な大きさの溶岩にとっても驚き、改めて富士山の歴史に興味をもった様子であった。

富岳風穴内では、想像以上に洞窟内の冷気を感じたり、氷が多く残っていたりすることに驚きの声があがった。昔は蚕のさなぎや植物の種などを保管する天然冷蔵庫として使用されていたことを、実際に体感した気温3度の寒さで納得した様子であった。自然の不思議さや、自然を生活に生かしてきた当時の人々の知恵に触れることができた。

### 3 富士山科学研究所

2日目に、「ふじさん自然教室」の2つのプログラムを受講した。そのうち、生態観察園ではフィールドビンゴを行った。現地の教育スタッフからレクチャーを受けた後、班ごとに協力しながら、「溶岩でできた大きな穴」「子どもの木」「森のエビフライ」「鳥の鳴き声」などのヒントをもとに森の中で探し、ビンゴを完成させていくことを楽しんだ。もう1つのプログラムでは、世界で一番大きな翼をもつ「アルソミトラ」の種の模型を工作し、飛行実験を通してその飛び方を観察した。2つのプログラムを通して、自然を観察する楽しさや、自然の多様性や生態系などについて学ぶことができた。

#### <社会体験活動>

##### 1 共選場見学・農作業体験(ぶどうの収穫)

3日目に、菱山共選場で、農家で収穫されたぶどうを仕分ける様子を見学し、市場へ出荷する前の仕事について学んだ。ぶどうの品種や、色や形などで等級に違いがあることなどを実際に等級分けしている様子を目にしながらか説明を受けることができた。

その後、ぶどうの生産農家やJAフルーツ山梨の方々の指導のもと、加工用の「甲州」の収穫作業を体験した。おいしいワインになるように変色した実を切り落とし、ぶどうを入れたコンテナを運ぶことを通して、仕事に携わっているという感覚をもつことができた。



【ぶどう農家体験】

実際に農作業を体験することで、普段自分たちが食べているぶどうが多くの人の手間をかけなければならないということや、安全でおいしい農作物を育てる工夫や苦勞を体感することができた。

#### <生活・文化体験活動>

##### 1 ほうとう作り体験

2日目、西湖公民館で、地元の方々に教わりながら山梨県の郷土食であるほうとう作りを体験した。ほうとうの麺作りでは、「小麦粉をこねる」「伸ばす」「大きな包丁で切る」の工程を全員が経験することで、おいしいほうとうを作るためにはどの工程も大切であることを実感することができた。自分で作ったほうとうの味は格別だった様子である。ほうとう作りを通して、山梨県の郷土料理について理解を深めた。仲間と協力したり、お互いにアドバイスをし合ったりしながら活動を進めた。



【ほうとう作り体験】

### ○児童の感想

- ・紅葉台ハイキングでは、友達と励まし合ったり、楽しみながら登ったりすることを意識しながら取り組みました。三湖台まで登って見えたきれいな景色に感動しました。

- ・ほうとう作り体験では、普段料理をするので、その経験を生かすことができた。みんなで一つの料理を作るのはとても楽しかったです。おいしいほうとうを作ることができました。地元の方ともふれあいながら作ることができてとても楽しかったです。
- ・共選場見学で、大量のぶどうに感動しました。しかも色々なぶどうの品種があることに驚きました。同じ種類の中でも、大きさや色などで5段階の等級に分けられることも知ることができました。ぶどうを作る工夫が多くあることに気付きました。
- ・自分たちで声を掛け合いながら生活できて楽しかったです。学校でも自分たちで声を掛け合って生活がしたいです。

## ○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・宿泊を通じて集団生活の大変さや難しさを体験したことで、セカンドスクールへのイメージをもつことができた。また、同じ宿舎なので、児童一人一人の様子を教員全員で見取り、支援することができた。そのため、児童も初めての宿泊行事に対して抵抗なく、安心して3日間を過ごすことができ、セカンドスクールへの自信にもつなげることができた。
- ・児童は「協力し合う大切さ」について、協力することで活動に気持ちよく取り組めるだけでなく、より多くの感動やよい経験を積むことができることを実感した。その経験をセカンドスクールでも生かせるよう指導していく。
- ・自ら課題を追究しながら事前、現地、事後と学習を進めていく中で、学習課題の調べ方や、資料の表現方法などを学んだ。また、現地で培った自然を観る目や味わう心はセカンドスクールに対する意欲付けになった。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・子どもたちの「生きる力」を測る事業評価では、全ての項目で事前アンケートよりポイントが向上した。学習を通して、何事にも主体的に取り組む態度や、自ら課題を設定し解決しようとする態度、仲間と協力して生活する態度が身に付いたと考える。プレセカンドスクールで学んだことを日頃の学校生活や行事等で生かす場面も増えている。次年度のセカンドスクールに向けて、プレセカンドスクールで学んだことを生かせるように指導していく。
- ・富士山に関する学習を多く盛り込んでいるが、実際に富士山の近くに行ったり、登ったりするような活動はなかったため、次年度は、御殿場口から富士山（五合目）に登り、富士山を身近に感じられるようにするとともに富士山から見える河口湖周辺についての学習を増やしたい。
- ・富士山世界遺産センターでは、ガイド付き館内見学のプログラムを設定しているが、次年度は、自分の課題に合わせて自由に見学できる時間も設定する。
- ・事前学習では、自己の課題を明確にもつことで、意欲的に富士山や河口湖周辺の自然を調べる姿が多く見られた。
- ・富士山科学研究所で受講する2つのプログラムでは、座学のみではなく、実際に自然を見ながら行動班で活動できたのがよかった。

# 井之頭小学校

# 東京都西多摩郡奥多摩町

10月4日～10月6日(2泊3日)

参加人数 男子52名 女子59名  
計111名

## ○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・奥多摩町についての事前の調べ学習や、現地での豊かな自然に触れる体験活動を通して、自然についての理解を深め、自然を大切にしようとする態度を養う。
- ・奥多摩町と武蔵野市を比較し、奥多摩町の自然や文化の特徴について理解を深める。
- ・自己の課題について、調べたり体験したりしながら情報収集を行い、分かりやすくまとめる力を養う。
- ・友達や現地の方との関わりを通して、自己の視野を広げ、他者とよりよい人間関係を築こうとする態度を養う。
- ・集団生活や行動班での活動を通して、集団生活に必要な基礎的知識や技能を身に付ける。

## ○日程表

10月4日(水)		10月5日(木)		10月6日(金)	
7:30	学校集合 出発式	6:00	起床	6:00	起床
8:00	出発	7:00	朝食	7:00	朝食・大掃除
10:00	奥多摩町文化会館着	9:40	水源林学習、ガイドウォーク	8:20	各宿出発
10:10	開校式	12:00	昼食	9:00	ふれあい農園着
10:40	学校交流 (古里・氷川小学校)		小河内ダム見学	9:15	ワサビ田見学
12:15	昼食		水と緑のふれあい館見学		沢の自然観察
14:00	日原鍾乳洞 ビジターセンター見学	16:30	各宿着		鹿害の話
16:30	健康観察	17:00	健康観察		鹿角ストラップ作り
17:30	夕食	17:30	夕食	11:30	昼食
18:30	奥多摩民話	18:45	星空観察(45分間)	12:30	閉校式
19:30	入浴	19:45	入浴	13:00	奥多摩町出発
21:00	就寝、消灯	21:00	就寝、消灯	15:00	学校着
				15:10	帰校式
				15:30	解散

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間では、奥多摩町について調べ、地域の概要をとらえ現地で学ぶ意欲を高めた。



- ・奥多摩町にある2校の小学校との交流で、武蔵野市について紹介するための資料を作成した。3年生の総合的な学習の時間で学んだ内容を基に、学習者用コンピュータでまとめた。
- ・社会科の「水はどこから」では、ダムの役割や水源林の働きについて学び、小河内ダムの場所を地図で確認した。
- ・理科「星の明るさや色」で星の位置や名称について学習した。星座早見盤の使い方を確認した。

## 2 事後の学習内容

- ・各学級で課題別の学習に取り組み、宿泊体験や自然体験、奥多摩の文化や人々、学校交流などをテーマとして、プレセカンドスクールの活動を振り返った。学習者用コンピュータのスライドなどを使ってまとめた。
- ・11月に3年生を対象に、12月には保護者を対象にプレセカンド体験発表会を行った。各自がインターネットで調べたことや現地で体験したことから発表資料や原稿を作った。次年度にプレセカンドスクールを体験する3年生には楽しみにしてもらえるように、保護者には宿泊での自分たちの成長と奥多摩で学んだことが伝わるように発表することができた。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 日原鍾乳洞

奥多摩町の地形や地層の特徴を知るために、鍾乳洞では、通路に沿って見学した。気温の変化や鍾乳洞に住むこうもりの声や羽音を聞き、奥多摩の自然を体感しながら学ぶことができた。鍾乳石の様々な様子を見ることで、数十万年以上の時が積み重なって形成されたものであることを知った。児童は鍾乳洞に歴史が刻み込まれていることに驚いたり、神秘的な光景に感動したりするとともに、奥多摩町の地層や地形の特徴を知ることができた。

#### 2 ガイドウォーク・水源林学習

奥多摩町の自然について理解するために、インストラクターと一緒に自然観察をした。動物が食べた後の木の実や獣道などのフィールドサインを探す活動では、生息する動植物についての理解を深めることができた。水源林学習では、実際に土に水を流し、染み込む様子を熱心に観察し、水源林の仕組みや働きについての理解を深めた。



【ガイドウォーク・水源林学習】

### <社会体験活動>

#### 1 奥多摩ビジターセンター

奥多摩地域の特色をつかむために、ビジターセンターの解説員の方に館内を案内していただき、見学した。解説員の方の話や展示物などから、奥多摩の動植物や季節の見所などを詳しく

く学ぶことができた。見学を通して、地形、位置関係、動植物など奥多摩地域の特色をつかんだ。翌日の水源林ガイドウォークで注目するとよいポイントも知ることができ、体験学習への意欲を高めていた。

## 2 小河内ダム・水と緑のふれあい館

ダムの大きさを実感し、その構造や働きについて理解するために、見学を行った。小河内ダムの展望塔の上から迫力あるダムの姿を見学したことで、ダムの大きさを実感することができた。展望塔の中には流域図やダムの歴史を紹介した展示コーナーがあり、児童が構造や働きについて理解を深めようとする様子が見られた。水と緑のふれあい館では、奥多摩町の歴史や特徴、東京都の水源について知ることができた。

### <生活・文化体験活動>

#### 1 地元の小学校との交流

学年を2つのグループに分け古里小学校・氷川小学校の児童と交流した。その中で、お互いが自分たちの住んでいる地域の特徴やよさについての発表をした。奥多摩町と武蔵野市の違いや共通点、よさを知ることができた。レクリエーションでは、ドッジボールを行い、交流を深めることができた。



【学校交流】

#### 2 奥多摩民話

奥多摩地域の文化に触れるために、「熊をくすぐる」など奥多摩町に関する民話を聞いた。児童は集中して語り部の話を聞き、奥多摩は古い歴史が眠っている町であることを知るとともに、地域の文化について触れることができた。

### ○児童の感想

- ・家族と3日間離れて過ごすことで、自分でできることをやることの大切さを学びました。友達と生活することはとても難しかったけれど、係の仕事を責任をもって取り組むことができました。学校でも自分の仕事や係に責任をもって取り組みたいです。
- ・奥多摩町と武蔵野市の違いや共通点を学ぶことができました。同じ東京都でも山や水源林などこんなに自然が多くて、違いが多いなと思いました。
- ・奥多摩町の動物やフィールドサインを見ることで、自然が身近にあることや自然の豊かさを感じました。
- ・奥多摩の人とのかかわりの中で、あいさつの大切さを学びました。関わる人にあいさつすることで、とても気持ちよく関わることができたので、学校でもやっていきたいです。

## ○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・自然に触れる体験活動を通して、自然についての理解を深めた。セカンドスクールでも、現地の自然と関わりながら体験活動を行うことで、一層自然を大切にしようとする態度を育てていく。
- ・事前に奥多摩町はどんな所か調べ、実際に現地で調べたことや体験したことを武蔵野市と比べながらまとめて伝えるという学習を通して学習の一連の流れを理解することができた。セカンドスクールでもこの流れを踏まえ課題解決や情報活用の力を一層高めていく。
- ・セカンドスクールと同様に民宿に分宿し、初めての宿泊を体験することで、自立の意識を高め、友達と協力して生活することの大切さを感じることができた。集団生活のルールを守り、互いに協力し合うことの大切さに気付き、集団生活に必要な基礎的知識や技能を身に付けることがセカンドスクールに向けての自信と意欲へつながると考える。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

### <成果>

- ・事前の实地踏査で奥多摩町の方と話し合いながら行程を決定したことで、当日は計画通り安全に進めることができた。
- ・交流の方法について児童が主体的に考え準備をした。奥多摩町と武蔵野市のそれぞれの魅力を発表し交流したことで、よさや違いを理解していた。学校交流のレクリエーションでは積極的に児童同士が関わることができた。
- ・水源林学習では、グループごとにインストラクターの話聞くことで、社会科で学習した水源林の仕組みについての理解を深めることができた。

### <課題>

- ・実施した3日間はすべて晴天だったため計画通りの活動であったが、全学級が同時に入れる屋内施設がないことで、雨天のプログラムを充実させることができなかった。
- ・今年度は宿の規模の差を考慮しながら学級ごとに宿を分ける計画であったが、アレルギー児童の配慮をしてクラス混合の宿泊となった。

### <アンケート結果から>

- ・「生きる力」「心理的・社会的能力」「道徳的能力」「身体的能力」の多くの項目で事前事後にかけていずれも10ポイント以上増加した。
- ・「心理的・社会的能力」の項目では、初めての集団宿泊生活を通して、友達との助け合いや責任をもって行動することを学び、自己評価の数値が上昇した。
- ・「道徳的能力」の項目では、学校外での長時間の共同生活から、他者とのコミュニケーションの大切さを再認識し、肯定的な回答が増加したと考えられる。
- ・「自分のことが大好きである。」と「からだを動かしても疲れにくい。」の項目では、ポイントの低下が見られた。4年生になり、活発に外で遊ばなくなったことや、他者への意識が強くなったことを、集団生活を通して再認識したと考える。

# 関前南小学校

# 静岡県島田市

9月13日～9月15日(2泊3日)

参加人数 男子23 女子29名  
計52名

## ○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・体験的な活動や地域の人のお話から、動物や植物の生態についての理解を深める。
- ・体験的な活動や地域の人のお話から、地形の様子や気候の特性についての理解を深める。
- ・事前学習で調べたことを発表したり、疑問点を質問したりすることができる。
- ・体験的な活動や地域の人のお話から得た情報を整理して、新たな課題をもつことができる。
- ・地域の人たちをゲストティーチャーとして招き、感謝の気持ちをもって学ぼうとする。
- ・友達と協働的に学び、互いのよさを認め、多様性を尊重する態度を養う。

## ○日程表

9月13日(水)		9月14日(木)		9月15日(金)	
7:30	学校集合 出発式	6:30	起床、検温、洗顔	6:30	起床、検温、洗顔
7:45	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
12:00	蓬莱橋着	8:00	山の家出発	8:30	閉校式
12:15	昼食	8:50	千頭駅着	9:00	島田市野外活動センター山の家
12:45	蓬莱橋見学	9:13	千頭駅発 南アルプス アプトライン体験乗車	9:30	カドデオオイガワ ・お茶ゾーン見学 ・お茶の淹れ方体験 ・お茶についての講話
14:00	牧之原大茶園発	10:08	長島ダム駅着 長島ダム見学	11:30	昼食
15:00	島田市野外活動センター山の家着	10:50	バス乗車 長島ダム発	12:30	出発
15:10	閉校式	11:00	長島公園着 昼食	16:10	学校到着 帰校式
15:30	お茶の生産の学習	11:30	散策	16:30	学校解散
17:00	入浴・学習の振り返り	12:30	資料館やまびこ着 資料館やまびこ発		
18:30	夕食	13:45	島田市野外活動センター山の家着		
19:10	明日の準備	14:00	自然体験学習 丸太切り体験 水生昆虫観察		
19:30	星の観察	17:00	入浴・学習の振り返り		
20:30	健康観察	18:30	夕食		
21:00	就寝・消灯	19:10	明日の準備		
		19:30	星の観察		
		20:30	健康観察		
		21:00	就寝・消灯		

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・お茶、大井川鐵道、水生昆虫、つり橋、ダム等、自分が探究したいテーマを見付け、インターネットを活用した調べ学習で課題解決の見通しをもたせた。
- ・地域の農家での茶摘み体験や、お茶のインストラクターを招いて製茶体験をした。
- ・宿舎での係を決めたり、過ごし方について話し合ったりした。出発式や帰校式の役割分担をし、児童が主体的に進められるようにした。

### 2 事後の学習内容

- ・国語科で、プレセカンドスクールで学んだことや生かしたいことを作文にし、まとめた。
- ・総合的な学習の時間に「3年生にプレセカンドスクールについて伝えよう」をテーマにして、まとめの学習を行った。事前に調べたことや体験したことについて、学習者用コンピュータのスライド機能を使ってプレゼンテーションを行った。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 林業体験

森林組合の方々から継続的に山を管理していくことの大切さを学ぶとともに、スギやヒノキ、ヒメシャラの特徴を教わりながら丸太切り体験を行った。



【丸太切り体験】

#### 2 水生昆虫観察

ゲストティーチャーを招き、伊久美川の河原で水生昆虫を採集して観察した。石の下の生き物を採集することにより、環境と生き物の暮らしについて考えることができた。



【水生昆虫観察】

#### 3 自然散策

資料館やまびこの職員の方に案内してもらいながら自然散策をし、途中にかかる木の橋や吊り橋を7箇所渡った。歩きながら自然豊かな川根本町の良さに気付くことができた。

### <社会体験活動>

#### 1 蓬莱橋渡り

風雨に耐えられるよう、できる限り釘を使わずに木を組み合わせて造られていることや、橋ができる以前は、人々が苦勞をしながら協力して川の向こうまで荷物を運んだこと、そして、川の両岸に広がる茶畑を往来するために、橋が重要な役割を担っていること等を学んだ。

## 2 牧之原大茶園フィールドワーク

大井川を見下ろす高台に広がる大茶園を歩いた。JAおおいがわの職員の方にお茶について分かりやすく解説していただき、大茶園の開拓に尽力した人々の歴史や、防霜ファンを回すことで茶の新芽が傷まないように工夫していること、お茶を飲む人々が減っている現状などを学んだ。



【牧之原大茶園】

## 3 金谷製茶工場の見学

茶農家が加工した荒茶を製茶する工程を見学した。製茶は、大まかに「蒸す→揉む→乾燥させる」3つの工程に分けられることを学んだ。冷蔵庫の中に入り、温度管理をしてお茶が保管をされていることに気付いた。また、機械で製茶されたものを最終的に人の手で段ボールに詰め、お店に並ぶことを学べた。



【金谷製茶工場見学】

## 4 大井川鐵道アプトライン体験乗車

機関車を連結する場面を見学したり、トンネルと鉄橋の多さや車窓から急峻な稜線を見たりしながら、アプトラインの仕組みや大井川上流部の地形を学んだ。

## 5 長島ダムの見学

ダムを見下ろす高台からダムの下まで徒歩で下り、ダムの下に架かるしぶき橋を渡ることにより、ダムの大きさを体験的に学んだ。また、しぶき橋からダムの放水の様子も見学し、1学期に社会科で学んだことを思い出しながら学習することができた。また、ダムカードの裏面の情報から、ダムの役割を学んだ。

## <生活・文化体験活動>

### 1 お茶の淹れ方体験

カドデオオイガワでは、緑茶ツアーズで自らが茶葉となり、製茶される疑似体験を経験した。また、お茶の淹れ方についても体験的に学ぶことができた。同じ茶葉から、緑茶や紅茶、ほうじ茶が生産されることや、蒸す時間や乾燥させる時間が違うと緑茶の色や、甘みと苦みの違いが出ることを学習した。

### 2 カドデオオイガワの方々の話

施設の開設に向けての人々の思いや、島田市の良さを伝えるために多くの取り組みや工夫がされていることを学んだ。お茶についてだけでなく、静岡県で作られている商品についても知ることができた。

## ○児童の感想

・蓬萊橋は、897.4mもありとても長かったです。少しギシギシしていて、最初は怖かったです。



- ・丸太切りでは、のこぎりで切れた時はすごく嬉しかったです。年輪を見て、木の年齢が分かるのは初めて知りました。
- ・緑茶ツアーでは、蒸す時間や乾燥させる時間などが違うと、味も違うことが分かりました。
- ・水生昆虫採集で友達が絶滅危惧種のアカザを捕まえていて、生き物を大切にしようと思いました。
- ・大井川鐵道で車掌さんが声を出して安全確認をする様子や、昔の歴史や自然・川の解説をする様子を見て、このようなこともしているのだなと勉強になりました。
- ・しぶき橋から見たダムは、100mほどの高さで横からもすごい迫力で水が出ていて、かっこよかったです。これくらい大きくて丈夫なダムをつくるのは、とても大変だと思いました。
- ・友達と初めて泊まって生活することで、友達のことをよく知れたし、もっと仲良くなれました。5分前行動を意識して友達と協力することで、活動がたくさんできました。

## ○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・初めての宿泊を伴う学習なので、自分の持ち物を管理することや集団生活の心構えについての指導に重点をおいた。
- ・一人一役、全児童が何らかの役割に責任をもって行う場を設定した。それぞれの役割を果たすことができるよう、準備から当日の実施に向けての指導を行った。
- ・ゲストティーチャーの方との交流を大切に、挨拶や感謝の気持ちを持ち、その場に適した言葉が言えるよう指導した。
- ・指導員の先生方の指示を聞いて行動ができるよう指導した。
- ・課題解決型学習を意識し体験したことをまとめるために、学習者用コンピュータを活用したスライド作成について指導した。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・集団生活を通して、友達と協力して生活することや時間を意識して行動することなど、学校生活とは違った環境の中で学習することができた。
- ・茶畑の規模を体験的に学ぶことができ、事前に関前地区の畑で茶摘み体験をしていたことも茶畑の広さを理解することにつながった。金谷製茶工場では、製茶する工程を見学することができ、お茶を出荷するためにどのような工程を踏んでいるかを学ぶことができた。そのことにより、お茶の学習を通して、家族のために自らお茶を淹れる児童が増えた。
- ・長島ダムでの散策ルートを変更したため、様々な角度からダム湖を見ることができた。
- ・水生昆虫の観察では、大井川に生息する生物及び、武蔵野市との環境面の違いを比較しながら学習することができた。
- ・事前から事後のアンケートでは、全体的にポイントがやや下がっているが、身体的能力のポイントが上昇した。プレセカンドスクールを通して、長島ダムの周辺散策、吊り橋めぐりなどの体験的活動を多く取り入れたことで、身体的能力のポイントが大きく向上したと考える。この経験を来年度のセカンドスクールに生かしていく。
- ・調べたことや学んだことを3年生に向けてまとめたことは児童の学習意欲を高めた。今後は、武蔵野市の特色や良さを再発見するところまで学びを深めることができるようにする。

# 桜野小学校

# 山梨県南都留郡山中湖村

9月6日～9月8日(2泊3日)

参加人数 男子77名 女子79名  
計156名

## ○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・富士山の自然に触れ、周辺の自然について理解を深める。
- ・富士山や山中湖周辺での活動を通して、武蔵野市とは異なる文化や人々に触れ、理解を深める。
- ・プレセカンドスクールの活動を通して、進んで調べたり行動したりし、自分で課題を解決する力を身に付ける。
- ・プレセカンドスクールの活動を通して、情報を収集したりわかりやすくまとめたりし、学んだことを発信することができる。
- ・宿舎での集団生活や行動班での活動を通して、友達と協力し合いながら、自主的に生活する力を身に付ける。

## ○日程表

9月6日(水)		9月7日(木)		9月8日(金)	
7:35	学校集合	6:30	起床	6:30	起床
7:45	出発式	7:00	朝の会	7:00	朝の会
8:00	学校出発	7:30	朝食	7:30	朝食
11:00	富士山トレッキング	9:00	ネイチャーラリー	8:20	大掃除
12:30	昼食	11:50	宿舎前広場 昼食	9:10	閉校式 宿舎発
14:50	宿舎着 開校式	13:20	富士湧水の里水族館着	10:30	ほうとう作り体験
15:30	入浴	15:30	宿舎着	11:50	昼食
18:00	夕食	15:45	入浴	14:30	学校着 帰校式
19:00	探究学習のまとめ	18:10	夕食		
20:00	係会議	19:00	探究学習のまとめ		
21:00	消灯	20:00	係会議		
		21:00	消灯		

## 〇プレセカンドスクールにおける学習の概要

### 1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間の単元「見つけよう、広げよう、富士山の自然から」で、富士山の自然に関する課題を設定し、調べ学習を行った。
- ・主なテーマとして、富士山の形成の過程や歴史、富士山の植物、富士山の動物などについて調べた。
- ・富士山ネイチャーガイドに「富士山の自然」をテーマに出前授業を行っていただき、富士山の自然の特徴について学んだ。その後、「もっと調べたいこと」をチームで話し合い、チームの大テーマ、個人の小テーマを決めた。設定したテーマについて、インターネットや図書資料を使って、事前に調べたことを画用紙半分にまとめた。

### 2 事後の学習内容

- ・総合的な学習の時間の単元「見つけよう、広げよう、富士山の自然から」で、現地に行って調べたことや分かったことを、画用紙にまとめた。個人でまとめた画用紙1枚をチームで模造紙一枚に集約し、3年生と保護者に向けて発表するために練習を行った。学校公開に合わせて実際にクラス毎に3年生に向けて発表を行い、3年生からは感想をカードに書いてもらった。

## 〇特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1 富士山トレッキング

ネイチャーガイドの方々が、武蔵野市では見ることができない樹木や植物について、詳しく説明してくれた。児童が飽きることがないように、イラストを示すなど、工夫しながら話してくれた。また、富士山の赤い山肌や眼下に広がる雲海に、児童は驚きを見せていた。森林限界を実際に見るなど、武蔵野市との違いを肌で感じる事ができた。



【富士山5合目からのトレッキング】

#### 2 ネイチャーラリー

グリーンヒルズニューみなみの第2グラウンドを利用して、富士山ネイチャークラブによるネイチャーラリーを行った。火起こし体験やロープ渡り、パチンコ鉄砲など、8つの自然体験活動を行った。グループで協力しながら知恵を出し合って活動する中で、友達と協力する力や自然への理解を深めた。



【やり投げ体験】

## <社会体験活動>

### 1 森の学習室

施設の方が作ってくださったパンフレットやクイズ形式のパネル掲示をもとに、富士山の自然や歴史、文化などについて学習した。大型動物の剥製などもあり、豊かな自然を実感することができた。



【富士山の自然について学ぶ様子】

### 2 富士湧水の里水族館

富士五湖や周辺の川に生息する魚を見たり、富士山周辺の自然や魚の生態について学んだりすることができた。富士山の湧水を使用した水槽は、透明度が高く、遠くにいる魚まで観察できた。見るだけでなく、富士山の湧水に手を入れたり、皮膚の角質を食べるドクターフィッシュと触れ合ったりする体験的な学習もできた。



【富士湧水の里水族館の水槽】

## <生活・文化体験活動>

### 1 ほうとう作り

学級ごとに5つの民宿に分かれ、ほうとう作りを行った。宿の方に教えてもらいながら、生地をこねて伸ばすなど、班員で協力しながら作った。昼食には、学級のみんなで作ったほうとうを食べた。自分たちで作ったほうとうの味は格別だったようで、おかわりをして普段の給食よりたくさん食べる姿が多く見られた。事前に山梨県の郷土料理について調べていたが、体験することにより昔ながらの味付けや調理方法についてさらに理解を深められ、地域独自の食文化を学ぶことができた。



【班員で協力して作っている様子】

## ○児童の感想

- ・プレセカンドスクールで身に付けた「5分前行動」をこれからも続けたいです。
- ・「自分のテーマに対する仮説→できる限り自分で調べる→自分なりの仮説を立て直す→仮説に対して現地で確かめる」の学びの形をこれからも使っていきたいです。
- ・仮説を立てたりそれを調べたりするのが難しかったけれど、答えが分かったときはとても楽しかったです。
- ・初めて富士山へ行って色々な自然を見ることができました。様々な花や植物がいっぱいあって、自分の調べているテーマの答えを見付けられて「こういうことだったんだ！」と、とても勉強になりました。来年山梨県に行く3年生に色々教えてあげたいです。
- ・班のみんなで生活したり協力したりして仲を深めることができたのが嬉しかったです。

## ○セカンドスクールとの関連(生かし方)

学年の目標に「チェンジ&チャレンジ」を設定し、児童に身に付けさせたい力である時間を守ることや気持ちの切り替え、新しいことや少し難しいことにも協力して挑戦することを意識できるように常に言葉掛けを行った。次第に児童の意識も高まり、活動の準備や片付け、宿舎や見学先で、式や会の挨拶や司会進行など、様々な場面で目標を意識して動く姿が見られた。最終日には多くの児童が、「今、何をすべきなのか」ということを考えながら、行動することができた。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

①児童の変容について（事業評価（子どもたちの「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査結果から）

全体的に、実施後に数値が下がる結果となった。児童にとって親元を離れて2泊3日過ごす「宿泊行事」が初めてで、自分が想像していたように動けなかったり、十分に自己表現ができなかったりといった原因が考えられる。また、昨年度の反省を踏まえ、設問に対する価値付けを意識して行ったが、それが児童の実感につながるまでは到達しなかったのかもしれない。しかし、児童の振り返りを見ると、「先を見通して時間を守って行動できるようになった」「友達と声を掛け合って助け合えた」など、宿泊を通して自身の成長を感じられたという内容が多く見られた。数値としては下がってしまったが、ゆったりとしたスケジュールの中で友達と多く関われる時間を十分に取れたり、班で助け合って行うネイチャーラリーなどの活動を十分に体験できたりしたことで、このような児童の振り返りの言葉につながっていると考えられる。

②日程及びプログラムの組み方について

宿舎グリーンヒルズニューみなみは、施設の規模が大きく、本校のような大規模校でも受け入れが可能である。前年度は、別棟を利用している児童は本館への移動に時間がかかったり、飲用可能な水がなかったりしたが、今年度は、別棟に配置する大人の人数を増やしたり放送を入れたりして別棟の児童の移動にも対応できた。また、今年度から別棟の水道も飲用可能になり快適に過ごすことができた。

初日の富士山トレッキングでは、交通状況や天候により、昼食の時間や場所を変更するなど臨機応変な行動が必要である。今回は、富士山5合目駐車場に到着した時に小雨だったため、奥庭駐車場へ行かず、昼食までに5合目駐車場へ引き返すという予定でスタートした。しかし、途中からよく晴れたので当初の予定通り奥庭駐車場を目指すことになった。途中の変更であったためガイドの方々と連携を取りながら対応したが、昼食の時間が予定より少し遅れてしまった。そのため、来年度以降は、トレッキングスタート後の予定変更は原則しないか、学校の出発時刻を若干早め途中で変更があっても対応可能なスケジュールを立てるなどの対策を考える必要がある。

令和6年3月発行

武蔵野市教育委員会

教育部指導課

〒180-8777

東京都武蔵野市緑町2-2-28

TEL 0422-60-1897

FAX 0422-51-9264